
なにかが違うGXと3邪神

ナム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なにかが違うGXと3邪神

【Nコード】

N0547V

【作者名】

ナム

【あらすじ】

・・・なにかが違う・・・。

なにかが違うのだ。

なにかはわからないが、どこかが違うのだ。

・・・おもに、十代とか精霊とかが。

どうやら死んだようだが・・・。

俺の目の前に、四季映姫様のような人が、座っている。

・・・かわいい・・・。

「あなたには、転生してもらいます。」

・・・彘・・・？

いや待て・・・死んだ記憶ないんだけど・・・。

・・・とりあえず、お持ち帰りしても、いいですか？

マジかわいいよ閻魔様・・・。

「本来ならば、あと77年生きたはずです。」

・・・無駄に長生きしたんだな・・・俺・・・。

「で、転生先を、リストにしてみましたので、その中から、選んでください。」

どれどれ・・・うん・・・いろいろとおかしいね

転生先リスト2011

・バイオハザード

・日常

・北斗の拳

・リリカルなのは

・ドラクエ

・遊戯王GX

・ランダム

・ギャグ漫画日和

・ブラックロックシューター

・モンハン

・ポケモン

・スターウォーズ

・トランスフォーマー（コンボイ）

・マリオ

- ・東方
- ・ガンダム（初代）
- ・初代遊戯王
- ・ネウロ
- ・もう一つの現実

「遊戯王GXで。」

・・・ほとんど死亡フラグだし、ほとんど普通に死ぬし。

「わかりました・・・。」

なにか望むものはありますか？」

「全カード9枚ずつ

キラメル4箱とハバネロ4箱

俺の『現実』でやっていたアニメのDVD全部で。」

「・・・わかりました。それでは転生させますね。（そんなんじゃ虫歯になりますよ・・・。）」

そう呟いた瞬間、真つ暗な穴が・・・。「ああああああああ

ああ。」

どうやら死んだようだが・・・。(後書き)

今回が初投稿です。

褒められると伸びます。

罵倒されても興奮しません。

見苦しい点や誤植などが、ありましたら、ご指摘お願いいたします。

実技試験に遅刻・・・乗る電車まちがえた・・・（前書き）

前回の続き：あの世から落ちてきました。

実技試験に遅刻・・・乗る電車まちがえた・・・

視点：主人公

場：受験会場

ガスの元栓閉めたかな？と心配しつつ受験票を受け取る。

まあ、ぼちぼちやりますか。

門1

ダークカメラに収縮を使った時の攻撃力を答えよ。

・・・え・・・なぜダーク・カメラ？

805・・・だよな・・・。

門2

エラーカードを3枚答えよ。

・・・まあ、難しいな。これ。

ほとんどの問題は分かったのだが、ある問題で、手が止まった。

門88

オレイカルコスと名のつくカードを3枚答えよ。

マテ社長、この問題はいろいろと問題があるよ社長。

この問題はひとまず置いて、ほかの問題をやるつ。

受験番号は108番だった。

・・・一覧ずらして書いてしまったようだ。

『受験番号108番、月影永理さん
4番の決闘場に移動してください。』

・・・俺の出番か・・・。

今更だが、自己紹介だ。俺は月影永理。元の世界では学生だった。
って、誰に言っているんだ俺は。

俺がそう呟いているといつの間にか決闘場につまづいた。
周りから笑い声が聞こえる・・・その前に顔が痛い・・・。

「君が受験番号108番か。

よろしく。」

「よろしくおねがいます。」

「デュエル」

「私の先行、ドロー。」

私は、魔法カード『古のルール』を発動。

手札から『コスモクイーン』を特殊召喚。」

女王様がフィールドに現れた。・・・タイプじゃないな・・・。

「私はカードを1枚伏せ、ターンエンド。」

あいつ終わったな。

可哀想に・・・と聞こえてきたが気にしな～い気にしな～い。

「俺のターン、ドロー。」

手札から魔法カード『デスメテオ』『火炎地獄×3』を発動。」

・・・なんか口からエクストプラズマーみたいなのが出ているが気にしないことにしよう。

さあ、デュエルだ（前書き）

オリカ出します。

さあ、デュエルだ

視点：月影永理

合格通知が届いた。

レッド寮なのはいい幽霊もこの際どうでもいい
問題なのは

「なぜ貴様らがいる・・・『邪神』共」

俺が疑問に思っていることを口にするのアバターが
「神に不可能などないっ」て、言っていた。

しばらくの間邪神たちとマ○オゴルフを

やっていたら、歓迎会の時間になったので行った。

邪神たちがズルいぞとか言っていたが、無視した。

料理？・・・美味かったとだけ言っておこう。

俺は食後の、デザート（ちなみに今日はエビフライだ）を

食べていると、PDAからにやんにやんにーはおにやんと聞こえて
きた。

どうやら、万丈目たちとのデュエルのようだ。

メールの内容から、そうだろう。

ちなみにフェバリットカードは『モリンフェン』だ。

まあ、アイドルカードみたいなものだが・・・。

デュエル自体は別に良いのだが

デザート時間を邪魔した代償・・・きちんと払ってもらおう。

俺がそう思っていると幽霊の栄ちゃんから顔が怖いって言われた。

ちよっとへこみつつ俺は着信音を替えた。

何に変えたって？最終鬼畜妹です。

俺がデュエル場に行くと、万丈目たちがいた。どうやら俺が先にデュエルらしい。相手は水色のほうか・・・まあいい。我がサンプルデッキの一つ大邪神祭のモルモットにしてやる。

「『デュエル』」

「俺のターン、ドロー。」
先行が取られた・・・俺の、勝ちも決定したな。俺がそう思っていると、モブーがゴブリン突撃部隊を召喚してデーモンの斧を装備させターンエンドした。罠カードぐらい伏せるよエリート（笑）

「俺のターン、ドロー。」

俺は手札から『嘆きの幽霊』を特殊召喚
俺の場に嘆きの亡霊みたいなのが現れた。
友達になりたいな・・・。

「俺は『嘆きの幽霊』を生贄に捧げ
『邪教神官』を召喚」

嘆きの幽霊が崩れ落ちて
ハーゴンみたいなのが出てきた。

「『邪教神官』を生贄に捧げ
デッキから

『邪神アバター』を特殊召喚。」

邪教神官が闇に飲み込まれ、黒い丸が現れた。
登場時『映画のタイトルになりました』
と言っていたが、情報が・・・古いよ。

「魔法カード『死者蘇生』を発動
墓地から『邪教神官』を特殊召喚

『邪教神官』を生贄に捧げ『邪教幽霊』を
デッキから特殊召喚。」

俺の場に蒼い幽霊が現れた。

まあまあ可愛いな、勿論クリボーみたいな感じだ。

「『邪神アバター』でこうぐ「ガードマンが来たわ
見つかったら退学よ。」
「えっ」

あと少しなのに・・・あと少しで勝てるのに・・・。

そう思いつつ、俺は逃げます。十代が騒いでいるが無視していった。

「で、どうだった？ブルー生徒の洗礼を受けて。」

「話にならん弱すぎる面白くもない眠いエビフライが食べたいたいリオ
レイアが倒せない」

「後半から、関係なくなっているわよ。」

「大丈夫だ、問題ない」

俺は明日香を軽く受け流しつつ、帰った。

視点：明日香

見たことのないモンスターを使う生徒
面白そうな人・・・。

さあ、デュエルだ（後書き）

初の原作キャラ 初のオリカ

ほぼ初の後書きというのも珍しいんじゃないでしょうか。
今回初めてまともにデュエルを書きました。

・・・モリンフェンは弱い？表に出る。

オリカの説明は下に書いておきます。

『嘆きの幽霊』

レベル：2

闇属性

攻撃力：666

守備力：2200

アンデット族：効果

このカードはフィールドに存在しない場合

このカードは『邪神』として扱う。

自分フィールド場にモンスターが存在しない場合
手札から特殊召喚できる。

『邪教神官』

レベル：5

攻撃力：1940

守備力：4500

闇属性

悪魔族：効果

このカードを生贄に捧げ『邪神』と名のついた

モンスターを一体、召喚制限を無視して

デッキ特殊召喚する。

『邪教幽霊』

攻撃力：0

守備力：5000

レベル7

闇属性

アンデット族：効果

このカードの攻撃宣言時攻撃力を4000ポイントアップする。

このカードは戦闘によっては、破壊されない。

トランプ発動げき りゅう そつ (前書き)

TFのレイルート、やっと全部クリアできた。
レイ可愛いよレイ。

トラップ発動げき りゅう そう

視点：月影

テスト前日に、隣の部屋から呪詛のようなものがきえてきたからのぞいてみると……。

オシリスに拜んでいました。

翔よ、なぜそんなにも、死者蘇生を持っているのかね。

たしか、かなりのレアカードだったはずだが……。

そう思いつつ、俺は布団に潜った。

視点：ジエド……ゲフンゲフン……十代

月影が起きてこない……。

寝ているんだろうか。

いや

それはないなと……

そう思っていた時期が、俺にもありました……。

だって寝てるし……。

昨日の黒丸がそう言っていたし……。

でも、もう8時だぜ？寝すぎじゃないか？

俺がそう思っていると

黒丸が『昨日、徹夜でオンハンをやっていたからね』って答えた。

俺が月影を起こそうとすると寝言で

「トラップ……発動……げき りゅう そう」って、言っていた。

「じゃあ、俺は先に行くぜ。」
『いつてらっしや〜い。』

今思えば、あいつ等見たことないカードだった。

視点：ドレッド・ルート

ぐっすり寝てるな・・・

あいつは・・・。

と思いつつ俺はあいつを起こす方法を考えた。

拷問車輪・・・は駄目だったな・・・。

バイサー・シヨックは・・・起きなかったな・・・。

・・・よし諦めよう・・・。

そう決めつつパソコンの電源を付けた。

視点：十代

結局、来なかったな・・・授業・・・。

明日・・・テストなのに・・・。

あと翔・・・その儀式みたいなの怖いからやめて。

翌日

視点：寝てた人

4日ぶりに寝た気がするが、たぶん気のせいだ。

そう思いつつ俺は寮を、あとにした。

テスト・・・だと・・・。

まあ、この程度の問題、35分あれば十分だ。

あとは・・・、実技か・・・。

恐らく相手は、前のアイツだな・・・たぶん。
そう予想しつつ、俺はデュエル場へ向かった。

「貴様が相手か・・・。

昨日の借り、返させてもらう。」

「返品はお断りです。」

「デュエル」

「俺の先行、ドロー。」

手札は・・・まあまあだな。

「俺はモンスターをセット

カードを伏せ、ターンエンドだ。」

「俺のターン、ドロー」

俺は、魔法カード『ワン・フォーワン』を発動。

手札の『ボルト・ヘッジホッグ』を墓地に送り

デッキから『千眼の邪教神』を特殊召喚。

『ジャンク・シンクロン』を攻撃表示で召喚。

『ジャンク・シンクロン』の効果により『ボルト・ヘッジホッグ』
を特殊召喚。」

ワンターンでシンクロをするのは凄いが、俺はその斜め上に行く。

「トランプ発動『激流葬』」

相手が「な・・・なんだってー」って顔をしている。だが、まだ相手のメインフェイズは終了してないぜ。

「破壊された、『ワイズ・コア』の効果、発動。

自分フィールド場のモンスターカードをすべて破壊しデッキから

『機皇帝キョウテイワイゼル』

『ワイゼルT』

『ワイゼルA』

『ワイゼルG』

『ワイゼルC』を特殊召喚する。」

まわりから「きれい」

とか「ガンダムですか？」

とか「ふつくしい」

とか、聞こえてくる。

「さつさと、エンド宣言をしな、モブ1」

「・・・カードを・・・伏せ

ターン・・・エンド・・・。」

これでジ・エンドだな。

「俺のターン、ドロー」

俺は魔法カード『ハリケーン』を発動。」

生暖かい風が、辺りを駆け巡ると、モブ1の伏せていたカードが飛んでった。

「手札から永續魔法『一族の結束』を発動し、バトル

『機皇帝ワイゼル』で攻撃。

爆熱ゴッドフィンガー。」

どこからか『Gガンダムですか？』と聞こえたが、気にしないよう

にした。

ワイゼルが相手に突っ込んで・・・爆発?!!

さすが社長、俺たちじゃできないことを、平然となつてのける
そこにシビれる憧れるう。

まあ、イエローへの昇格は無かつたんだけどね。

前編：主人公が、敵サイドに入るって、どうなの？

視点：アバター

『『憑依するブラット・ソウル』でダイレクトアタックです。』
『ヒデブツ。』

どうも、アバターです。

俺は、栄ちゃんと、デュエルをしました。

『ぐ・・・偶然ですよ。』

『偶然で、14回も負けるか・・・普通？』

『栄ちゃんに、勝ったこと、一度もないもんね。』

『あべしっ。』

昨日は、ビートだったから、ロービートを構築したのに・・・。

何故負けるのだ。あれか、3邪神（俺たち）は弱いのか？

「お前が弱いだけだろ。」

『たわらばっ』

酷いよ酷いよみんな酷いよ。

（そう言えば、初めて喋ったなあ私。）

そう静かに思う、栄ちゃんでした。

視点：月影

アバターが今日も負けたようだ。

栄ちゃんは、なぜ憑依するブラット・ソウルを入れているんだろう。
アバターは、どう考えても弱すぎるな・・・。

さて、PCで幻想郷でも、しますかな。

PCの電源を入れた。

数時間ぐらいたったので
なんとなく、廃寮に行きたくなったので
PCの電源を切った。

〈少年移動中〉

適当にぶらぶらと歩いていると
明日香の姿が見えた。
あとを追いかけると、あの人がいた。

「我が名は、タイタン。

闇のデュエリストだ。

かかってこい遊城じゆうd・・・だれだっ!!」

「俺の名は、月影永理

十代を狙っているらしいなあ。」

「貴様、なぜそのことを、お前が

知っている!!!」

お前が言っただろ、お前が。

「そんなことはどうでもいいだろ。

貴様が十代を狙っているのなら、俺と共に戦え。

「何故？貴様には、メリットなど無いはず。」

疑っているなあ、当たり前か

俺にはメリットなど無いからな。

「俺は奴が気に入らないから

潰したいと思っている。

ただ、それだけだ。」

「十代が、フそんなにも嫌いなのか？」

「当たり前だよ。」

(そんなにも、嫌われているのか・・・あいつは)

「だが、貴様のデツキでは、私との相性が・・・。」

「問題は、そこなn」話は、すべて聞かせてもらった。「だれだ！
! !」

声が出たほうを、見ると、万丈目が立っていた。

なぜこんな時間に・・・？

「・・・何の用だ、万丈目。」

「万丈目さんだ。」

どっちでもいいだろ。

「まあいい。」

タイタンとやら、十代とのデュエルはこの俺

万条目様が、やる。」

「なら、ストーリーを用意しないとなあ。」

俺はさっそく作ったストーリーをタイタン達に教えた。

我ながらいいストーリーができたぜ。

視点：遊城 十代

俺たちが、廃寮を探検していると

明日香の悲鳴が聞こえた。

「ひいっ、きつと彼氏が浮気して

それに絶望して自殺した女性の霊の声っすよ。」

どう聞いても明日香の声だったんだが。

ビビり過ぎじゃないか？

「アニキ、もう帰りましようよ。」

「も・・・もう、帰ったほうが、い、いいと、おおお思っんだな。」

みんなビビり過ぎだろ。

「でも、どう聞いても、明日香の声に、聞こえたんだが？」

俺たちが、悲鳴のした方向に行くと
月影と万丈目がいた。

「我が名は、タイタン。
闇のデュエリストである。」
セルだ。セルに、そっくりの声だ。

視点：月影

まんまと引っかかりおったな、ヴァカめ。
すべて、計画どおりだ。

十代はさらわれたと思っっているらしい。

(万条目、計画どおりに、行くぞ。)
(万条目さんだ。)

・・・そろそろか。

「貴様の相手をするのは、俺じゃない。
こいつらたちだ。」

十代が、なんか騒いでいるが気にせず
タイタンは、ストーリーを進めた。

「このデュエルに、負けた者は闇に葬られる。
言わば、闇のゲームだ。」

「闇のゲームなんて、あるわけがねえ。」

「信じるか信じないか、どちらにせよ

・・・助かるのは、貴様らか、こいつらか・・・だ。」

勿論、嘘だな。

だが、奴は単純だ。すぐに信じるだろう。

此処までは、ストーリーどおりだ。

さあ、遊びの始まりだ。

「デュエル」

今回は、タイタンはデュエルをしないらしい。
みごとな、原作ブレイクだな。

「俺の先行、ドロ。」

ひひひ、我が新たなるデツキの力を思い知るがよい。

「俺は手札から魔法カード『愚かな埋葬』を発動する。

デツキから『DT・デスサブマリン』を墓地に、送る。」

「聞いたことのないカード

でも僕のデツキの敵じゃない。」

くくく、俺がその幻想をぶち殺す。

「『DT・デスサブマリン』の効果、発動。

蘇えれ、デスサブマリン。」

俺の場に、黒い潜水艦が現れた。

「俺は、手札から『邪神の器』を、特殊召喚。

レベル1『邪神の器』にレベル9『DT・デスサブマリン』をダー

クチューニング。」

「『ダークチューニング?!?!』」

シンクロ召喚時とは違い、邪神の器が闇に飲み込まれた。

1-9-8

「全てを呪殺する闇の龍よ。我が使い魔を贄にし

我が勝利を約束せよ。

ダークシンクロ召喚、『破滅の邪龍 サタン』召喚。」

真っ黒な龍が俺の場に現れた。

ちなみに噂ではサタンというのは、一個体を示しているわけではな
い、らしい。

「ダークシンクロ?おい永理、そんな召喚方法聞いたこともないぞ。」

「すつげえ。これが永理の・・・モンスター・・・。
でも破壊できないモンスターはいない、絶対勝てるわけではないぜ。」

勝てる？無理だろ。

てか、このカード、能力が、チートだな。

「『邪神の器』の効果により、デッキから

『邪神イレイザー』を手札に加える、」

まあ、がんばって倒してくれよ？俺のモンスターを。

前編：主人公が、敵サイドに入るって、どうなの？（後書き）

ついに出しました。ダークシンクロ。
では、オリカの、説明をいたしますね。

『邪神の器』

レベル：1

闇属性

攻撃力：0

守備力：0

悪魔族：効果

このカードは、自分フィールド場にDTと名のつく
モンスターが存在する場合、特殊召喚できる。

このカードが、ダークシンクロ召喚の素材として、墓地に送られた
とき、デッキから、邪神と名のついたモンスターを手札に加えるこ
とができる。

『破滅の邪龍 サタン』

レベル：-8

闇属性

攻撃力：0

守備力：1500

「DT」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体
このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する「
DT」と名のついたチューナーのレベルから、

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルを
引き、その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない
このカードが戦闘を行う場合、デッキから闇属性モンスターを墓地
に送る事ができる

このカードの攻撃力は、墓地の闇属性モンスター1体につき、60ポイントアップする。

後編：主人公より敵が好きです（前書き）

万条目を強化しすぎました。
だが、自嘲しない。

後編：主人公より敵が好きです

視点：万丈目

「カードを2枚伏せ、ターンエンドだ。」

まさか奴が1ターン目から、ダークシンクロを使うとは本来は出しにくいと、永理から聞いていたが。次は・・・水色の髪のドロップアウトか。

「僕のターン、ドロー。」

手札から『沼地の魔神王』を捨て、『融合』を、手札に加える。」

まさか、1ターン目から、融合をするというのか？

まあ、遊城十代よりは、ましか・・・。

「手札の『サイバー・ドラゴン』2体を融合。」

まさか出るのか？1ターン目から。

「『サイバー・ツイン・ドラゴン』を融合召喚。」

アレ、もの凄くヤバいんじゃないや。

「ターンエンドだ。」

馬鹿かこいつ、カードぐらい伏せるよ。

「俺のターン、ドロー。」

手札から魔法カード『ワン・フォー・ワン』を発動
手札の『ヘル・ドラゴン』を捨て、デッキから

『ヘルセキユリテイ』を特殊召喚
さらに、魔法カード『地獄からの誘い』発動
このカードは、自分フィールド場に、ヘルと名のついたモンスター
が存在するときのみ
発動が可能、手札または墓地から、レベル6以下のヘルと名のつ
いたモンスターを1体特殊召喚する。
俺は墓地から、『ヘル・ドラゴン』を特殊召喚する。
俺は、レベル4『ヘル・ドラゴン』にレベル1『ヘルセキユリテイ』
をチューニング。」

馬鹿みたいに手札が良いな。
だが、俺は自嘲しないぜっ。

「地獄より来たりし暗黒の書物よ。長き封印を解き、我が土地に現
れよ。」

シンクロ召喚、呪殺せよ、『地獄の書物』。」
ドロップアウトボーイ達が騒いでいるが、無視しよう。

「『地獄の書物』の効果、発動。
手札の地獄と名のついたモンスターを1体、墓地に送ることで、効
果発動。」

相手フィールド場のモンスターのコントロールを、1体得る。
さあこい。『サイバー・ツイン・ドラゴン』。」
「ああ、僕の『サイバー・ツイン・ドラゴン』があ〜。」
「カードを一枚伏せ、ターンエンドだ。」

あれ？俺のデッキって、こんなにも展開力あつたっけ？

視点：月影

万条目よ、手札消費しすぎだ。

だが、手札の消費量が2枚で、ダークシンクロの俺は、どうなるん

だろう。

しかし・・・十代がいきなりシャイニング・フレア・ウイングマンを融合召喚したのには、驚いた。

アイツのドローは、もはやチートだな。

「俺のターン、ドロー。」

俺は『マンジユ・ゴッド』を召喚する。

『マンジユ・ゴッド』のモンスター効果により

デッキから、『高等儀式術』を手札に加え、発動する。

デッキから『モリンフェン』『青眼の銀ゾンビ』を墓地に送り、『

闇の支配者 ゾーク』を

儀式召喚。」

へんな仮面を被ったおっさんが出てきた。

おお、きもいきもい。

「だ・・・闇の支配者 ゾーク・・・？」

「なんか怖いつすよ。」

(永理・・・エグイことするなあ。)

(全く台詞がない、特別ゲストなのに・・・。)

・・・タイタンすまぬ。

「『闇の支配者 ゾーク』のモンスター効果、発動。

ダイスロール。」

出た目は、2。

「ひひひ、スーパークリティカル、敵モンスターを、すべて破壊する。」

ゾークが闇の波動？を出し、十代達の、モンスターを滅ぼす。

サイコーだ、サイコーな状況だ。

「更に、トラップカード、『針虫の巣窟』を発動。デッキから5枚、墓地に送る。」

このカードによって墓地に送られた闇属性は5枚、よって『破滅の

邪龍 『サタン』の攻撃力は3000アップする。

バトル、『破滅の邪龍 サタン』で、丸藤にダイレクトアタック。

『ソロモン72柱の裁き』」

「うわあああああ。」

「次、『サイバー・ツイン・ドラゴン』で、十代に攻撃、『レボリ

ューション・ツイン・バースト』」

「トラップ発動『攻撃の無力化』。」

「カウンタートラップ発動『盗賊の7つ道具』。」

「えっ、ってうわあああああ。」

あっ、やばっ、十代達倒しちゃったよ。

まあ、いいか。

その後、十代達の目をさまさせ、俺たちは各自自分の寮に戻った。

勿論、明日香も起こしたぞ。万丈目が。

・・・キルしか、してないような気が・・・。

後編：主人公より敵が好きです（後書き）

万丈目にオリカをつかわしたらこんなことに
万丈目、まだいたっけ？このころ。

では、毎回恒例のオリカ説明を開始します。

『地獄の書物』

レベル：5

闇属性

攻撃力：0

守備力：3000

悪魔族：効果

チューナー＋地獄と名のついたモンスター

手札の地獄と名のついたモンスターを、捨てて発動する。
相手フィールド場のモンスターの、コントロールを得る。
」

フタエノキワミ、アーーーーー（前書き）

今回は、デュエルほぼ無しです。

フタエノキワミ、アー————

視点：永理

前回、十代達と廃寮でデュエルし、寮へ、戻った。
恐らく、みんなはもう、寝ているだろうか……。
そんなことを、考えつつ、ファミコンの電源を入れた。
やはりチーオーマンは難しい。

チーターオンを何とかクリアすると不意に魚が食べたくなった。
『出かけるんですかあ？』

「少しばかり釣りにな……。。」

『でも、もう3時ですよ？』

アバターさんたちは、もう寝ましたよう。』

「大丈夫だ、問題ない。」

たしか、釣り具は屋根裏の物置に、置いてあったはずだ。

数時間が経過しただろうか、太陽が昇り始めている。
しかたない、釣りはあきらめるか。
デッキでも、作成しますかな。

〈数分後〉

できた、最高のネタデッキ、『CCO』が。

『CCO』ってなにかって？ニコニコで調べる。

デッキテストとして、アバターとデュエルでもしますかな。

「起きろ、雑魚神、OCG効果のオベリスクで破壊するぞ。」

『あと、5分寝かせて……。』

「却下、今すぐ起きろ、燃やすよ?」

『すいません、生意気言ってますいません。』

「よし、ならばデュエルだ。」

「デュエル。」『眠い・・・デュエル。』

くデュエルはしょうりゃく「忒の秘剣、グレンカイナ。」あつつう
いよおい。く

『また負けた・・・。』

弱い、弱すぎる。

お遊びデツキに負けるなんて。

こいつはほんとに神なのか?

『畜生、次は格ゲーで、勝負だ。』

く対戦はしょうりゃく「しゅーりゅーけん。」ぎゃあああああああ
あく

『何故だ、なぜ負けた。』

「やりこみ時間が、違うのさ。」

『煩いですよ、静かにしてください。』

「『すんません。』」

アバターとの対決も飽きたしエグゼ4でもやりますか。

そう思いゲームボーイの電源を入れた瞬間プツンと切れた。

ドアがドンドンとなっているが気のせいだろう。

『・・・煩い・・・。』

「よし、ならば貴様が出る。」

『サーイエッサー。』

「扉を開ける、さもなくば、爆破す」『どなたですか?』「うわああああ。」

「・・・なんたる。すごい面倒事に、巻き込まれそうな気がする。」

「何の用ですか?ドリフヘアーさん。」

「誰がドリフかつ。」

「で、何の用ですか?ドリフエアーさん。」

「だからドリフヘアーじゃなくて、てかなんでそんなの知っているの?。」

「好きな番組だから。」

「古いよ、昭和の番組だよ。」

「で、何の用だ?」

「はあ、なんか疲れる。・・・ゴホン・・・」

我々はアカデミア査問委員会の者だ。月影永理
ついてきてもらおう。「」

「・・・めんどい眠いし少しからかおうかな。」

「ついてきてほしいにゃん って言ったら、ついていじつ。」

「つな、そ、そんなこといえるかぁー!。」

顔真っ赤にして、まあまあ可愛いな。

自重しろ?だが断る。

「じゃあご主人様あゝ、学校の時間ですにゃんと、言ってもいいんだぜ。」

顔が真っ赤だなあゝ飽きた。

「おい行くぞ。」

「(恥ずかしい、でも言わなく。(えっ?あ・・・はい。」「

「だゝかゝらゝ、ペットは犬が一番だつて。」

「いやいや、ペットにするなら、猫が一番でしょ。」

「ゴ○ブリもけっこう可愛いぞ。」

「え？飼ってるの？」

「いや、可愛いじゃん。」

「それはない。」

「ゴ○ブリを買うのは、さすがになあ。」

「少しは静かにしろ。運転に集中できん。」

酷いや。

「着いたぞ、ほら、降りろ。」

～校長室へ移動中～

どうやら退学らしい。

制裁デュエルで、負けたら退学、勝ったら無罪放免らしい。

十代と翔がタッグを組んで、俺がシングルでデュエルをすることになった。

「話は澄んだか？俺はもう、寮に帰ってもいいよな？」

「はい、一通りのことは伝えましたから、もう帰ってもいいですよ。」

「では、さくらば。」

「ちよつ、ここは3階ナノーネ。」

「ここから飛び降りるナン？テ、正気でスノ？」

「……無事、みたいなんですが。」

（あのドロップアウトボーイは、ほんとに、人間ですノ？）

～少年移動中～

さて、帰ってまいりました夢のジメジメホーム。

外で、デュエルがあったみたいだけどどうでもいい。
ロマサガを、クリア、するまで、ファミコンをやめない。

「少年ゲーム」パワーをメテオに。」あつつう。

満足満足、さて、明日の

制裁タッグデュエルのために、デッキでも作りますか。

レイド寮は、今日も平和である。

対戦相手はギャンプラー

視点：永理

制裁タッグ決闘当日

ね・・・眠い。

まさかデッキ制作中に新たなネタデッキが思いつきさらにネタデッキが（以下エンドレス）

ノリで7個も作っちゃったよ。

「大丈夫？」

「天上院殿、君はこの顔色で元気と思うのかな。」

「全然、昨日は寝たの？」

「デッキ作成に4時間、釣りに1時間、睡眠時間はわずか30分。いつ、どこで、倒れてもおかしくない。」

（こいつ、馬鹿なの？退学がかかっているのよ。）

うわっ、可哀想な人を見る目だよこの人。

まあ、仕方ないっちゃあ、仕方ないか。

「そろそろ時間だぞ、天上院殿。」

「私のことは、明日香でいいわ、時間ね、行くわよ。」

はいはい、元気があって、よろしい。

・・・遊戯って、伝説のデュエリストだったんだ。

まあ、がんばれ十代、嫌いだけどな。

十代たちの相手は迷宮兄弟、どこぞの配管工のカラーリングだな。

まずは迷宮兄のターンだな。

地雷蜘蛛を攻撃表示で召喚しエンド宣言。

カードを伏せるカードを

仮面コンビのほうが強いんじゃない？

次は十代のターン。

1ターン目から融合とは、チートドロもいい加減にしろ。

「いかりや「しょーりゅーけーん。」があああああ〜

十代がE・HEROフレイム・ウィングマンで、止めをさした。

それと同時に、パソコンの電源をOFFにした。

お嬢様強すぎ。

眠いけど、これで勝ったら廃寮をくれるらしい。

『裁判デュエル勝者遊城十代&丸藤翔なノ〜ネ。

まだ終わらない裁判デュエル、続きましては、

彼の有名なデュエリスト、武藤遊戯の親友であるデュエリスト、
城之内克也なノ〜ネ。

対する相手は史上最恐のデュエリスト、彼に常識は通用しない、
月影永理、両者デュエル場上がるノ〜ネ。』

やっと俺の出番か。

ギャラリー達がうるさい、寝てないんだから、頭が痛くなる。

「退学が懸かってるらしいが、手加減はしないぜ。」

「ふうん、凡骨デュエリストが、粹がるんじゃない。」

「凡骨つてゆるな。」

「デュエル」

「俺のターン、ドロー。」

俺は『ワイバーンの戦士』を攻撃表示で召喚、カードを2枚伏せ、ターンエンドだ。」

ワイバーンの戦士・・・

所詮凡骨は凡骨だな。

「俺のターン、ドロー。」

『キラー・トマト』を攻撃表示で召喚。

カードを1枚伏せ、ターンエンドだ。」

「『キラー・トマト』・・・その気持ち悪いペットちゃんを倒してやるぜ。」

俺のターン、ドロー。」

手札から儀式魔法『黒竜降臨』発動。

手札から『真紅眼の飛竜』を生贄にし、『闇竜の黒騎士』を儀式召喚。

そして、このカードを生贄に捧げ、デッキから、『真紅眼の黒竜』を特殊召喚。」

真紅眼ぐらいで騒ぐなや、うるさい。

あの程度、雑魚モンスターだろ。

「バトル、『真紅眼の黒竜』で、『キラール・トマト』を攻撃
黒炎弾。」

黒竜が、トマトを焼き焦がす、香ばしい香りが当たりに広がり、充
満する。

今日の晩飯はマルゲリータにしよう。

「『キラール・トマト』の効果発動、デッキから『ボーガニアン』を
特殊召喚。」

「『ワイバーンの戦士』で、『ボーガニアン』を攻撃。」

ワイバーンがボーガニアンを切りかかろうとする。

どうでもいいけどワイバーンなのに戦士でトカゲ人間で獣族だよな。
テキストやら名前やら種族がバラバラで、設定に全く統一感のない
モンスターだな。

「畏カード『過ちの加護』を発動、このカードは、闇属性モンス
ターが

攻撃対象に選択されたとき、発動が可能。

そのモンスターの攻撃を無効にし、そのモンスターの攻撃力分のダ
メージを与える。」

ボーガニアンの弓から黒い光が出、ワイバーンの戦士の攻撃を防ぐ。
・・・主人公が使うカード名じゃないな。

「くっ、ターンエンドだ。」

「俺のターン、ドロ。」

くくく城之内い、貴様にとって最悪のカードを拝ませてやる。

「さあ、ボーガニアンよ、苦痛の矢を放て。」

「へん、その程度のダメージ屁でもないぜ。」

貴様の余裕もそこまでだ。

「貴様のモンスター2体を生贄に捧げ、『溶岩魔人ラバア・ゴーレム』を特殊召喚。」

ギャラリーから、あいつバカか？相手フィールドに、攻撃力3000の

モンスターを特殊召喚するなんてとか聞こえてきた。

貴様が馬鹿だヴァカめ。

「ターンエンドだ。」

さあ、もがき、苦しみ、絶望の淵へと落ちろ。」

あゝ楽しつ、城之内トラウマデッキは、使いやすいな。

「お、俺のターン、ドロー。」

「この瞬間、溶岩魔人の体が崩れ、貴様のライフを削りゆくぞ。」

ラバア・ゴーレムの体が崩れ、城之内に降りかかる。

「うつ、ラバア・ゴーレムで『ボーガニアン』を攻撃い城之内ファイアー。」

「罠カード『拷問車輪』」

「はあ？そんなのアリかよあゝ。」

ラバア・ゴーレムの、体を、拷問車輪が挟む。
シユールだ。

「ターンエンドだ。」

「俺のターン、ドロー。」

さあ、チェックメイトだ。

「『ボーガニアン』 & 『拷問車輪』の効果で、死ぬ。」

「ぐっ、うわあああああ。」

『し、勝者月影永理なノ〜ネ。(ま、まさか城之内さんまで負けるなんて、あいつには常識なんて本当に通用しないデス〜ノ。)]

「校長先生、もう帰ってもいいですか？

寝てないので。」

「はい良いですよ。ゆっくり休んでくださいね。」

周りから外道だ、酷い、つて聞こえてくるが、いったい何故だろう。

『自重しろサディストめ……。』

「俺は女性には、マゾヒストだぞ。」

オチはないよ。

対戦相手はギャンプラー（後書き）

（オリカ説明）

『過ちの加護』

通常罫

自分フィールド場に存在する闇属性モンスターが

攻撃対象に選択されたとき、発動が可能。

そのモンスターの攻撃を無効にし、そのモンスターの攻撃力分のダメージを

相手ライフに与える。

このカードの発動は、無効化されない。

熱中症にご注意を。

視点：永理

「夏。」

「つくし。」

「獅子。」

「シルク。」

「クマノミ。」

『水色のレオタード。』

『同性愛。』

どうも、永理です。

夏休みも冬休みも終わりました。部屋にはコミケで培ったゲーム、小説、同人誌などが、散乱しています。

今万丈目たちと、しりとりをしています。

体育？ナンノコトデスカ？

「イチジク。」

「クリスマス中止のお知らせ。」

「せ？・・・せー、せー、・・・栓？」

「『『『『黒川唯一アウト、罰ゲーム。』』』』」

「えっちよまつ。」

「では、罰ゲームはくじ引きで決める。」

「「「「『』』おおう。『『『『『『『」」」」」」」」

罰ゲームは何か？さあ、引くのだ黒川唯一。

「引いたくじは、なんと初恋の相手を暴露だ。」

この罰ゲームは引いたくじで、運命がきまる。

今食べたいものから初恋の相手まで、引いた内容をすべて暴露しなければならぬ。

さあ俺を楽しませろ、初恋が叶ったってんならポッコポッコにしてやんよ。

何度もしつこく黒川唯一に、言え言えコールが、発せられる。

はい、言ーえ言ーえ言くるぶしあ。

何？何が起きたの？

十代君？なんでここに？

まさか

まさか

まさか、明日香イベントが、起こるのか？

こんな暑い中で？

態々外で？

「実はカクカクシカズカで、明日香のフィアンセを賭けたデュエルをしてほしい。」

「よしことわ」「断ることは許さないよ。」「誰だお前は！！」

声のしたほうを、見てみると、さわやかという単語が似合言いそうな
いかにもモテてます的なオーラを出している人がいた。

「いかにも、モテませんって人たちが、集まる場所って感じだなあ。
どうしてこんなところでたむろってる奴が、彼女と仲がいいのかね
え。」

OK、こいつ潰す。
精神を完全に崩壊させてやる。

我々ゲームD E デッキ作成部を侮辱したこと、公開させてやるよ。

「「デュエ」お餅焼けましたよ。」・・・。「」

少年たち食事中

ではあらためて

「「デュエル」」

「さあやってまいりました。

『第一回テニス部vsゲームD E デッキ作成部』モテる漢に殺意が
走る。』

解説は私アバターと。』

「万丈目がお送りいたします。」

注：邪神たちは実体化したり精霊化したりします。

「僕のターン、ドロ。」

僕は手札から魔法カード『サービスエース』を発動。

このカードは、手札からカードを一枚選択し、相手はそのカードの種類を当て、当たった場合そのカードを破壊するでも君が外したら1500のダメージだ。さあ、当ててみな。」

サービスエース・・・相手はギャンブルデッキか？
だとしたら前回戦った凡骨と被るではないか。

だが、凡骨はギャンブルカードを使って無かったな。
もしやコレの伏線だったのか？

忘れてただけです。

『初手から『サービスエース』・・・
出だしとしては微妙なところですね。』

「確かに、初手なら普通は『デスメテオ』が良いだろうな。
ほんとにこいつは、あのカイザーと互角の実力なのか？」

『まあ、この世界では禁止ですからね。』

「魔法カードで。」

「残念、外れだ」

僕が選択したカードを除外し、君に1500ポイントのダメージだよ。」

得意気だなあ、でも残念。

「手札から『炎食いの餓鬼』の効果を発動。

このカードを手札から捨てることで、カード効果によるダメージを1000減らすことができる。

そして手札の『冥府の使者ゴーズ』の効果により

手札から特殊召喚、さらに『冥府の使者ゴーズ』の効果により
相手ライフに500のダメージだ。」

はあ、ファンデッキで唯一ガチなカードを速攻使ってしまうとは
ライフは互角、まあ俺の勝ちだろうな主人公だし。

「くっ、僕は『聖なる魂』を守備表示で召喚し
カードを2枚伏せ、ターンエンド。」

みような球体が場に現れる。

天使ごときがあ、闇へと引きずり込んでやるわ。

まあこのデッキは悪魔族はゴーズしか、ないんだけどね。

「俺のターン、ドロー。」

俺は手札から儀式魔法『高等儀式術』を發動し

デッキから『灯り火』『難破した海賊船』『竜巻』を墓地へ送り

『クラブ・タートル』を儀式召喚。

さらに手札から『オカルトファン・儀式』を、自身の効果により特
殊召喚

そして手札から魔法カード『大嵐』を發動し、バトルフェイズに入
る。」

『外道ですね。』

「ファンデッキでここまでするなんてな。」

「『クラブ・タートル』で、『聖なる魂』を攻撃
クラブ・クラッチ。」

カメでありカニであるクラブタートルが
聖なる魂をハサミの部分で殴る。

聖なる魂は潰れて、昇天してしまった。

「『聖なる魂』の効果により、『聖なる魂』を2体、表側守備表示で特殊召喚するよ。」

ちっ面倒な、こっちは早く出てっほしいんだよ。

「はあ、『オカルトファン・儀式』で、攻撃通信教育式黒魔道弾。」

普通の青年が杖に黒いオーラみたいなのを魂に投げつける。

ついでに杖も飛んでゆく悲しそうだ。

「続いてゴースで攻撃冥府斬。」

ゴースが魂をぶった斬る
拡散した魂をさらに斬る。
この外道め。

「ターンエンドだ。」

「ば、僕のターン、ドロー。」

モンスターを伏せ、カードを伏せターンエンドだ。

（僕の伏せたカードは『聖なるバリア ミラーフォース』
君が攻撃したところをドツカーンだ。）

あの顔、聖バリか激流葬だな

「俺のターン、ドロー。」

モンスターを伏せ、カードを2枚セット、ターンエンドだ。」

「僕のターン、ドロー。」

カードを伏せ、ターンエンドだ。」

飽きた、決着をつけよう。

「俺のターン、ドロー。」

手札から魔法カード『ハリケーン』を発動。」

「な・・・『聖なるバリア ミラーフォース』が。」

まじでそれやったんかい。

ポーカーフェイスを覚える貴様は。

「カードを二枚伏せ

セットモンスターオープン、『メタモルポット』

手札をすべて捨て、5枚ドロー。」

手札の『ワタポン』の効果により、手札から特殊召喚。

『ワタポン』を生贄に『炎帝テストロス』を生贄召喚する。」

『テストロス・・・ぶっちやけ要りませんよね。』

「あいつのデッキはゴルベージ四天王デッキ
完璧なファンデッキだぞ。」

『でもスカルミリオネが、まだ出てませんね。』

「おそらく手札に来ていないのだな。」

「手札から魔法カード『天使の施し』発動
カードを3枚引き、2枚捨てる。
手札から魔法カード『二重召喚』発動し
『オカルトファン・儀式』を生贄に捧げ
『死霊伯爵』を生贄召喚。
バトルフェイズに入り
『死霊伯爵』で、ダイレクトアタック
伯爵のレイピア。」

死霊伯爵がレイピアを出し、相手に投げつけた。
ダーツ投げをさせてみたいな。

「続いてゴースでダイレクトアタック
冥府斬。」

ゴースが相手を切りつける。

デュエル終了のブザーが鳴った。

テニス君が頂垂れているが、気にしない。

『そろそろ銀〇の時間だぞ。』

「マジで……」

みんな、今日はここで銀〇を見よう。

レッド寮は今日も平和である。

熱中症にご注意を。(後書き)

『炎食らいの餓鬼』

レベル：5

炎属性

攻撃力：2600

守備力：0

悪魔族：効果

このカードを手札から捨てることで効果ダメージを、
1000減らすことができる。

『灯り火』

レベル：3

炎属性

攻撃力：600

守備力：200

炎族

怨念のこもったロウソク
火をつけると、悪魔を呼び込む。

『難破した海賊船』

レベル3

水属性

攻撃力：760

守備力：980

アンデット族

その昔、世界中の海を支配していた海賊船。
今は腐敗し、まともに航海すらできない。

『竜巻』

レベル2

風属性

攻撃力：400

守備力：670

雷族

意志を持った竜巻

成長したら大嵐になると信じている。

『聖なる魂』

レベル4

光属性

攻撃力：1500

守備力：100

天使族；効果

このカードが破壊され墓地へ送られたとき
デッキから聖なる魂を2体特殊召喚する。

『オカルトファン・儀式』

レベル5

闇属性

攻撃力：1600

守備力：400

悪魔族；効果

儀式召喚に成功したとき
このカードを手札から特殊召喚する。

おにぎりは梅がいちばん。

視点：永理

『ドローパンが食べたいですう。』

栄ちゃん、いきなり何言い出すんだよ。

ドローパン？あんなもん買わないほうがいいよ。

「永理、ドローパン買ってきたぞ

一緒に食べようぜ。」

万丈目よ・・・なんとタイミングの良い時に。
てか、キャラ崩壊しすぎだろ。

『・・・万丈目らへんの岩場・・・
崩れてきてるよ。』

あ、落ちたな・・・
ドッポーンとド派手に。

やっぱノース校に流れるのかな。

『万丈目・・・パン持って落ちて行ったな・・・ナース服なら興奮
するが。』

『勿体ないな、水に濡れたのは嫌だけど・・・白スク女子はグッ
ジョブだが。』

『体操服なら興奮するよな。』

「おまいら自重するWWW。」

『おなかすいたですう〜。』

マジで辛そうだ・・・、幽霊なのに・・・。
幽霊って死んでるはずなんだけど
お腹が減るらしいんだよ。

『お腹すいたずら〜。』

『ジャンケンで負けた人が買ってくるってのは?。』

『貴様・・・俺の苦手な分野で決めようとしているな・・・。』
「擬人化しろよ。」

たしか『前編：主人公が敵サイドに入るって、どうなの?』でテス
トデュエルしたじゃん。」

思い出したって顔してるな。

イレイザー達まで・・・。

駄目だこいつ等・・・早く、何とかしないと・・・。

『私たち学生ではないので代わりに買ってきてください。』

栄ちゃんの頼みならしかたねえ、俺は行ってくるぜ。

『いつてらっしや〜い。』

あ、俺ジャムパンで。』

『俺カレーパンで。』

『俺はコッペパンで。』

『私はチョコパンでおねがいしま〜すう。』

・・・ドローパンでいつかあ

人性はギャンブルで十代並みにドロー力があったらたぶん引けるよ
な・・・。

コッペパン以外……。

少年パシ「マスターースパーク。」ピチューン

「永理い、万丈目さん見なかったか。」

おや、ブルー寮の高田と清水ではないか。

「落ちてくの見た。」

隠してもしょうがない、半分正直に答えよう。

「で、何処に行ったの？」

「海にドボンと……。」

たぶん今頃漂流してると思う。」

「で、何処から落ちたの？」

「崖。」

「死んでるなそれ。」

「死んでないよ。」

今も生きているさ。」

そう……「心のなk「それ死んでんじゃねーか。」

「大丈夫だって、たぶんここ等で『レッド寮は今日も平和でした』
で終わりだから。」

うん、心配ないな

コレギヤグ小説だし。

「メタ発言は自重しろ。」

「じゃあどこその東方ゲームの如くセピアでチンと。」
「無理だろ……。」

こいつは事件が起こったら多分、有利なほうに付くんだろな。

「こいつは事件が起こったら多分、有利なほうに付くんだろな。」

「心の声を口に出すなよ……。」
不可能だ。

「あゝ、俺ドローパン食べたいから
そろそろ行くわ。」

俺は適当にそう言い残しドローパンを買うため
購買の方へ足を急がせた。

十代はパンを買ったびに叫んでいる。

ちなみに俺は4分叫び続けたら喉と頭が痛くなる……。

なにかの病気であろうか。

「十代は元気だね。」

「アニキは元気とドローカだけが取柄だからね。」

翔にもそう思われてんだ。

「僕なんてあと相手ライフ100で相手フィールド場にはモンスター
ーなし

互いに手札なしで引いたカードが『サイバードラゴン』っすから。」

「とりあえず不幸だっていつとけ。」

すんげー不運だなそりゃ。

「その元氣と若さを分けてほしいわ。」

「永理君は十分若いじゃないっすか。」

「見た目は少年中身は老人」

この前身体検査したら老人並だったぜ。」

「マジっすか。」

「大マジだ。」

去年なんてぎっくり腰になったからな。

つと、当初の目的を忘れるところだったぜ。」

「ふあゝ、ふえいふい。」

ふおっふおふいふえふおろーふあんふあいふいふいふあふおふあ？。

」

何言ってるかわかりません。

「翔、通訳よろ。」

「アニキは『あゝ、永理」

ひよっとしてドロパンか？』と言ってるんっす。」

「・・・通訳こんにやく頭に乘せたほうがいいかな？

あと十代、喋るのは食べ終わってからにしろ。」

通訳こんにやくは頭に乘せても効果発動できるんだぜ。

おや、妙なトリビアを読者に伝えていたら十代が食べ終わったらしいい。

「残念だったな永理、黄金の玉子は盗まれたらしいぜ、残念だよな」。

で、何しに来たんだ？お前は米好きだとおもってたが。」

「別に米以外もスパゲティやマルゲリータ、ナンカレーやチーズフ
オンデユも好きだが・・・」

邪神共 + に頼まれてだ。」

半分は本当だ。

・・・このパンでいいか。

「ぐっ・・・なにを入れたんだこれ・・・。食ったことのないの。味が、わからねえ。」

甘くなく、辛くなく、苦くない。オレンジ色が奇妙だ。

これ、かなり嫌な味だ。」

「なんか聞いたことのある台詞・・・。」

アレ・・・意識が・・・遠のいて・・・まさか・・・。

「謎ジャムかよ。」

死ぬっていうの・・・こんな感じなんだな・・・。

そこで俺の意識はブラックアウトした。

目が覚めたらベンチの上でした。

やっぱり謎ジャムはいかんよ、逝きかけたよ。

「おっ気が付いたか。」

「目が覚めて一番に見るのが美少女じゃなくて貴様かよ・・・。」

「ギャルゲのやり過ぎっすよ。」

やり過ぎ？何言ってるの？

「俺は一日最低10時間しかやらねえぞ。」

「やり過ぎっすよ・・・。」

「で、貴様らは何をやっている？」

原作知識知ってるけどな。

「永理は、ドロパンが盗まれたのは知っているよな。」

「知ってはいるが・・・それで？」

「簡単に言えば泥棒退治っす。」

なんだって、ゆるせねえな。

「何でそんなメンドクサイ事を・・・。」

「永理君・・・思ってることと口で言ってることが反対っすよ・・・。」

「腹減ったなあ・・・、帰っていいっすか？」

「お腹空いたならおにぎり食べるっすか？」

「じゃあ貰おうか。」

おっ、梅だ。

・・・ウマッこの梅ウマッ。

「まだまだあるからドンドン食べなよ。」

トメさんあざーっす。

やはり梅は最高だ。

酸っぱすぎるのがちょうどいい。

十代は涙目になっている。

まあ、普通の人にとっちゃ酸っぱすぎる・・・のか？

前までミ〇カンの酢を飲んでたからなあ。

パソコンの前の諸君。

あとでコン〇メの素を食べてみる、結構いけるから。

「なんだか昼よりピンピンしてないっすか？」

「俺は夜型で普段は明るくなったら寝る生活をしていたがなにか？」

中学時代は、だけどな。

最近はなかなか起きれなくて途中で、寝落ちしたりしていた・・・。
あんときのユーザーさんごめん、結局リオに狩られたね。

「ドラキュラっすか・・・。」

「ドラキュアはたしかドラキュア伯爵の名前のことであり種族のことではないぞ。」

「マジっすか!?!?!」

一般常識だろ。

「マジだ。」

眠い・・・でも起きなきゃな。

時計を見ると午前1時・・・やばっすっげえ帰りたい。

ちなみにみんなは盗人を捕まえるために隠れた。

十代達はテーブルの下に

トメさんは机の下・・・よく入ったな。

俺はパンかこの後ろに。

・・・シャッター辺りが、ガタガタなっている・・・。
嫌な予感が・・・。

やっぱ開いたよコンチクショー。

その馬鹿力は化け物の特権だ、ここでは常識にとらわれたら負けなのか・・・。

馬鹿力の化け物はパンを手を取った。
かかったな化け物。

『そこまでよっ！！！』

びっくりしてるびっくりしてる。

さすが俺様特製防犯ブザーパッチェさん。

まあやっぱり逃げただけだね……。

やっぱ追いかけなあかんよな。

「待て！！」

十代君……待てと言って止まれば警察はいらないんだぜ。
って足早っ着いていけねえぜ。

「ちよっ……まっ……しっ……。」

「永理君大丈夫っすか？」

「死……ぬ……。」

「頑張れッス。」

何とか追いついた……。

ああ、お花畑が見える。

嘘だけだね。

「貴様の噂は聞いているぞ。」

十代がアレとデュエルするんだろっか。

十代……とうとう人間をやめちまったんだな。

「月影永理！！俺とデュエルだ。」

「やっぱ原作ブレイクだよこん畜生。」

「なぜ俺なんだ。」

「ほんとは何故だ……。」

別にそんなにチートドロローは……やってるな。

「お前は年に一度しか入れないというメイコさん特製のジャムパンを当てたからだ。」
マジかよ。

「と、言うわけでデュエルだ。」

「くうく、俺もデュエルしたいぜ。」

でも相手がお前を指名しているなら、お前に譲ってやるよ。
絶対負けんなよ。」

ふっふっふ、十代君君はは僕が負けるとでも……。

「大丈夫だ、問題ない。」

「デュエル」

「俺の先行。ドロロー。」

手札は……なあにこれえ。

「……手札から魔法カード『手札抹殺』」

「手札事故かつ。」

「イエス、手札を五枚捨て、五枚ドロロー。」

墓地の『DT・デスサブマリン』の効果発動。

墓地より蘇生させる。

『DT・デスサブマリン』の特殊召喚成功時速攻魔法『連鎖する悪夢』を発動。

効果により『DT・デスサブマリン』をデッキから2体特殊召喚。そして3体のモンスターを生贄に捧げ『邪神アバター』を特殊召喚だ。」
自重しろ？よし断る。
「な・・・なんすか・・・その黒いラーみたいなのは・・・。」
「見たことのないモンスターだぞ。
なんだそれは。」

そついや翔に見せるのは初めてか・・・。

「このカードは『ラーの翼神竜』を超える神のカード。
このカードはフィールドの攻撃力が一番高いモンスターの攻撃力+1000になる。」

「インチキ効果つすね・・・。」

大丈夫だ、問題ない。

「俺はターンエンドだ。さあ貴様のターンだぜ。」

「お、おれのターン、ドロー。」

俺は手札からまひ「あっそれ無理。」なに!!!」

「アバターは召喚時に相手ターンで数え2ターンの間、魔法罫の発動を

行うことは出来ないよ。」

驚いてる驚いてる。
でもそんな位だけだぜ。」

「なら俺はモンスターを伏せ、ターンエンドだ。」

「俺のターン、ドロー。」

俺は『ブラッド・ヴォルス』を攻撃表示で召喚。

バトルフェイズに入り、アバターで伏せモンスターを攻撃
ダークネス・ブラッドスラッシュ。」

ブラッド・ヴォルスの攻撃名知らんから適当に名づけた。
だって知らないんだもん。
ドローラーだった。

「『ブラッド・ヴォルス』でダイレクトアタック
ブラットスラッシュ。」

「ぐつ、手札の『ドローソルジャー』の効果発動、このカードを特
殊召喚する。」

泥の兵士？なんか溝臭そう。
攻撃力0って……。

「カードを二枚伏せ、ターンエンドだ。」

「俺のターン、ドロー。」

『ドローソルジャー』の効果発動。

手札をデッキに1枚戻すことで攻撃力を700ポイントアップする。
手札を4枚戻し、攻撃力を2800アップだ。

バトル、『ドローソルジャー』で『ブラッド・ヴォルス』を攻撃
マッドスラッシュ。」

泥の兵士に負ける獣戦士族って

「速攻魔法発動『収縮』」

『ブラッド・ヴォルス』の攻撃力を半減させる。

更に罠カード『死のデッキ破壊ウィルス』発動

『ブラッド・ヴォルス』を媒体に選択し発動

貴様のデッキ手札・フィールド場の攻撃力1500以上の攻撃力を持つモンスターを全て破壊する。」

「くっ、カードを伏せ、ターンエンドだ。」

よし、なんとなくオベリスク召喚しよう。

「俺のターン、ドロー。」

手札から魔法カード『悪夢の施し』を発動。

デッキからカードを4枚ドローし、5枚捨てる。

で、手札から魔法カード『死者蘇生』発動。

墓地の『オベリスクの巨神兵』を蘇生。」

「「「3幻神!!!!????」」」

「バトルだあ。」

さあ、その力を存分に発揮するがいい

オベリスクの攻撃、ゴッド・ハンド・クラッシャー。」

やっば生でみたら迫力が全然違うなあ。

「ぐっ、うわあああああ。」

「まだまだあ、アバターでダイレクトアタック

ダークネス・ゴッド・ハンド・クラッシャー。」

こちらは黒い方、やっばなまd（以下略）

「うわああああああ。」

「じゃ、あとはよろしくな、十代
明日ドローパン買ってきたらラーあげるわ。」

「お、おう、また明日な。」

さて、家に帰ってひと眠りしますか。

・・・なんか・・・忘れてるような・・・。

一方その頃レッド寮では

「あ、焦らずとも料理は消えたりしないのじゃあ〜。」

『アバター、そのエビフライは俺のんだ。』

『とったもん勝ちさ。』

『パセリうめえwww』

『大徳寺先生、おかわりお願いします。』

「はいはいなのじゃ。(早く帰ってきてほしいじゃあ〜。)

視点：???

ついに見つけた・・・邪神使い。
貴様のその汚れた心、魂ごと浄化してやるぜ。
この・・・天界磁誠がな。

おにぎりは梅がいちばん。(後書き)

オリカ説明

『ドローソルジャー』

レベル5

地属性

攻撃力：？

守備力：0

岩石族：効果

このカードは戦闘ダメージを受けた時、手札から特殊召喚できる。

このカードの攻撃力はデッキに手札を一枚戻すごとに攻撃力を70

0ポイントずつ

アップさせる。

『悪夢の施し』

通常魔法

デッキからカードを4枚ドローし、5枚墓地へ送る。

神と悪魔の対決

視点：永理

「月影永理！！
貴様にデュエルを申し込む！！」

面倒そうなやつが来たよ……。
しかも二人も。

「永理、デュエルするのかわらねえよ、永理のデュエルを。」

「十代、あいつを追い払ったらレアカードをやるわ。
よし、貴様は帰れ。」

ふむ、デュエルで追い払うかあの馬鹿とデュエルするか……
アカデミアってスゲーな。

デュエル？見るわけねーだろ、帰ってサイレントヒルするわ。
『あれやった後栄ちゃんガタガタ震えてたぞ。』

幽霊がホラー映画怖がつてどうする。

『怖いもんは仕方ないんじゃない？可愛かったけど。』

確かに布団に潜ってガタガタ震えて泣いてたのは可愛かった。

勿論写メも撮ったぞ。

『今日は月曜・・・大会を開催する日だぞ、サイレントヒルはまた今度だ。』

「あゝ、忘れてたわ。」

『時間だ・・・教室へ行こう。』

どこのムスカ大佐だ。

視点：誠

「永理に挑んだ無謀者がいるらしいよ、馬鹿だよね。」

「あゝ聞いた聞いた、たしか天なんとかって人でしょ。」

命知らずだよね、馬鹿だよね。」

「・・・うるさいぞ女ども。」

ギャラリーが騒々しい、神に逆らう者をのさばらせるワケにはいかないのだ。

そもそも俺は一年では上から4番目に強いんだ、あんな奴に負けるわけがない。

「うわっ、何あれキモツwww。」

「正義のために戦いますうゝって顔、キモツwww。」

ふん、人間の雌ごときに馬鹿にされてもなんともおもわんわ。

騒がしい、果たし状を書いているんだぞ。

『主人……そろそろ授業の時間でございます。』
「……………」

感謝はしない……こいつは執事で俺は主人だからだ。
こいつは俺の手駒であり、それ以上の価値はない。

月影よ……貴様の無様な負けっぷり、見せてもらうぞ。

く月影永理

眠い……相変わらず授業は暇だ。

丸藤は、本当に馬鹿だな……。
永続魔法位誰でも知っているぞ。

「丸藤は小学生からやり直したほうがいいな……。」
『それは言いすぎだろ……たぶん。』
『なんかあいつ3幻神も答えられなさそうだな。』

まあ確かにな……あいつ馬鹿だから。
「永理くん、誠って人から手紙だよ。」
「……………」

ちなみに俺はブルーの席の前に座っている。
よくブルー生徒でもわからない技術を聞いて来たりしている。
俺のカリスマまじパネエ。

『俺、あいつ嫌い。』

俺も嫌いだよ。

『PDAなんか取り出してどうするんだ?』

「今週の大会は中止、俺と誠どっちが勝つかの対決、場所は廃寮、入場料400円つと。」

『・・・やはり金が貴様は。』

「金以上のものはないぜ。」

ほい、送信つと

一体何人集まるかなあ、楽しみだぜ。

『受付の人はどうするんだ?』

「受け付けはカイザーにでもやらす。

奴は新たなサイバー流デツキを望んでいる、だからそれを餌にして、利用させてもらおう。」

これも送信だぜ。

あゝ、眠いから寝たい。

もうダメ、寝るわ。

「・・・いり君、永理君、永理君起きて、デュエルの時間だよ。」

もうそんな時間か。

「起こしてくれてありがとう

ただ、腹が減った購買に買いに行く

一緒に来るか?」

「はあ、いつもいつも寝てばかりでこのままじゃ二トになるよ。」

「大丈夫だ、問題ない。」
「問題あるよ。」

ところで、こいつ誰だ？

「あゝ、こいつ誰だって顔してる。」

まあ、会ったのは初めてだっけ。

初めまして・・・かな？永理君、月城藍です。」

藍・・・まさか・・・。

「八雲藍ですか。」

「違います、月城藍です。」

どっちでもいい
さて、

「往くぞ。」

『我らが。』

『戦場へ。』

（少年移動中）

俺は歩みを止めない。

早く行けと言われても止めない。

「諸君、俺はデュエルが好きだ。」

淡々と喋りながらクソ天使の居場所まで足を急がす。

「諸君、俺はデュエルが大好きだ。

デッキ破壊が好きだ。

ギャンブルが好きだ。

手札破壊が好きだ。

バーンダメージが好きだ。

エクゾデアが好きだ。

禁止カードが好きだ。

絶版カードが好きだ。

1ターンキルが好きだ。

限定カードが好きだ。」

足を止めない、奴は俺のカリスマに充てられ
雨に濡れた子猫のように震えているであろう。

「飛行船で、闇の世界で

バーチャル空間で、精霊界で

バイクの上で、地球の外で

孤島で、廃寮で

大会ドームで、ゴーストタウンで

此処以外の世界でも行われるありとあらゆるデュエルが好きだ。」

廃寮は大きい。

いつもの近道が生徒たちで埋め尽くされている。

「フィールドをBFで満杯にし、一斉攻撃で1キルするのが好きだ。」

マシユマロンを壁にした相手が絶望する瞬間など心がおどる。

対戦相手のコントロールするレアカードを奪うのが好きだ。

胸を張る対戦相手の目の前で切り札級のモンスターをコントロールを得た時など胸がすくような気持ちだった。

銃剣先をそろえたレベルの横隊が敵の戦列を蹂躪するのが好きだ。

恐慌状態の志願新兵が既に息絶えた敵兵を何度も何度も蘇生させ、心が壊れ、虚ろな目には感動すら覚える。

完璧主義の対戦相手を1ターン・キルする様などはもうたまらない。

泣き叫ぶ対戦相手が私の振り下ろしたギルファー・デーモンからの魔のデツキ破壊ウイルス、

相手の墓地から蘇生

外道のひらめきのコンボとともに

金切り声を上げるドラグニティを虫のように薙ぎ倒すのも最高だ。

たった1枚のカードで環境を滅茶苦茶にするのが好きだ。

必死に守るはずだったアイドルカードが破壊され相手の怒りを買って殺されていく様はととても悲しいものだ。

激動のあとのスライム・トークンの物量に押し潰されて殲滅されるのが好きだ。

ライコウをリバーサされ、確実にしもべを破壊されるのは屈辱の

極みだ。

諸君 私はデュエルを戦争の様なデュエルを望んでいる。

諸君 私に付き従うデュエリスト諸君

君達は一体何を望んでいる？」

観客へと聞く、勿論足は止めない。

「更なるデュエルを望むか？」

情け容赦なく殺され、何もできないまま殺されゆく糞の様なデュエルを望むか？

コントロール略奪、バウンドダメージ、高攻撃力で殴り、殴られるなどの限りを尽くし

3000世界の極楽鳥を殺す戦争の様なバトルロイヤルを望むか？

「

デュエル場へ着いた。

その真ん中に立ち、両手を広げ
こう叫ぶ。

「高らかに宣言せよ！！」

貴様らは何を望む！！。」

『デュエル！ デュエル！ デュエル！』

今更ながらカリスマ高いな。

「よろしい ならばデュエルだ。」

我々はありつたけの運と知識を込め、今まさに手札を開かんとする拳だ。

だがこの運が体力4000の我々にただのデュエルではもはや足りない！！

闇のデュエルを！！

生き残りを賭けたバトルロイヤルを！！

我らはわずかに一個大隊、十人に満たぬデュエリストに過ぎない。

だが諸君は軍人だと私は信仰している。

ならば我らは諸君と私で総力100万と1人のデュエリストとなる。

禁止カードリストを忘却の彼方へと追いやり、眠りこけている連中を叩き起こそう。

裏世界からカードを手に入れ、レアカードをコピーし、相手を絶望の淵へと追い込み、思い出させよう。

連中に、カオスの味を思い出させてやる。

連中に、我々のバーンの音を思い出させてやる。

闇と光のはざまには、奴らの常識では思いもよらない事があることを思い出させてやる。

40以上のカードで動員令で

環境を破壊し尽くしてやる。

最後のデュエルより、すべてのデュエリストへ

目標禁止カード!!

デッキを持って、デュエルを開始せよ

征くぞ、諸君。」

・・・主人公が言うセリフじゃねーな。

『今更だけどね。』

「さあ、デュエルだ。」

・・・警戒しているか、天使のなり損ないめ。

「貴様・・・闇の者がこの世界の住人にこんなにも愛されているなんて。」

俺は認めない!! 貴様のような人間など!!

人の道を踏み外した罪人め!! 来い!! 貴様を闇へと送り返してやるう!!」

「屑天使ごときの遠吠えなど、聞こえんわ。

さあ来な

神の飼い犬ごときがっ。」

さあ、シヨアの始まりだ。

「デュエル!!」 「きゃーひゃっひゃっひゃっひゃ!!」

「俺のターン、ドロー。」

俺は永続魔法『エンジェルゲート』を発動

手札から『大天使ミカエル』を特殊召喚する。

カードを1枚伏せ、ターンエンドだ。」

ふむ、こいつも転生者か……。

しかし1ターン目から上級モンスターねえ……。

しかも大天使とは、破壊のし甲斐があるぜ。

「俺のターン、ドロー。」

『ゲルニア』を守備表示で召喚

カードを3枚伏せ、ターンエンド。」

まずは様子見様子見。

「俺のターン、ドロー。」

手札から魔法カード『天使収集』を発動。

デッキからレベル4以下の天使族モンスターを2体、特殊召喚する。

よってデッキから『聖なる魂』『シャインエンジェル』を特殊召喚。

3体のモンスターを生贄に捧げ、『聖神アバター』を生贄召喚。」

白色のアバターだな。

恐らく、新たなる神のカード……か。

だから天使族は嫌なんだよ。

「行けアバターよ、現世に留まる亡霊を書き殺せ

ホーリーブレス!!」

神の息吹・・・だと・・・。
こいつはヤバそうだな。

「永続罨カード『不死者の記憶』発動!!

自分フィールド場のアンデット族モンスターが破壊され、墓地へ送られたとき

デッキからアンデット族モンスター以外のモンスターを特殊召喚。

よって、デッキから『ネクロマンサー』を特殊召喚。

『ネクロマンサー』が特殊召喚された瞬間、リバーカードオープン『連鎖魔術』発動。

『連鎖魔術』は自分フィールド場に魔法使い族モンスターが特殊召喚された瞬間

デッキから同盟カードを1体特殊召喚する。」

俺の場にインフィルにティ・ネクロマンサーみたいなのが3体現れた。

「ちっ、だか『聖神アバター』の効果により『ゲルニア』の攻撃力つまり1300のダメージを受けてもらおう。」

「ところがそうもいかねんだよ、罨カード『死者の道ずれ』発動。このカードは俺が効果ダメージを受けるとき

相手モンスターを1体破壊し、そのモンスターの攻撃力分のダメージを相手プレイヤーへ与える。

効果により『聖神アバター』は破壊させてもらう。」

神に罨は効かないと思ったか。

「残念だったな、神のカードは畏では破壊さ」「それはどうかな。」
「なに!!」

おうおうびっくりしてる。

残念だったな、貴様より神のカードは長く使ってるんでねえ。

「『死者の道ずれ』の効果はそれだけと・・・誰が言った？

『死者の道ずれ』の効果は絶対。

つまり効果は無効にされないのさ。」

「なん・・・だと・・・ぐッ、カードを伏せ、ターンエンドだ。」

「俺のターン、ドロー。」

手札から魔法カード『苦渋の選択』を発動。

デッキから『邪神アバター』『カオス・エンド』『死体食いのグー

ル』『狂人ジャック』

『不死の人間』を選択、さあどれを選ぶ。」

迷ってる迷ってる。

まあ、どれを選んでも一緒だけだな。

「ちっ、『不死の人間』を選択だ。」

「残りを墓地へ捨て、『ネクロマンサー』を生贄に『死霊を操りし

パペットマスター』を生贄召喚。

パペットマスターの効果により1000ライフを払い

『邪神アバター』『カオス・エンド』『狂人ジャック』を

墓地より特殊召喚。

行け、『邪神アバター』よ、敵を殺せ

ダークネス・エンドクラッシャー。」

闇の波動を手から噴き出した。
相手は苦しそうだ、だがやめるわけねえ。

「『狂人ジャック』の効果により伏せカードを破壊する。
『狂人ジャック』でダイレクトアタック、ジャックスラッシュ。
更に『カオス・エンド』でダイレクトアタック、エンドクラッシュ
！」

『ネクロマンサー』でダイレクトアタック、蘇生の舞。』

明らかなオーバーキル、最高だ。
我ながら最高のバトルだった。

「あばよ、屑天使

神のカード程度、たかが知れてる効果だ、その程度で最強だとか肅
清とかほざくなカス。」

「・・・とめない。」

なんか言ってるよこの屑。
面倒だ。

「貴様のようなデュエリスト、認めない。
もう一度デュエルだ、次は貴様を倒してみせる。」

なにいつてるのこのカス。

「もう腹減ったから帰る。

貴様ごときに神のカードは使いこなせねえよ。」

野郎がどこで泣こうが知るか。

俺はチーズさえありゃそれでいいや。

神と悪魔の対決（後書き）

あとでコメントで言われるような気がするので先に言っときます。
原作効果のアバターは特殊召喚できます。

オリカ説明

『エンジェルゲート』
魔法カード

手札の天使族モンスターを一体特殊召喚する。
このカードを発動するターン、通常召喚できない。

『聖神アバター』

レベル10

光属性

攻撃力：?????

守備力：?????

幻神獣族；効果

このカードは特殊召喚できない。

このカードは天使族モンスターを3体、生贄に捧げた場合のみ召喚
できる。

このカードを対象とするモンスター効果、罫カードの効果を無効に
する。

このカードの攻撃力、守備力は場のモンスターの攻撃力+1000に
なる。

このカードが相手モンスターを破壊し、墓地へ送ったときそのモン

スターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

『不死者の記憶』

永続罫

自分フィールド場のアンデット族モンスターが破壊され、墓地に送られた時

デッキからレベル4以下、アンデット族以外のモンスターを1体、特殊召喚する。

『ネクロマンサー』

レベル4

闇属性

攻撃力；0

守備力：2000

魔法使い族；効果

手札を1枚捨て、効果発動。

墓地からアンデット族モンスター以外のモンスターを攻撃表示で特殊召喚する。

『連鎖魔術』

速攻魔法

自分フィールド場に魔法使い族が特殊召喚したとき、効果発動。
デッキから同盟カードを1体、特殊召喚する。

『死者の道ずれ』

通常罫

自分が効果ダメージを受けた時、発動。

相手モンスターを1体破壊し、そのモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

このカードの効果は無効にされない。

『カオス・エンド』

レベル5

闇属性

攻撃力：0

守備力：0

悪魔族；効果

このカードの攻撃力は自分フィールド場に存在する悪魔族モンスター1体につき

700ポイント攻撃力をアップさせる。

『狂人ジャック』

レベル4

闇属性

攻撃力：1300

守備力：1200

悪魔族；効果

このカードがフィールド場に表側表示で存在する場合

悪魔族モンスターが直接攻撃に成功したとき、効果発動。

相手フィールド場の伏せカードを1枚、破壊する。

『死体食いのグール』

レベル4

地属性

攻撃力：2400

守備力：0

アンデット族；効果

このカードが攻撃した場合、このカードのコントロールは相手に移る。

『不死の人間』

レベル2

地属性

攻撃力：900

守備力：450

アンデット族：効果

このカードが攻撃した場合

相手のデッキからカードを4枚、墓地へ送る。

たまにはシリアスもいいよね。

視点：永理

「遊戯のデツキねえ・・・」
時間を割いて見るほどの価値があるのかねえ。」
『夢ねえな。』

伝説のデュエリストつつたつたつてなあ。
てかぶつちゃけ戦つてたのATMだしなあ。
あと十代うるさい。

「折角チケット手に入れたんだから行こうぜ。」
「チケット手に入れたの僕なんだけどね・・・。」
「今はゲームに集中しろ。翔、レイアのサマーソルト来るぞ。」
「えっ、ちよ、毒に・・・ポイズンになっちゃったツス。」
「解毒薬持つてきてるだろ。」
「持つてきてないっすよ。」
「翔、苦虫やるから落ち着け。」

十代よ、解毒笛を持つてこい。
なぜ苦虫だ？

『ランスで突撃』。

栄ちゃん、火炎弾に当たるよ・・・。
あゝ、やっぱ当たったか。

ちなみにやってるゲームはモンハン2Gだ。
翔が下位のリオに苦戦してるから手伝わってって言われて……。

『尻尾切りました。』

「今回もやられたサマーソルト。」

『腹減った……。』

いい感じにカオスってるな。
気刃斬り美味しいです。

「竜撃砲ぶっぱー!!」

「ちよっ、アニキ巻き添えくらったツス。」

『邪魔だ邪魔だ、突撃。』

「また飛んだorz」

「閃光玉どくん。」

栄ちゃんホンマに自由だな。

一応幽霊なんだけどね、死に設定になってるね。

あ、十代の後ろにランゴスタが……。しかもレイアのファイアーに当たったし。

『畏張りますね。』

「では、捕獲の方向で。」

「サー・イエッサー。」

栄ちゃんが落とし穴を張り、レイアが穴に落ちた。
いまだあああ。

「麻醉玉発射。」

「隊長!!! 麻醉玉を忘れました!!!」

「構わん、麻醉玉があるものだけが投げろ!!」

2発ぐらい投げたら捕獲できました。

脳内BGMはFFの勝利のファンファーレです。

『逆鱗ゲット。』

「逆鱗ゲット。」

「逆鱗ゲット。」

「僕だけ逆鱗なしッスか。」

『これ遊戯王小説つすよね……。』

『「大丈夫だ、問題ない。」』

「メタ発言自重するッス。」

『ところで俺の隣にいる人って誰?』

イレイザーの隣?

あ、イエローの制服の人……。

『「いたんだ、三沢。」』「いたんだ三沢君。」

「いましたよ!!」

いや、だってねえ。存在感が全くなくなってさあ。

・・・ホラ、この小説三沢の出番なかったじゃん。

三沢vs万丈目も崖から落ちてなくなっただし。

だからもう出てこないと思ってたり。

「全く出てこなかったしなあ。」

「三沢君、存在感が全くないッスから、ねえ。」

「ぶつちやけ外国のデイグマみたいな状況になってたと思ってた。」

『で、この人誰?』

『そんなことよりおうどん食べたい。』

「orz」

マジで忘れてた。

だってもう出てこないかと。

作者も忘れてたと思ってたから。

・・・文化祭で活躍させてやるっつん。

「あ、もうこんな時間ッス、僕たちはそろそろ帰りますッス。」

まだ22時だぞ。

「じゃあ明日、校舎前で。」

「ああ、じゃ、おやすみ。」

「どうせ俺なんて・・・俺なんて。」

三沢うるさい。

『うんうん、その気持ち分かるよ。俺も最近出番がなくなってきたから。』

「お前ら帰れ。」

『ポケモンはガキの遊びじゃねーんだよ。』

『栄ちゃん強すぎ。』

『お腹空いた〜。』

「早く寝ないと貞子さんが来るぞ〜。」

『『『『おやすみ』』』』

寝るの早ッ。

俺も寝ないとなあ。

夢の世界でぐらい彼女できてもいいよね。

いや〜、久々にグツスリ寝たわ〜。
気分もいいし、亡霊たちも見えるし、ドロ〜パンでチョコパン当てるし、いい朝だ〜。

『2時に寝て5時に起きてピンピンしてる貴様は何もんだ。』
人間です。

ちなみに今日は休日である。

でも、休みの日に早起きって誰でもやるよね。

・・・やることねえ〜。

マジで早起きしてもやることねえ〜。

誰だ早起きは3文の得って言ったのだれだ。

・・・ブルー寮周辺にでも行くか。
蝉取りに。

カブトムシ捕れちゃったよ。

しかもいやな奴に出会ってしまったよ。

誰が呼んだか黒光りするG

まさにキモいよ黒い悪魔。

『呼んだ？』

呼んでません。

「何してんだ、お前。」

おや、君は高田君じゃあないか。

全くデュエルしていない高田君じゃあないか。

「見て分かれ。」

「わかるか！」

やれやれ、少年の頭は柔軟ではないのかねえ。

「天なんとかのために黒くてカサカサ動いて背中がテカテカしてて妙に動きが速いやつを捕まえようとしているのではないか。」

「要はゴキリだろ。」

「高田、オブラートに表現しろ。」

『てか、そろそろ展示の時間だぞ。』

・・・忘れてた。

「俺には用事があったんだ、というわけでアデュオス。」

「どこのタキシード仮面だ。」

別にピチピチフレッシュの女子が好きなわけではないぞ。

別に可だけど。

午後10時・・・いつもなら貯まりに貯まったゲームの攻略で忙しい時間である。

・・・高校生スケジュールじゃねえ。

普通高校生って幼馴染が起こしに来たり朝飯作ってくれたりして朝を迎え・・・死が向かってくる気がする。

恋人なんて都市伝説です、実在しません。

自分の思考回路が悲しくなってきたな。

「お、永理じゃないか、おーい。」

「カブトムシが見えるッス。」

「やっと来たか、遅かったな。」

「三沢君、いたの?」

「三沢、いたんだ。」

「君たちより早くいたんだが・・・てか挨拶したじゃないか。」
「モブと思ってた。」
「orz」

また落ち込んでるよ。

「マァンマミイイイイイイアアアアアア！！！」

どうでもいいけどクロノスの肌ってやっぱり京都のアレなのだろうか。
どうでもいいけど。

「クロノス先生の悲鳴！！！」

「扱けたのかな。」

「タンスの角に小指をぶつけたんだろう。」

「まあともかく悲鳴のしたほうへ行っとけ。」

ほんとと自由だなこの小説。

で、やっぱり原作のごとく盗まれてました。

「なにちょっと前の三沢の格好してるんすか。」

「三沢？そんな生徒見当たりませうんが。」

「ここにいます！！！」

見失ってた、ミストボディ装備してんじゃね？

やっぱり探さなあかんのかなあ。

「うわああああっ！！！」

今の声は・・・あのガキか・・・。

なんで岩場なんだ神楽坂、こっちは塩が弱点なんだぞ。

・・・幽霊みたい？ちがう、俺は悪魔だ。（使用するモンスターの種族的な意味で。）
自重しろ？自重してほしいならコメント欄にそう書けばいいじゃない。
そうすれば考えるぞ、考えるだけだがな。

「くつくつくつくつく、この力だ、伝説のデュエリストのデッキを持った俺はもはや誰にも止められねえ！！
この俺にたてつく奴はこのデッキで葬り去ってくれる！！俺は最強なんだ！！」

あの程度で伝説って・・・どうなのさ。
ぶっちゃけカイザーとか凡骨とかのほうが伝説のような気がするけど。主に運全般的な意味で。

「で、翔
あそこでサイコーにハイッて奴だみたいなのになってるのは誰？
知ってるけどな。」

「遊戯さんのデッキを盗んだ人だよ。
返してもらおうとしたらこのとおり負けちゃって。」

・・・煩いなあ、あいつの声。
こっちは頭痛つてのにさあ。
あゝ、頭痛い。

「おいそこの黄色、デュエルしろよ。」
この世界なら、たぶんこれで通じる。
俺なら逃げるけどな。

「なんだお前は。」

「わが名は土のスカルム……一般人だ。」

盗人君、デュエルでこの俺が勝ったらそのデッキを返してもらおう。」

「

そこ、神のカードを使っているからって一般人じゃねえだろうって思わないっ!!!

まあ、このデュエルを受けるような馬鹿はいないよな。」

「いいだろう、受けて立つ!!!

貴様もこのデッキの錆にしてくれるわっ!!!

受けちゃったよこの人。」

大丈夫かこのデュエルアカデミア。」

「デュエル!!」「ぎゃーひゃっひゃっひゃっひゃっひゃ!!!

「俺の先行、ドロ。」

先行とられました、そろそろ1キル止めようかと思いません。
ちなみに別にスキエルは使いません。
キチアーノではありません。」

「魔法カード『融合』発動、『幻獣王ガゼル』と『バフォメット』
を融合

『有翼幻獣キマイラ』召喚、ターンエンドだ。」

いきなり融合……チートキャラめ。」

「俺様のターン、ドロカード。」

なぜバクラ風かって？
気分さ。

「魔法カード『悪夢の施し』発動、デッキからカードを4枚ドロ―
し、5枚墓地へ送る。」

そして魔法カード『死者蘇生』発動。さあ、我が勝利のため、起動
せよ『ラーの翌神竜』！！」

「神のカード・・・だと・・・。」
「もうなんでもありツスね。」

さすが神のカード、灰になりそうだぜ。
つてか熱っ、ラーの周り熱っ。

「ラーの攻撃力は自身のライフをラーに1になるように捧げ、払っ
た数値分アップさせる。」

よってラーの攻撃力は3999だ。

行けラーよ、その魔物を焼き払え！！ゴッド・ブレイズ・キャノン
！！」

おゝ、炎がスゲエマジパネエ。

さすが神のカード、現実じゃライフチュッチュギガントだけどな。

「ぐ、うわあああ！！」

どんな攻撃方法かって？ゲグレ。

「くっ、だがキマイラの効果により『バフォメット』を
特殊召喚。」

「メインフェイズ2に魔法カード『融合解除』

選択するのは『ラーの翌神竜』」

「なっ、ラーは融合モンスターではないはずだ。」

バトルタワーのアレを見ていないのか貴様は。
やれやれだぜ。

「カードを2枚伏せ、モンスターを1体伏せる。
このターンは終わりだ、再び墓地へ舞い戻れ。」

いっぺん言ってみたかったんだよね。

どうしてOCGではラーになってしまったんだ。

「俺のターン、ドロー。」

『マンジュ・ゴッド』を召喚、効果発動。

デッキから『高等儀式術』を手札に加え、発動。

デッキから『青眼の白竜』を墓地へ送り、『カオス・ソルジャー』
を儀式召喚。」

・・・どうでもいいけど暑そうだなソルジャー。

仮面だし、鉄だし。

「行け、『カオス・ソルジャー』」

モンスターを切り裂け！！カオス・ブレード！！」

やはり遊戯のデッキでも、基本的なプレイングは一緒か。
遊戯なら社長の嫁を蘇生させ、大ダメージを狙うだろう。
ちなみに嫁ドラゴンはレプリカだ。

一般に発売されているカードだ。

・・・レア度高いけど。

「破壊された『ニユードリア』の効果、発動。
このカードが破壊され、墓地へ送られたとき、破壊したモンスターを破壊する。」

「なっ、卑怯な!!」

卑怯？ありがとう、最高の褒め言葉だ。
だが、まだ俺のコンボは終わってないぜ。

「罨カード『蘇生の石板』」

このカードは戦闘によって破壊され、墓地へ送られたときその戦闘によって破壊されたモンスターを蘇生させる。
つまり、『ニユードリア』召喚!!」

死者蘇生の罨版です。

ひゃーはっはっはっは。

主人公として、このカードはどうなんだろう。

「くっ、ターンエンドだ。」

バフオメットを守ったか・・・。

所詮貴様のレベルじゃあ、その程度か。

「俺様のターン、ドローカード。

魔法カード『左腕の代償』発動。

手札をすべて捨て、デッキから魔法カードを手札に加える。
俺が手札に加えるのは『天よりの宝札』。」

一応レアカードなんだけど、このデッキには3枚入っている。翔も突っ込むのが疲れたのか黙っている。

「『天よりの宝札』発動、互いのプレイヤーはデッキから手札が6枚になるようにドローする。貴様は3枚ドローしな！！」

6枚ドロー美味しいです。

「永続魔法『エクトプラズマー』発動。『怨念のキラードール』を召喚。更に手札2枚をコストに『魔法石の採掘』発動。

『死者蘇生』を手札に加え、発動。

『死者蘇生』で蘇生させるのは・・・

社長の嫁。」

「なぜに嫁ツスカ？」

翔よ、小さいことを気にしてるから背も小さいんだぜ。

「行け青眼

目障りな摩獣を焼き殺せ。滅びのバーストストリーム。」

さすが社長の嫁、強いな。

「『ニードリア』で直接攻撃。

エンドフェイズに社長の嫁を生贄にし、貴様にダメージ、止めだ。」

はい止めシヨボイです。

そしてキラードール可愛いです。

「くっ、俺は間違っていたのか・・・？」

「強奪は犯罪だからなあ、間違ってたっちゃん間違ってたかな。」

敗北のショックで頂垂れたまま話しかけてきた。

関係ないがすごい髪だ。

他の小説なら慰めの言葉をかけるのだろうが俺はしない。

闇は黙って消え去るのみ。

「・・・さて、他の奴が来る前にとっととずらかりますか。」

表向きは翔が倒したってことにしておけばいいし

俺は正義には似合わなすぎる。

俺は邪神で十分だ。

PDAからメールが届いた。
しかし、シリアスに決めている場面でナイト・オブ・ナイツは
ないだろ。

件名：破壊の闇

奴を我らが同志に引き入れても良いのではないか？

我らの闇を集めるために……。

妬みを集めるために……。

殺意を集めるために……。

返信を待つ。

教祖様。

「……ちようどいいかな。

……あいつ程度の實力なら、消えても……。」

デュエルアカデミアから。

恋愛？そんなの幻想です。偉い人にはそれが解らんです。

視点：恒例の永理

『前回までのあらすじ

破壊の闇はモテない人の集まりです。』

「台無しになること言うな。」

「何の話をしているのにゃー。」

まあ、それは置いて、転入生の紹介にゃあ。」

編入生、ねえ……。

あ、HDDの容量が限界に近いんだった。

「寮長殿、ハードディスクドライブの容量が限界に近いので部屋に戻るとききます。」

「だめですにゃ。」

……ですよね〜。

『エビフライおかわりですう〜。』

「わた……僕の実在感ゼロ!?!?」

さすが栄ちゃん、通称エアープレイカー。

でもそんなところがまた可愛い。

変態……いいえ、紳士です。

ピチピチフレッシュな女子高生が好きなんて言いません。変態という名の紳士です。

「早乙女君には、永理君と一緒に部屋ですんでもらうわ〜」『エビフライ

「いまだですかあ〜」

「ちよつ、アバター君僕のエビフライ取らないでよ。」

「弱肉強食、早いもん勝ちさ〜。」

「肉を食べたい〜。」

アバターが翔のエビフライを食べ、翔が文句言っつてアバターのエビフライを取ろうとしたらなんやかんやでデュエル。イレイザーは肉が食べたいらしい。

・・・カオスだ！の一言に尽きる。

「・・・幼女水着特集何処やったっけ。」

「知らん、俺に聞くな。」

「僕が完璧に空気!？」

「仕方ない。」

だつてキャラ濃すぎだからねえ。

「米をだせええええええええええいやあああああ!?!?!?!」

「ドレッド黙れ。」

「すいません・・・と、みせかk「マツスルスパーーク。」ぎ

やあああああ!?!?!」

「・・・幼女の匂いがすr「筋肉バスターー」ぎゃああああ

!?!?!」

視点：レイちゃん可愛いよレイちゃん

レッド寮、カオスつて聞いてたけど、ここまでカオスだとは思わなかったです。

・・・亮様・・・レイは今行きます。亮様の所へ。

あの黒い服を着た人たちはなんだろう……。レッド寮の生徒ではなさそうだし。てか寒い！超寒い！あと怖い、あの女の人人間じゃない。

「では、解散、早く寝るにやよ。特に永理君はできるだけ夜に起きないでくださいにや。」

「尿意だ、仕方ない。」

「……年寄りですかにや？」

「年寄りではない。思春期真っ盛りのいたって普通で健全な男子生徒だ。」

「健全な男子生徒はコミケなんか行かないと思うにや。」

『エビフリヤあああああああああああひやひやひやははははあははは。』

……お母さん、ここは地獄です。

常識なんて通用しません。

「大徳寺先生、ここはいつもこんな感じなんですか。」

「どちらかというとまだソフトなほうにや。」

なにそれ怖い。

お母さん……。私はデュエルアカデミアに入ったことを後悔します。

「良い子は寝る時間にや。みんな、解散にや。」

寮長も適当ですね……。

く次の日く

「あの・・・これ、なんですか？」

「カレーだ。」

「すごい真つ赤なんだけど。」

「目が、目が痛い。」

「何入れたのこれ。」

「ハバネロだ。（本当はデスソースだけどな。）」

「食べたら口の中痛いとお腹が痛いで大変だった。」

「永理さんはなんで大丈夫なの？」

「てかなんで朝からカレーなの？」

「あとなんで幽霊がいるの？」

「なんで幽霊がカレー食べてるの？」

「なあ、時間・・・大丈夫か？」

「・・・あ、忘れてた。」

「こりゃ完璧に遅刻だな。」

「笑ってないで早く食べてよ。」

「もう間に合わないけど・・・。」

『レイちゃん、一緒にストファやろう。』

「えっ、別にいいけど・・・。」

「？ B ？ならできるだけだけど、まさかレバガチャのほうとは・・・」

もう突っ込みどころがあり過ぎるよ！

あと栄さん強すぎるよ！

なにあのガイル！歩きながらサマーソルトやってきたよ！
高橋名人もびっくりだよ！

結局クロノス先生がやってきてストファは中断になった。

・・・永理さん、貴方は一体何者ですか。

授業は難しかったなあ、錬金術とか解んないし。

永理さんは僕の恋を応援してくれるらしい。

僕の恋、叶うといいな。

視点：永理

恋する乙女ねえ、青春だねえ。

おじさんは青春の88%をゲームに費やしたね。

さて、レイちゃんはたしかカイザーに告白　フラれる　十代に恋
弾ぜろ。

あれ、なんか違うな。

レイちゃんカイザーに告白　フラれる　俺が慰める　夢オチでした。

絶望

やっぱり違う。なにかが違う。

レイちゃんカイザーに告白 くつつく カイザー死ね

どうして俺の頭はこう、ネガティブなのかね。

「なにしてるの？早く行くよ」

そっぴい俺の手を握ってきた。

・・・もう思い残すことはない。死んでもいいや。

「永理さん！鼻血が凄いやー！！」

「大丈夫、少し目が霞んでるだけ。」

「それ大丈夫じゃないよねー！！」

「大丈夫、死にやあしないよ。」

「なにやってるんだお前ら。」

あ、亮さんだ。

「俺の初登場時に鼻血、貴様まさかペドかつ！」

「せめてロリって言え。」

「永理さん、保健室行こうよ。」

さすがにヤバイよ、1リットルぐらい出てるよー！！

何言ってるんだレイちゃん、俺なら大丈夫だぜ。

「まだ、大丈夫だ。」

初めてのエロ本読んだときに比べ・・・。」

レイちゃん、上目使いは、反則、だぜ。

「ぶはあ!!」

「え、永理さーん!!」
「亮さん!! 救急車を、救急車を呼んでください!!」

「学園に救急車はないぞ。」

目が覚めたら、知らない天井だった。
この匂いは、保健室か。

「目が、覚めたか。」

カイザー……か……。
なぜカイザーが？

「あの後大変だったんだぞ。」

制服は汚れるわお前を運ばなきゃならないわで。」

「そう、スマヌな。」

ところで、レイちゃんは？」

「レイちゃんなら帰ったぞ。」

お前に言伝を頼まれてな。」

レイちゃんが言伝？

俺そんなフラグ立てたっけ？

「また来ます……だよ。」

また？

・・・文化祭の事かな？

あの後、勿論寮に帰ったよ、俺は。

レイちゃんが居なくなつて広く感じるけれど、すぐに慣れるよね。
すg『永理さーーん、テレビから、テレビから人が！？』

静かにならないかなあ。

しゅ、主人公がいう台詞じゃないよね。

視点：永理

代表・・・みんなは代表に選ばれたことがあるだろうか。
生徒会会長とかなら選ばれたりするだろう。
なぜ俺が？それと十代が相手なら86%負ける自信はあるアルヨ。

「お断りいたします、その日は黒魔術で実験がありますので。」
「く、黒魔術！？ま、まあそれは置いといて、そこを何とか・・・。」

嫌だよメンドクサイ。
なんで俺が。
代表で出てもバーンデッキで決めるからな。

「メールが入ったみたいですので、席を外してもよろしいですかな。」
「あっはい、いいですよ。」

立ち話だけだな。
そう心の中でどや顔しつつ、俺は廊下へ出た。
なにになに

文名：満月栄

文件：無題

永理さん助けて・・・貞子さんが・・・貞子さんがあ。

何があつた我が寮よ。

「何してるのそんなところで・・・。」

おや、何時ぞやの藍様ではないか。

「何の用・・・月城さん。」

「その言葉、そのままそっくりあんたに返すわ。」

「メールを読んでただけだ。」

「メール？」

まあいいわ、今日はあなたに紹介したい友達がいるの。」

これまた面倒なキャラを連れてきたなあ。

よりもよってこいつとわな。

「貴方があの伝説の作家、百合白ランの小説を持ってって聞いたから華麗に参上！」

大庭ナオミ、参上！」

TFとキャラが全然違うじゃねーか。
なにこのハイテンション。

「なぜに参上を2回も言ったんだ？」

「大切なことなので2回言いました。」

あっそう。

「さあ、百合白ランの小説とついでに百合漫画を私に売りなさい！」

「1冊756円です。」

「買った!!」

元気だなあ。

まあ小遣い稼ぎにやあなるか……。

「で、何をしてたの？少佐君。」

「で、何をしていたのですの？大隊指揮官さん。ついでにゲームも売りなさい」

「俺は別に吸血鬼を倒したりしないぞ。

ちよこつとメールが来たんで見てただけだ。プレミアがついてる妹と姉のラブコメのやつ90000円な。」

何処の少佐だよ、まったく。

そりゃあさ、射的で全弾外したけどさ。あれはライフルだぜ、だからノーカンだよな。

「もしかしてアカデミア代表とか？」

「まあ実力だけは認めますけど……代表って性格では……。もう少し安くなりますの？76000円。」

「藍様正解、あと大庭さん性格のほうは触れないでくれ。

安すぎる、84000。」

「まあ顔は普通ですからね。買いましたわ。」

おうおう、ブルジョアは違うねえ。

一気にこんなにも金が。

あとやっぱり性格が違うねえ。

ん、メールだ。

文名・満月栄

文件：無題

永理さん、テレビから、テレビから人があゝ。
呪怨を、呪怨をゝゝ。

めそ。

栄ちゃん呪怨をどうしたの！？それとめそってなに！？めそって！？

『で、めそってなによ。』

「しらねーよ。」

「誰と話してるんですの？」

まあ、いいですわ。

「一応出ておきなさい、校長の頼みですので。」

メンドクサッ。

「メンドクサッ。」

「わざわざ口に出さなくても」

「一応でておきなさい、百合ゲーあゝ」よし、出るぜ。「そ、そっ

。。。

いざ、戦いの舞台へ。。。。！

〈学園対抗デュエル、予選当日〉

視点：十代

「なあクロノス先生、永理はまだ来てないのかよ。」

楽しみにしてたのになあ。

「そう焦ることもないノ〜ネ。すぐに来るはずデス〜ノ。」

まだかなあ、早くデュエルしてえよ。
ん、明かりが消えてる、まさか……。

「はははははははははは。」

あの声はッ！

「おい、あれはなんだ!!」

「鳥か!!!?」

「飛行機か!!!?」

「いや違う!少佐だー!!」

スポットライトが声のしたほうへ向けられる。

「諸君、待たせて悪かったねえ、最恐の悪魔族使い月影永理ただ今
参上!!」

諸君に最高のデュエルをお見せしよう!!」

永理ってあんなキャラだっけ?

視点：永理

たまには目立つのもいいなあ。

あとみんなノリがいいねえ、おじさんはりきっちゃうよ。

「さあデュエルスタートだ!!」

「一応それ言うの私なんでスゝガ。」

「デュエル!!」 「ゲームスタート!!」

「まずは私のターン!ドロー!

さあ、出番ですよ『熟練の黒魔術師』召喚!!

そして手札から永続魔法『前線基地』発動!!

手札から『W ウイング・カタパルト』を特殊召喚!!カードを1枚伏せ、ターンエンドデース!!」

やばッ、このキャラ楽しッ。

ちなみに使用デッキはブラック・マジシャンとVWXYZのアレだ。

「俺のターン、ドロー!

手札から魔法カード『強欲な壺』発動!」

いきなりですかい。

「『融合』発動!

手札の『E・HEROエンシャント』と『E・HEROプリズマー』を融合!!

こい、『E・HEROオヘブズ・ガイ』!

「こ、攻撃力2800、だど……。」

いきなりそれはないでしょ。

「行けエエエエへブズ・ガイ！！エンジェルシューウウトオオオオオオ！！」

やばいやばい、大分とやばい。

はア、まさかこんなにも早く使うことになるとはなア。

「罨オープン『基地爆破』発動！！

このカードは『前線基地』を破壊することで相手モンスターの攻撃を無効にし、デッキからカードをドローする！！」

ピンポイントだなあこのカード。

とりあえず作ってみたけど・・・使い道が限られてるんだよなあ。

「カードを2枚伏せ、ターンエンドだ！」

「私のターンですね、ドロー！」

魔法カード『強欲な壺』を発動！デッキからカードを2枚ドローします！

『熟練の黒魔術師』を生贄に捧げ、来なさい『ブラック・マジシャン』

もうみんなびつくりしない、なれたっばいなあ、おじさんちょっと悲しいよ。

ちなみに色はパンドラさんの奴。

「さらに、『？ タイガー・ジェット』召喚！

行きますよ、ドッキング！！『VW タイガー・カタパルト』合体召喚！！」

男の夢だよね、合体。ちなみに合体召喚は勝手に名づけた。

「タイガー・カタパルトの効果により、憎き英雄を守備表示にし、
『ブラック・マジシャン』に『蝶の短剣 エルマ』を装備し
行け！タイガー・カタパルト！！

メガ粒子砲！！」

「ビグザム！！？」

なぜ知ってる丸藤翔！

「畏カード『ヒーローバリア』を発動！
相手モンスターの攻撃を無効にする！」

「ならば『ブラック・マジシャン』で攻撃！パピ ヨン光線！」

やっぱり装備魔法はネタに走らないとねえ。

で、攻撃はというとブラック・マジシャンが杖を捨て、「蝶、サイ
コーー」と言いながらヘブンス・ガイを殴り、杖を拾いに行った。

・・・すげえよ海馬コーポレーション。

まさかうる覚えネタまでにも反応するとは。

「まだまだあ、速攻魔法『光と闇の洗礼』を発動！
デッキより出でよ！『混沌の黒魔術師』！」

出てきた瞬間「今夜の俺はあア、ジエントルマンキャラなのよ。」
って言ってた。

やっぱりスゲーぜ海馬コーポレーション。

ネタも欠かさず入れるってか。

「効果により墓地の魔法カード『強欲な壺』を手札に加えるぜ。行けえい、混沌魔術師、カオス・ブラフアム!!」

「攻撃名ちげえよ!!」

「はーはっはっはっはっはあ、小さいことを気にしたらだめだぞボウズ。

名前?ノリで付けたに決まってるじゃない。

あと声が若本になってきた。何故に?

「ちょッ、声がおかしいってうわあああ!!」

俺、中二病になったかも。

「『強欲な壺』を発動し、ターンエンドだ。」

次のターンにライトニング・ボルテックスを浴びせ、止めをさしてやる。

アレ、これ、死亡フラグ?

「なんだかわくわくしてきたぜ、俺のターン、ドロー!

『天使の施し』を発動、デッキからカードを3枚ドロし、2枚捨てる。

さらに魔法カード『ミラクルヒュージョン』発動!!」

「いまさら融合したって無駄だぜ、貴様の融合デッキには攻撃力2800以上のモンスターは入ってないはず俺様の勝ちだ!」

「このカードが、俺を勝利へと導いてくれる。こい！『E・HER
Oフレーム・ウイングマン』！」

「だかそいつじゃア攻撃力がたりねえなあ。次のターンで貴様に落
雷を落とし、直接攻撃で決めてやるぜ！！」

あ、これ死亡フラグだ。

「ヒーローにとっちゃアこのフィールドは殺風景すぎるぜ。フィー
ルド魔法『摩天楼スカイクレイパー』発動！！」

負けましたーっと。

「行っけエエエエ『混沌の黒魔術師』に攻撃！スカイクレイパー・
シユートー！！」

「だ、だか『混沌の黒魔術師』は破壊されたら墓地へと送られる、
次のターンで俺の勝ちだ！」

だがあの伏せカードが気になるが、まさか。

「そんなことは百も承知だぜ！永続罨発動！！『王宮の鉄壁』！！」

まじでかよ、だから主人公は嫌なんだよ。

「フレーム・ウイングマンの効果発動！永理のライフに直接ダメ
ジを与えるー！」

まさかとは思うがあのカードを使ったりしないよな、無罪釈放パー
ティーであげたあのカードを。

「これで止めだ！『火炎地獄』を発動！！」

やっぱり来たよこのご都合主義の塊めツ。

「ぐツ、たとえこの場で死すとも・・・闇は消えん・・・貴様らが存在する限り、私はよみがえ、ぐはあツ！！」

ノリで言いました、後悔はしていません。

「し、勝者、遊城十代ナノ〜ネ（なんなノ〜ネあのセリ〜フわ。）」

「ガツチャ、楽しいデュエルだったぜ。」

「負けた、だが次は俺が勝つ！またその日までサ〜〜ラバ〜〜！」

視点：十代

腰に引つかかっているワイヤーに引つ張られ、どこかへ行ってしまうた。

「ちょッ、引つかかっているよ、服が引つかかれて、まッそんな無理やり引つ張つたら・・・！！」

な、なにが起こってるんだ！！

「だからダメだって、死ぬから、苦労して作った衣装が、あッ、仮面が落ちた、パピ ヨン仮面が踏むなヒビが入って・・・！！」

大変そうだなあ・・・。

「あの服、凄い派手だったノ〜ネ。いくら位でシヨ〜カ？」

クロノス先生、買ったあの服。

「えッ、オチがないから落ちろって、ちょつまッイ、エアアアアアアアアアアアアアアアアア！」

しゅ、主人公がいう台詞じゃないよね。(後書き)

どうもナムです。

「永理です、しかしなんで今回は俺たちが後書きに出てるんだ？」
他の小説見てたらやってみたくなくなったからさ。

「お前、それ駄目だろ。」

まあ小さいことは置いといてオリカ紹介しようか。

「逃げたな。」

くオリカ紹介く

『E・HEROエンシャント』
レベル8

光属性

攻撃力：2600

守備力：1500

天使族；効果

このカードを生贄に捧げることで墓地からHEROと名のつくモンスターを1体

召喚条件を無視し、特殊召喚する。

このカードは墓地から特殊召喚することはできない。

『E・HEROヘブンス・ガイ』
レベル10

光属性

攻撃力：2800

守備力：1700

天使族；融合

『E・HEROエンシャント』 + 『E・HEROプリズマー』
このカードは融合召喚でしか、特殊召喚できない。

このカードが戦闘を行う場合、相手モンスターの効果を無効にする。

『基地爆破』

通常罠

相手モンスターの攻撃宣言時に『前線基地』を破壊することで、相手モンスター

の攻撃を無効にする。

「で、本当のところなんで今回は後書きを、前まで『ネタが思いつかん、たまに書くぐらいなら書かないでおこう』って言ってたじゃん。」

まあ、ちょっとしたアンケートを取ろうと思ってな。

「アンケート？」

ほら、永理の部屋って色々とおかしいじゃん。
レバガチャのストファとか。

「あゝ、あれね。」

アンケートで5人以上部屋の構造を見たい！プロフィールとか見たい！って人がいたら書こうと考えてる。

「ふむなるほど。」

プロフィールが見たい！部屋の構造が見たい！どこが違うかわからないから詳しく書いてっ、て人は感想欄に書いといて。ついでにオリキャラも募集する。

「性格が改悪になったりするかもしれないぞ、作者が作者だし。」

どついう意味だてめえ、募集するキャラは見た目、性格、使用デッキ、性別などを書いてくれ、書かなかつた場合勝手に決める。

「それじゃ、また次の更新でお会いしましょう。」

生きてたら更新します。

それではまた次回お会いしましょう。サヨウナラ〜。

あの後どうなったの？

「布切ったよ、苦労して作ったのに。」
ドンマイ。

太陽神がデュエルって想像できん。

視点：永理

学園対校試合・・・凄かったなア・・・。

十代の後攻1ターンキル。

流れとしてはフレイム・ウイングマン スカイクレイパー ミラクルフュージョンで総攻撃！

『すいませ〜ん、さださだ宅配便で〜す。ハンコお願いしま〜す。』

「あつ、はいどうも。」

『またのご利用、お待ちしております。』

そう言いながらテレビに潜って帰った。

さて、東方花映塚でもやりま〜す。おい、家具運ぶの手伝え！」え〜。

「住まわしてやるだけでもありがたいと思え。」

「俺だつてこんな薄気味悪い場所は嫌だが・・・仕方ないだろ。」

気味が悪いって・・・そりゃ異世界に繋がったりしている地下室はあるけどさア。

幽霊いるけどさア。

『万丈目のアニキ〜、この部屋、凄いポスターの量だね〜。』

『見たところかなりのレア物ゲームも山積みだ〜。』

『でも女の子を部屋に入れるにはちよつと。』

『こいつに彼女はいませんよ・・・。』

『俺の能力つてさ〜、原作では神には効かなかったんだぜ、俺の能

力意味なくね?』

『俺なんか人任せの神って言われたし……。』

精霊が増えたらだいぶとうるさい……。

てか霊使いの精霊来てくれマジで、ここむさ苦しい。
てか何、なんで俺の部屋なのよ。涼しい物件だけど。

……新たな精霊が欲しい。

と、思ってた時期が、僕にもありました。

よりもよっておジヤマかよ!

精霊?もちろんあげましたよ。

「永理!タンス運ぶの手伝え!」

「よし断る。」

だって面倒なんだもん。

ん、PDAから着メロが……。

『月光蝶である!月光蝶である!げkk「鬱陶しいわー!」
アブツ!」うであ……』

ソウルイーターのエクスカリバーのほうが数百倍ましである。
あと万丈目よく避けたな、タンス持った状態で。

『随分飛んだな。』

『ありゃ遺跡のほうまで行きましたな。』

『若干無理やりな気もするけど……。』

『てか、潰れてるだろPDA。』

『月影のアニキ、ちよっとヤバいんじゃない。』

ウルセエ、マジウルセエ。

頼むから霊使い、ブラマジ、来い。

「万丈目、取りに行くぞ。」

「一人で行って来い。」

まあどっちでもいいけどね。

遺跡か、久しぶりに行くなア。

はいやってまいりましたアカデミアの遺跡。

前探したときはお宝が見つからなかったけどこんそこそは……。

「こ……これはうまい棒たこ焼き味……だと……。」

『絶対賞味期限切れてるよそれ！絶対食べちゃダメだよそれ！』

『トランスフォーマーコンボイの謎ゲット！』

『古ッ！そのゲーム古ッ！』

『こつちや幻のレアカード『気まぐれの女神』を見つけたぜ！』

「『おっぱいキターーーー！』」

『何このカオス』

いやだつてレアアイテムだらけじゃん、これで興奮しないドレッドは何者かッ！

『ドレッドくん、もしかしてデュエルで使ってくれないの気にし

てるんじゃない？』

うわ、嫌味だ。

『『地砕き』で潰すぞ』

『すいません調子こきました許してください。』

ドレッド君のオラオラがアバターにむかって……アバターご愁傷様。

ん？次元の裂け目みたいなのがこっちにむかって……。

「やっぱり精霊界か！」

「ここじゃア』が「」になるんだね。」

「アバターメタ発言自重。」

……遺跡……ピラミッド……墓守……あ！

もしかしたら俺、死ぬかも……。

「闇のゲーム……やらなきゃダメかな？」

「ダメなんじゃね？」

やりたくねエ。

俺は捕まらんぜ……アレ、コレ死亡フラグ？

死亡フラグでしたよやっぱ。

どうしてこう不幸なんだ俺は。

「我らが神が貴様に会いたがっている。」

そういわれたからついて行ったらさく。

「我とデュエルせよ。」

って言ったのよ神様。

いきなり何？

しかもインティだし。

それに明日香達が人質のとられてるらしい。

メンドクサッ。

今度パン奢ってもらおう。

「デュエル！」

「我のターン、ドロー。」

遊戯王ってすごいね・・・竜でもデュエルできるんだ。

どうやってデュエルディスク持つてるかって？・・・ご想像にお任せいたします。

「我は『キラートマト』を攻撃表示で召喚、ターンエンドだ。」

インティの場にグロトマトが現れた。

もう誰も傷つけないんだー！

俺はファーストガンダム派だ！

「では俺のターン、ドロー。」

全体的に気の抜けた感じでデュエってます。

「手札から魔法カード『魔の試着部屋』を発動します。」

今回のデッキはロマンがあります。・・・紳士な。

「800ライフ払いデッキからカードを4枚めくり、レベル3以下の通常モンスターを特殊召喚します。」

まず1枚目、ドロー、モンスターカード！

・・・ごめん。

「『占い魔女ヒカリちゃん』！」

周りの墓守達が「ようじょキター！」って言ってる。このロリコン共め！

「2枚目ドロー、『占い魔女エンちゃん』召喚！

3枚目ドロー『占い魔女フウちゃん』召喚！」

俺の勝ちは決定したア！！

あとドローはしていません、めくってるだけです。

勿論ノリで言ってます。

「4枚目ドロー『占い魔女フウちゃん』！」

俺なんでこのデッキ選んだんだろう・・・。

「そのような雑兵・・・並べたところで壁にしかならぬぞ。」

「残念、こいつ等はサポートカードで真の力を発揮するのだ。」

「なん・・・だと・・・!」

インティさん、BLEACH読んでんだ・・・。

「永続魔法『開運ミラクルストーン』発動!

自分フィールド上の占い魔女と名のつくモンスター1体につき攻撃力を1000アップさせる!

つまり、こいつらの攻撃力は4000!」

周りの墓守達が「踏まれたい」「罵倒されたい」「殺されたい」「テメー等最低だ!

「3体のモンスターを生贄に捧げ。」

「占い魔女達を生贄だと!酷い!」

「外道め。」

テメー等最悪だ!

「出でよ『ラーの翼神竜』」

はたしてこんなに無茶苦茶する主人公がいたでしょうか?

「ラーの攻撃力は生贄に捧げたモンスターの攻撃力の合計数値となる、つまり攻撃力は12000!

ラーの効果発動!1000ライフを払い、『キラートマト』を破壊!ゴッド・フェニックス!」

勿論マリク風にね。

キラートマトに当たって、ファイアー。

・・・スライムだったらばよえ〜んだな。

「さらに『占い魔女ヒカリちゃん』を召喚し、ヒカリちゃんを生贄に捧げ攻撃力20000ポイントアップ。

そしてライフを1になるように払い、攻撃力を2999ポイントアップ。」

つまり攻撃力9000+2000+2999〃オーバーキル。

大体15000のオーバーキルだな。

うわすげえ。

「『ラーの翼神竜』で攻撃、ゴッド・ブレイズ・キャノン！」

ラーさんが突っ込んでボンバーした。

なんか突っ込む時泣いていたような。

「では俺が勝ったんでみんなを元の世界に戻してください。」

「う、うむ。」

しかしお主、どこでそのカードを・・・。」

どこでって言われてもなあ〜。

「企業秘密です。」

「あ、そう。じゃあ戻しとくからどっかで遊んどいて。」

墓守達と話をしていたらなんか闇のゲームを無力化するペンダント貰った。

どっちらっこのお土産らしい。

「また来いよ。」

「次は霊使いを……。」

「我也待っているぞ。」

「じゃ、またな。」

こうして俺達は元の世界に戻っていった。

『永理、PDAは？』

「……あッ！」

太陽神がデュエルって想像できん。(後書き)

「お前さ、少しは自重しろよ。」

「だが断る」

「駄目だこいつ」

「そ、そう。まアいいや。」

え〜と、プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いといて、5人以上で書くから。」

「あとオリキャラも募集中です。感想欄に見た目、性格、使用デッキ、性別などを書いてください。」

ついでに使用デッキも。もし書いてなかった場合、作者が勝手に決めますので。」

「それではまた次回の更新日まで、さよなら。」

「インティと戦ってみてどうだった?」

「ぶっちゃけ暑かった。」

紳士とコスプレとダークネス

視点：亮

俺が出るの久しぶりじゃないか？

まあそんなことはどうでもいい。

どうでも・・・いいんだ！泣いてなんかいいよ？

泣いてなんか・・・。

『マスタ・・・泣いてる。』

「泣いてなんかいない！目にゴミが入っただけだ！」

『帝王って呼ばれてるのに・・・。』

『こつちじゃバカイザーだね。』

「だれがバカイザーだ！」

バカイザーではない、少なくとも未来融合 オーバー来ない 自滅
なんてことはない！

だからバカイザーではない！

『でも最初辺りやってたよね未来自滅。』

『マスタ・・・あのころは仕方ない・・・。』

『その喋り方霊使いがやるものだけオーバーさん。』

そうだ！あのころはアレだ、仕方ないんだ！

だって師範がアレだし！

『マスタ・・・師範が呼んでる。』

まさか、心を読まれたかッ！

『たぶん違っぜ(バ)カイザーさん、鍵がなんとか言ってたぜ。』

「ためバカイザーって言おうとしたろ。」

『痛い痛い痛い痛い！アイアンクローはやめて。』

『とりあえず行っつけ。』

ツインがそう言うので校長室に行ってみた。

ちなみに校長室は永理、クロノス先生、論理委員会の人達で改築され、ゲームセンターみたいになっている。

「こう『フルコンボだドン。』なんん「甘い！スラ・ストライク！」

」

なに言ってるかわかんないだっけ？そこは読者の頭でなんとかしてもらおう。

「えe『波動k「速さが足りないッツ！」』しよーr「サマーソルトなんて卑怯d「めゝる〇とけ」』かg『フルコンボだドン』あずかt「今日こそは負けないぞ十代！」せぶn「今日も勝たせてもらっぜ。」」

全く聞こえません。

そっぴやくロノス先生に万丈目、十代に翔まで居る。いつもはブル―生徒でにぎわい、レッドは勉強しているはずなのに。「俺もいるぞー!」・・・何処からか声が聞こえた気が・・・。

「そついでy「レアファイギュアg「リーチキター!!」ガチャを!」フルコンボだドン」ない!!」「」

「読みにくいのでカットしますね」

「「「お前誰?」「」」

「一応カイザーの精霊です」
「エンドごめん、忘れてた。」

視点：永理

「こつちの服は縫い付け終わったよ」

「万丈目って無茶難題出るときあるよね。」

「XYZなんてできるのか?」

「口を動かさず手を動かせ。」

どうも永理です。今コスプレデュエル大会の衣装を作っています。今残ってる衣装の頼まれた数は20、7割方終わって残りがこの量だよ!

「なんか鍵が送られてきたけど……。校長から。」

「・・・鍵?いったい何の?」

「『インヴァルズ・ギラファ』の衣装完成ですう。」

「なんでギラファなんだろう。翔の衣装。」

「『サイバー・ヴァリー』の衣装、オーダー入りました。」

『何故にヴァリー？』

はア、万丈目何処へ行ったんだ……。せっかく手伝わせようと思ったのに……。

『万丈目なら校長室へ行ったぞ。』

「あのやろ。」

帰ってきたら目の前でおジヤマカード破ってやる。

『それはやめとけ。散らかるし』

「それもそうだな。」

かたずけるの面倒だし。

焼却炉潰れてるし。

ん、鍵？まさか……。

そのまさかでした。

目の前にダークネスがいます。

むっっちゃ熱いです。

『クーラーねえの？ダークネスさん。』

「火山だから。」

『アイス食べてええ。』

「我慢しろ。」

『一体何の用さ。こっちはコスプレ衣装作りで忙しいんだ。』

「あとで手伝う。」

・・・なんでこいつ等は自然に話ができるんだ？

「ダークネス、今手伝え。」

どうせ倒したら気絶するんだろ絶対！俺は騙されんぞ！
結構重労働なんだよ作るの！

「断る。」

「では断ることを断る。」

「断ることを断ることを断る。」

「断ることを断ることを断ることを断る。」

「こて(ry)」

とりあえず作業がまだ残っているので、ダークネスを倒すことにしました。

倒したら元の世界に戻るよね・・・たぶん。

「大丈夫だ・・・たぶん。」

「たぶんをつけないで！」

闇のデュエルらしいけど、勝てばいいんでしょう？
勝てば出れるんでしょう？

「・・・よし、そうと決まったら・・・。」

「デュエル！」

最近デュエル宣言のネタなくなってきたな、と思いつつデッキから5枚カードをドロウする。

・・・じ、事故ったアアアアア！！

「なんだこれは！」「なあにこれえ」

敵さんも事故つたみたい。手札抹殺使つてくんねえかな。

「私の先行、ドロー！」

魔法カード『手札抹殺』を発動！」

・・・よし、まあまあの手札だ。

相手もいいカードを引いたみたいだ。

「魔法カード『思い出のブランコ』を発動し、墓地の『真紅眼の黒竜』を特殊召喚する！」

黒炎弾来るかな。・・・来ないでほしいけど・・・。

「魔法カード『黒炎弾』を発動！2400のダメージを相手に与える！」

黒竜さん・・・口から出してください・・・。

何故に波動拳風？つて、熱ッ！さすが闇のゲーム！

「真紅眼を生贄に『真紅眼の闇竜』を特殊召喚する！カードを1枚伏せ、モンスターをセットし、ターンエンド！」

攻撃力3900・・・出だしとしては中々だ。

「俺のターン！ドロー！」

手札から魔法カード『古のルール』を発動！手札から『レオ・ウィザード』を特殊召喚！」

俺の場にマントを被ったヒビ？みたいなのが出てきた。
やっぱレオはロマンだよな。

「・・・古いな・・・。」

気にするな！

「『レオ・ウィザード』の特殊召喚時、速攻魔法『地獄の暴走召喚』を発動！

デッキよりレオさんを1体、墓地からレオさんを1体特殊召喚する
！」

「闇竜は特殊召喚できない、まさか・・・。」

「そのままかさ！3体のモンスターを生贄に『邪神ドレッド・ルー
ト』を召喚！」

『俺の出番キター！』

うるせえ・・・。

「おい。」

「ん、なに？」

「アレうるさい。」

「うん、俺もそう思った。」

『酷い！』

「「だまれ」「

「うわーん！」』

緊張感の欠片もねえ。

一応元ネタは恐怖の根源なのに。

てか、こんな神、この小説だけだろ。

「とりあえずドレッドで攻撃、ドレッド・サーヴァント！」

攻撃名が違うのは仕様です。

ちなみにただのパンチです。

「畏カード『攻撃誘導アーマー』発動！

攻撃したモンスターは私が選んだモンスターと、戦闘を行う！」

な、なんだってー。

闇竜を破壊できなかったのは痛いな。

たぶん次のターンライボルくるな。

「『メタモルポット』の効果発動！

互い手札をすべて捨て、デッキからカードを5枚ドロウする！」

やべえ、後でイレイザーがすねるよ。

いいドロウだけど……。メタモルじゃなくてもグレファアールさんで捨てるけど。

「カードを2枚伏せ、ターンを終了する。」

バーンダメージ対策にレインボー・ライフを伏せた。もう一つは和睦、これで勝てる！

「私のターン！ドロウ！」

魔法カード『ハンマーシュート』を発動！ドレッドを破壊！」

ドレッドさん滞在ターン、2。

神がハンマーに潰される、シユールだ。

『イ、エアアア』

俺も出したことあるけど、どうやってだしてらんだろ。

「闇竜で直接攻撃！ダークネス・ギガ・フレイム！」

ダークネス・・・アバターの攻撃名どうしよう・・・。

勿論和睦で防ぎましたよ。

「ちつ、カードを1枚伏せ、ターンエンド！」

そろそろ終わらそう。

「俺のターン、ドロー！」

手札から『俊足のギラザウルス』を特殊召喚！」

このデッキ、コンセプトがよくわかんない。

「貴様は墓地のモンスターを蘇生させることができる。

さあ、好きなモンスターを蘇生させな！」

・・・俺って悪役の方があってる気がする。

「では、『真紅眼の黒竜』を特殊召喚しよう。」

どうでもいいけどこっちはじゃ特殊召喚っていうんだ・・・。

俺、普段から蘇生って言ってた。

「さらに速攻魔法暴走召喚！デッキからギラザウルスを2体特殊召喚する！」

「では、私は真紅眼を特殊召喚しよう。」

ふうん、たかが攻撃力2400のモンスター、すぐに破壊してやる。

「ギラザウルスを3体生贄に捧げ、アバター召喚！」

『すごく……。』

「黒いいですって、何言わせるんだ貴様！」

さすがフブキング！ノリがいい！

さて、問題は……。

「ダークネス君、ここでちょっとした問題が発生した。」

「えっ、なに？」

これが一番の問題なんだよね。

「『邪神アバター』の攻撃名はダークネス。そして真紅眼の攻撃名は……。」

「ダークネス・ギガ・フレイム……はっ！」

気づいたか！

「そう、真紅眼姿のアバターの攻撃名がダークネス・ダークネス・ギガ・フレイムになるんだ。」

でもそれは格好悪い、そこで攻撃名のアイデアを求め。」

マジで問題なんだよなあ・・・アバターの攻撃名・・・。
だってダサイじゃん。ダークネス・ダークネス・ギガ・フレイムな
んて・・・。

討論の結果、攻撃名はフルダークネス・バーストに決定しました。
鎧黒竜の攻撃名にも使えるね！

「と、いうわけでアバターで黒竜を攻撃！フルダークネス・バース
ト！」

黒い闇竜が黒い炎を吐く、闇竜だから黒いのは当然か・・・。
その炎に焼かれ、真紅眼が崩れる。

「ターン終了。」

次のターンで、一気に決める。

「私のターン、ドロー！」

真紅眼たちを守備表示に変更、ターンエンドだ！」

「くくく、ドロー！」

魔法カード『ライトニング・ボルテックス』を発動！」

空から雷が降り、竜を燃やし尽くす。

僕・・・悪役じゃないよ。

「魔法カード『死者蘇生』蘇生させるのはもちろん真紅眼！
バトル！真紅眼で直接攻撃！黒炎弾！」

最初あたりはこの名前だったんだけどな・・・なんでダーク・メガ・フレアになったんだろう。

「ぐ、うわあああああ！」

「ジ・エンドだ！潰せ！アバター！フルダークネス・バースト！」

「ぐ・・・あ・・・あ・・・。」

・・・おお！戻ってきた！

スゲエ、スゲエゼゼブンスター！

で、倒れているダークネス・・・どうしよう。

・・・一先ず俺の部屋に連れて行こう。

別にくそみそ的なアレをしようって訳じゃない。

俺はいたって健全で二次ファンなだけだ！

『どこが健全だ！』

『ロリコンの癖に・・・。』

「う・・・うるさい！イレイザー、テメーが運べ！」

『なぜ俺が・・・。』

「『大して活躍してなかったから』」

『酷い・・・。』

イレイザー・・・後でペプシソあげるから元気をだして・・・。

『ペプシソなんかいるかあああ！』

紳士とコスプレとダークネス（後書き）

「チートドロー。」

「いな」

「真紅眼、強かった？」

「結構強かった。」

「ドレッドさん、やっと召喚されましたね。」

「たしかに初めてだな・・・。」

「さて、プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いといて、5人以上で書くと思うから。」

「あとオリキャラも募集中だ。感想欄に

見た目、性格、使用デッキ、性別などを書いてください。

ついでに使用デッキも。もし書いてなかった場合、作者が勝手に決める。」

「真紅眼の闇竜ってさ、ワイバーンだよな。」

「それをいつな
」

吸血鬼と聞くとおせつさまを思い出す。

「……夢想封印……やってみたい。」
『ヤメレ。』

視点：永理

始まりがいつもと違う？気にするな。
ところで……このダークネス……どうしよう。
全く目覚めないんだよね……。

「万丈目、どうすればいいと思う?。」
「それは置いといてコスプレ衣装を作れ。」

さいですかい……。
ダークネスのコスプレ衣装でも作ろう！疲れるけど……。

「手伝おうか?。」
「いや、いい……って、え?。」

声のした方を見ると……吸血鬼がいた。パジャマ姿で……。
たしかTFの……「顔芸女!」「その言い方やめて!。」

「永理……そいつだれだ?。」
「おせつさまじゃない方の吸血鬼。」
「なるへそ。」
「酷い言い方!。」

だって・・・ねえ。吸血鬼ですよ奥さん。
って、誰に言ってるんだ俺・・・。

「・・・で、何の用や？セブンスターさん。」

本当に何の用やこの人・・・人じゃないけど。

「スト2やりに来ました」

グーサインで言う事じゃないよね。

てかタグにキャラ崩壊入れた方がいいかな？

「スト2 スト2」

カミューラさん・・・キャラが・・・キャラが・・・。
ヤベエスゲエ可愛い。

「スト2は校長室に移した。ここはカード専門ショップ、石村だ。」

「なぜに石村？」

「凡アイザックさんゲームの戦艦の名前。」

「あのゲームは怖かったわ、一人で寝れなくなったもん。」

マジでか・・・すんげえイメージ変わったわ。
おっと鼻血が・・・。

「ストファの方なら廃寮の方にあるよ。」

「情報提供感謝するわ、それではサラバダー！」

飛んで行くんじゃないかって歩いて行くだ・・・どうでもいいけど。

カミューラが廃寮へ移動した数分後PDAから……。

『絶望した！絶望した！絶望した！絶望した！絶望した！絶望した！』

……ウゼエ。

『ぜー「何の用だ、クロノス先生……だっけ？」』

PDAからクロノスの独創的な声が聞こえる。

『覚えてないんデス〜ノ？酷いデス〜ヨ……』

まあ、いいデス〜ノ。今からソツチでカードを買いたいんデス〜ノ。

』

「了解、電気代が勿体ないからそろそろ切る。24時間営業だから急がず慌てずガス栓閉めたか確認してから来てください。」

『アナ〜タホントに学生デス〜カ？いつ寝てるんでス〜ノ？』

「気にするな。」

そついい俺はPDAの携帯で言う赤色のアレを押し、PDAでゲームをした。テトリスって、オモシロツ！

……ところで携帯の赤色のアレって、なんて言うんだ？どうでもいいけど。

携帯なんて親のしか使ったことないですがなにか？

「栄ちゃん、万丈目、俺は寝る。店番よろ。」

「アバター店番よろ。」

『アバターさん店番よろしくですう〜。』
『・・・俺・・・一応神ですよ・・・。』

気にするな。

ウザいほど清々しい青空！灰になってハイになりそうなほど熱い太陽！

アカデミア内に聞こえる蝉の鳴き声！

ヤバい引きこもりたい。

おや、正門前でデュエルが行われている。

よく見ると青い方は彼女ができたばかりの金山ではないか。

あちらの赤い制服でマスクを被っているの方は・・・破壊の闇の信者であり隊長である木野山君ではないか。

「リア充が・・・破壊の闇の力・・・思い知れ！」

木野山・・・ホドホドにな・・・。

「レッド寮生徒如きが・・・生意気な！」

「デュエル！」

結果は・・・まさかの赤の方の勝ちだ。

破壊の闇信者は妬みを力に変え、カイザー並のチートドロ、カイザー並の実力・・・いや、カイザー以上の力が備わる。

嫉妬の力ってすげえ。

ちなみにデュエル内容は・・・

青の方の先行、ゴブリン突撃部隊を召喚、エンド。

赤の方、きこのマンを召喚し、フォースで攻撃力を上げ、地割れで相手を破壊、直接攻撃し、速攻召喚でテスト 手札破壊 レベル4 直接攻撃。

・・・嫉妬の力つてすげえ。

ついでに木野山は勝利時に「俺は、勝利をリスペクトするうううう！」って言った。

「十代・・・アレどう思う？」

「相手が哀れに思えてきた。」

ですよね・・・まああの宗教・・・俺が造ったんだけどね。

でもロックデッキとかパーミッションとかバーンデッキとか使う生徒が居るんだよね。

レッドに・・・。

普段は

ブルー

イエロー

レッドだけど嫉妬が加わったら

レッド

ブルー

イエローになる。

・・・嫉妬のt(ry)

まあそれがこれからの物語で重要になることは1期はない。

2、3は分からん・・・出すとしてもギャグサイドだけどなッ!

「そっぴや永理、知ってるか?」

十代・・・居たのか。

「攻略できないヒロインの攻略ルートか?・・・そっぴえば白き精霊はどうした?」

「どこの高校生だ。『ハネクリボー』なら校長室でキミキスやってる。」

ハネクリボー・・・ついにヲタとして目覚めたか。

さて、冗談は置いて。

「知ってるってなにが?」

「アカデミアに湖があつて、そこに最近城が現れたらしい・・・。」

アカデミアに湖あつたんだ。

ん、城?・・・おぜうさまか!

「と、いうわけで城に探検しにいこうと思つんだ。」

「宝は?」

「たぶんある。」

よし、行こうたか・・・探検に!

・・・ところで、どうしてカイザーまで来てるの? わくわくすんな!

で、授業をさb・・・早退してやってきましたころまk・・・城！
看板になんか書いてある、なににな・・・

『吸血鬼の館

入場料

大人300

子供250』

どこのテーマパークだ！

てか城じゃない！

「十代！永理！翔！行くぞ！」

「兄さん・・・。」

「手を引つ張るな。」

「カイザー・・・あんた、変わっちまったな。」

まるで原作の十代とカイザーが入れ替わったみたいだ。

吸血鬼の館に入り、適当に歩いていると・・・扉から光が・・・
扉を開けると・・・。

「あ、殻入った。って、あ・・・。」

カミューラさんが食事中でした。

「闇のゲームやりに来たの？朝食食べ終わるまで適当に、遊んでて。」

「ご飯に玉子のくぼみを作りつつそう言ったので、適当にゲームで遊ぶことにしました。」

・・・ところで西洋の妖怪がメザシと卵かけご飯と味噌汁ってどう

なの？

「腹減った……。」

「じゃあ……食べる？」

「いただきます。」

十代……食べるなよ……。

カイザーも食べたそうにしない！

く思いつかないからいか」「不夜城れええええっど……！」ピチ
ユーン

「ご馳走様でした。さて、ゲームでもしよつか。」

「そだね。」

「ああ。」

おいおい。

ま、なんやかんやで闇のデュエルすることに。

なんやかんやって何があつたかつて？簡単に言つと……

カイザーとカミューラがくにおくんをプレイ　カイザーがカミュー
ラにダメージを与える　闇のゲームに。

……はつきり言おう！しょーもな！

「デュエル！」

どうしてみんなやる気なの？バカなの？死ぬの？

「私のターン、ドロー！」

『ゴ布林ゾンビ』を準備表示で召喚！カードを1枚伏せ、ターンエンド！」

ゴ布林がゾンビ・・・ゴ布林は執念深いから・・・かな。
さすがゴ布林死んでもしつこいゴ布林！

「俺のターン、ドロー！・・・ヤバい事故った。」

カイザーが事故る・・・だと。

あの積み込み上等なカイザーが事故だとう！

「カードを2枚伏せ、モンスターをセットし、魔法カード『封印の黄金櫃』を発動！

自分のデッキからカードを1枚選択し、ゲームから除外する！

発動後2回目の俺のスタンバイフェイズ時にそのカードを手札に加える！

俺が選択するカードは『サイバー・ソルジャー』！ターンエンドだ！」

サイバー・ソルジャー・・・俺が売ったカードだな。

最近サイバー流デッキに入ったみたいなのでカイザーは持っていなかったんだ。

（まさか『サイバー・オーガ』が2枚来て『融合』がないとは・・・）

『運が悪いだけ・・・次は大丈夫・・・。』

『日頃の行いがアレだからな』』

『どういう意味じゃい!』

「あの・・・私ターンエンドなんだけど・・・。」

カミューラの場に人型モンスターがいた。

・・・猫型ロボットみたいな文だな上の・・・。

『僕ドラえもん。』

ため猫型ロボじゃねーだろ。

「俺のターン、ドロー! (あれ? 翔はどこ行った?)」

俺は伏せモンスターをリバース! 『メタモルポット』!

手札をすべて捨て、5枚ドロー! (やっとアタッカーを出せるよ!)

『サイバー・パラサイド』を攻撃表示で召喚! 『サイバー・パラサイド』の効果により除外場の『サイバー・ソルジャー』を特殊召喚し、そのカードに装備する!

『サイバー・ソルジャー』の効果発動! デッキからカードを5枚墓地へ送り、墓地の魔法カードを1枚、手札に加える!

俺は墓地の『サイバー・インパクト』を手札に加える! 行け! 『サイバー・ソルジャー』! 『カース・オブ・バンパイア』に攻撃! サイバー・スパイラル!

カイザー・・・サイバー・ソルジャーが苦しそうだぞ。

寄生虫のせいだ。

「カースが戦闘で破壊された時500ライフを払うことで、私のスタンバイフェイズに特殊召喚するわ!」

「どうでもいい、ターンエンドだ。」

「十代・・・翔はどうした?」

「トイレ。」

「あ、そう。」

翔め・・・ジュース飲みすぎたな。
ちなみに俺はジュースが飲めない。笑えばいいと思うよ。

「ところで十代・・・ハバネロ食べるか？」

「永理・・・お前なんでそんなにハバネロがあるの？」

だってさつき送られてきたもん。

キラメルはイレイザーに持って行かせた。

『なんで俺ばかり・・・』

気にするな！手札コスト。

『だれが手札コストじゃ！』

え？

「私のターン、ドロー！」

・・・そろそろ爪切ろうかしら・・・。

スタンバイ・フェイズにロードを蘇生！そしてロードを生贄に捧げ

『偉大魔獣ガーゼット』を召喚！

魔法カード『幻魔の扉』を発動！（あいつにだけは負けたくない！

だからどんな手段でも使う！）

『サイバー・ソルジャー』を破壊し、私の場へ特殊召喚する！

そしてこのカードの代償として、負けた方の魂は・・・誰にしよう。

┌

「光子カビーム

アイアンカッター

ルストハリケーン

ブレストファイヤー

ドリルミサイル
ミサイルパンチ
大車輪ロケットパンチ
強化型ロケットパンチ
冷凍ビーム
スクランダー・カッター
サザンクロスナイフ
「え、永理？」

すらすらマジンガーの武装を答えられる俺って……。
あつ、翔が帰ってきた。

「このトイレムツチャ綺麗つす。」

マジでか。

「カイザー弟を捕まえろ！」

幻魔の扉からマジックハンド？が出て、翔を捕まえる。

マジックハンドって……。

あとカイザー……無表情はやメテ。

「卑怯だぞ！」

「勝てばいいのよ。行け！まz……ガーゼット！ロケットパンチ
！」

拳は飛びません。

ガーzは普通に殴りました。

ガーzのzがおかしい？元ネタを見る。

かくして、恐ろしい（カイザーが）闇のゲームは幕を閉じた……。このカイザーに勝つ我が宗教団体って……。

「十代……帰ろっか。」

「……うん。」

城？家の地下室か出てきたカミューラが引き続き使ってますがなにか？

たまに栄ちゃん率いるブルー女子がお茶会に使ってるらしい。

「……アレ？」

「ん？どうした永理？」

「……PDA……失くした。」

吸血鬼と聞くとおぜつさまを思い出す。(後書き)

不味い、カイザーのキャラが・・・。

永理「勝利をリスペクトするカイザー・・・目覚めたきっかけはくにおくん・・・。

カイザー・・・色々と駄目だ。」

カイザーのキャラ変更は反省も後悔もしていません。

それが、ナムクオリティー！

永理「てめえもうだめだ。」

くオリカ紹介く

『サイバー・ソルジャー』

レベル4

光属性

攻撃力：1850

守備力：1400

機械族：効果

このカードが召喚、特殊召喚された時、デッキからカードを5枚墓地へ送り

効果発動。墓地の魔法カードを1枚、手札に加える。

『サイバー・パラサイト』

光属性

攻撃力：600

守備力：1980

機械族：効果

このカードの召喚に成功した時、除外されているサイバーと名のつくモンスター1体を特殊召喚し、そのカードに装備する。
このカードが装備されているモンスターの攻撃力は600ポイントアップする。

『サイバー・インパクト』

通常魔法

墓地のサイバー・ドラゴンを3体、特殊召喚する。

翔さ、カイザーについてどう思ってる?」

翔「昔はもつと優しかったような。」

永理「ええー!!?」

番外編・謎になっているシンクロ召喚の誕生と翔のサイバー・ドラゴン

〈シンクロ秘話〉

2ちゃんのとあるスレ

156 : 我が勝利のため、起動せよ！ななしの翼神竜
ラーがシンクロだったら使えてた。

157 : 我が勝利のため、起動せよ！ななしの翼神竜
シンクロ？

158 : 我が勝利のため、起動せよ！ななしの翼神竜
オリカ乙wwww

159 ; 我が勝利のため、起動せよ！ななしの翼神竜
オリカじゃねえ！未来の召喚方法だ！

160 : 我が勝利のため、起動せよ！ななしの翼神竜
あの詠唱しなきゃ召喚できないアレだろwwww

161 : 我が勝利のため、起動せよ！ななしの翼神竜
召喚方法キボンヌ

162 : 我が勝利のため、起動せよ！ななしの翼神竜
シンクロ召喚の手順
+

1・自分のターンのメインフェイズに、自分フィールド上に表側表示で存在するチューナーとその他のモンスター1体以上のレベル合計が、召喚したいシンクロモンスターのレベルと等しくなった時にシンクロ召喚することを宣言します。

2・召喚するシンクロモンスターのレベルとレベルの合計が等しくなるように、チューナー1体とその他のモンスターをシンクロ素材として墓地に送ります。

基本的に、チューナーは必ず1体でなくてはいけません。

3・シンクロ素材としたモンスターが墓地に送られた後、エクストラデッキからシンクロモンスターをフィールド上へ表側攻撃表示が表側守備表示で出します。

コピペだけど堪忍なwww

「・・・シンクロ召喚・・・作ろう!!」

もしかしたら結構売れるかもしれない

このような事があってシンクロが作られたのであった・・・。

「翔がサイバー・ドラゴンを持っている理由」

兄さん・・・いや、カモといった方がいいかな？

なんせ兄さんがゲット出来なかったゲームが僕の手にあるんだから。

「・・・翔、そのゲーム・・・譲ってくれ!」

兄さんが土下座をしてそう言う・・・。だけどね・・・。

「僕もコレ手に入れるのにだいぶと苦労したんだよ……。なのに
タダであげるワケにはいかないよ。
取引だ。」

「と、取引……?」

「そう……。兄さんのサイバーデッキを僕に渡す。ただそれだけだ
よ。」

兄さん……。君に選択権はないんだよ……。

「……。いいだろう。サイバーデッキをくれてやろう。だから早く
ソレをこっちへ寄せ!」

「最初にサイバーデッキを貰う。拒否するならこのゲームを……。
」

「このゲームを……?」

僕は息を吸い、こつ言った。

「割る。」

その後カイザーのデッキが僕の物になった……。
外道? 戦略だよ。

永理「今回は短いな……。」

外編だし？

永理「そうか……。」

では、プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いといて、5人以上で書くからあとオリキャラも募集中だ。感想欄に見たい目、性格、使用デッキ、性別などを書いてください。ついでに使用デッキも。もし書いてなかった場合、作者が勝手に決める。

……やばいコピペ編集超ラク

永理「コピペ……ルイズ……俺、本当に主人公か？」

しるか、ではまた次回の更新かほかの方の小説の感想欄で……さようなら。

温泉といえば混浴、男しかイネエ。

視点：永理

「温泉？」

「そう温泉！！久々に行きたくなっただろ。」

温泉か・・・温泉卵しか思いつかねエ・・・。

原水で緑茶作ってみようかな・・・やめておこう。

「・・・で？温泉で何したいの？・・・まさか翔のていさ」違う！
精霊が出るって噂があるんだ！！」なにを今更。」

邪神とか実体化&擬人化してるではないか。
む、緑茶パン・・・微妙な味だ！

「常に実体化してる精霊がいるではないか。」

『トメさくん、チョコパン4つね。』

「はいよ、よく噛んで食べるんだよ。」

『はいはい。』

・・・こいつら本当に邪神か？
原作（遊戯王R）の面影ねえ！

チョコパン買おうかな・・・。

次のパンは・・・キムチ！？漬物は駄目だろ！！パンにあわん！！

「久々に幻の唐辛子パン食べたい。」

ハズレパンではない！ウマパンだ！

・・・ついでにピザまん食いたい。

なに？キムチも唐辛子使ってるだろって？野菜が入ってるであろう！！我は純な唐辛子が食べたいのである！！キムチは米だ！！

「唐辛子はやめといた方がいいぞ。翔が当てた時すごい辛そうだった。」

そんなにか？言うほど辛くはなかったぜ？俺にはちょうどいいぜ？

おっ、カードパンだ。中身は・・・

「スカゴブ死ぬ！！氏ねの方じゃなくて死ぬ！！」

「『スカゴ布林』・・・ドンマイ、永理。」

テメエなんか使う事ないんだよヴォケ！！普通の主人公とは違うんだよ！！

こんなならマグロの目玉パンの方が数倍マシだよ！！

そっぴや温泉でなんのイベントが行われるんだろう・・・？闇のデユエルはだいぶと軽いノリでやってたし・・・。

どこのFate/tiger colosseumだ！って言われそうなほど軽かったし・・・。

・・・またカードパン・・・次はなんだ？

ポニー・・・緑・・・風・・・。

「ウインたんキターーーー!!!」

「まじっスか!!!?」

『イヨツシヤア!今夜は宴会だー!!!』

『めでてえな!めでてえな!めでてえな!めでてえな!めでてえな!』

なんで喜んでるかって?ウインだからだ!家のカードは色々特殊すぎてアレなんだよ!

今夜は宴会だー!!!

『なあ永理・・・。』

「なんやドレッド。」

『ウインの精霊は別の人が持つてるよ。』

「・・・は?」

マジでか・・・畜生!畜生!畜生!

ウインたんとにゃんにゃんできると思ったのに!!

絶望した!ほかの作者の小説では美少女&美少女の精霊が居るのにこっちはいない事に絶望した!!

「十代・・・温泉行こうか・・・。」

「お、おう。」

もしかしたら新しい精霊が出てくるかもしれないし!

うん、希望を持って月影永理!信じていればヒノキの棒でゾーマ位倒せるんだ月影永理!神竜は無理です!

もう男の娘でいいから・・・。

視点：十代

永理・・・ゲテモノ食っても大丈夫って凄いな・・・。
あと翔、ウイン欲しそうにするな。
てか男の娘って、どんだけ萌えに餓えているんだ。

『不味ッ!!!』

イレイザーがなんかのジャムパンを当てたみたいだ・・・。
なんか臭いのはそのせいか・・・。ん？臭い？まさかくさやジャム
か!!!?どこの日常だ!!
あと温泉に行っても新しい精霊は出ないと思うよ。
おっ、黄金の玉子パン。普通だ。

いやでもキムチパンとかマグロの目玉パンとか幻の唐辛子パンとか
よりはマシだ。

・・・贅沢言つなとか言つな!!4回以上食ったら飽きるわ!

ん？アレはカイザー？

「む・・・不味い。」

カイザーの食べたパン。それは・・・

鮭のキモだった。

うん、温泉行こう・・・。

視点：永理

久々の温泉だ、今日はゆっくり浸かろう。

・・・いつの間に移動したかって？小さいことは気にするな。
・・・なんかヘリの音がうるさい・・・アレ？ヘリから人が飛び降りたような・・・？

「はーっはっはっはっはっは！！我こそはセブンスターズの人、あびど・・・」

聞こえたのはそこまでだった。温泉が結構な高さまで波打った。バツシャーンって、こうバツシャーンって・・・。温泉に飛び込んではいけません。

「アレは無敗伝説を持つデュエリスト・・・アポピス3世！！」
「アビドスだ！」

三沢・・・居たのか！

「三沢居たのか？」

「君たちが温泉に入る前から居たんだが・・・。」

「気付いた人？」

「なんか久しぶり。」

「居たんだ、三沢君。」

「ずっと居た！吸血鬼と聞くとおせうさまを思い出すから居たよ僕
！！」

で、へりからデッキのホルダーが投げられた。

お察しのとうり、ばら撒かれます。空中で。

パワー・ウォールの如く、温泉に浸り、凡蟹さんでも無限の可能性がなくなるほどビチャビチャに。

ヤヴァイマジセブンスターズって、面白ッ!!

「ぶくく、翔、コレデュエルしなくても、あはは、いいよね。」

「きゃはは、いいと、ヴァハア! おも、ぶくく。」

「わ、笑うなー!!」

「「「それ無理、ぶはははは!!!!」」」

その後、温泉に浸かり、帰りました。

その頃出番がない精霊界では・・・

「・・・アレ? 出番ない?」

「グルルルルルル!!」

「デュエル・・・やりたかったな。」

「ギャウ!!」

温泉といえば混浴、男しかイネエ。(後書き)

魚の目玉？

「部屋に飾ってるぞ？」

趣味悪ツ！

「俺が出てない。」

デカいし？

「擬人化できるだろうが！！俺をだせえい！！ドレッド・サーヴァント！！！」

リバーズカードオープン、次元幽閉

「イェアアアアアアアア！！！」

ふう、さて、プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いといて、5人以上で書くと思うから。

「あとオリキャラも募集中だ。感想欄に

見た目、性格、使用デッキ、性別などを書いてください。

ついでに使用デッキも。もし書いてなかった場合、作者が勝手に決める。」

コピペ楽だ！

「テメエは駄目だ色々と・・・。」

霊使いは俺の嫁！ただしダルク、テメエは駄目だ！

「このロリコンめ」

オリキャラ出すの久しぶりだ……。

視点：永理

「『ブラック・マジシャン・ガール』で翔にダイレクトアタック、黒・魔・導・爆・裂・破。」

『コレで止めよ 黒・魔・導・爆・裂・破 』
「負けたく。」

どうも永理です。いま翔とデュエルしています。

今俺が使っているカードはみんなの嫁、ブラック・マジシャン・ガールですね。

このカードは唯一マトモなカードなんですよ。

……99枚の中で唯一……。

「翔……お前弱すぎ。破壊の闇（嫉妬団）の時はカイザーもびつくりのディステニードローなのに。」

「仕方ないツスよ、あの時は嫉妬パワーでやってんスから。」

説明しよう！破壊の闇（レッド寮嫉妬団体）はリア充（要するにカップル、専門用語で異端者と言う）は普段はアニメ道理の弱い団体だが嫉妬の力よって

カイザー（アニメの方、この小説では未来融合とオーバーロードはリストバンドに隠している）並のチートドローを持つのだ！

尚チートドロー1回に尽き1嫉妬が消費されるのだ！（1嫉妬＝ゲームのプレイ時間4分）

嫉妬の力ってスゲー。

コレも転生した時に入手した力・・・フラグ力が欲しかった！
ええ！最低なのは分かってますよ！男が変態で何が悪い！男はすべ
からく変態だ！だがその変態を認めるか否かで、男の器は天と地ほ
どの差があるのだ！

・・・神よ！どうして私をこんな性格にしたのですか！私はこんな
残念な性格&思考回路を与えた神を恨みます！

「セブンスターズはまだ来ないのか・・・。」

アドビス「ア・ビ・ド・ス！」はまだデッキの作成中だし・・・あ
・・・

「暇だ〜。」

視点：誠

「『大天使クリスティア』で止めだ！」

「畏カード『爆導索』でクリスティアを破壊！破壊された『ピエロ
ナイト』の効果で自分手札の枚数×400のダメージ！僕の手札は
2枚！君のライフは800ポイント！僕の勝ちだ！」

「なッ・・・うわあああ！！！」

また・・・負けただと・・・。

何故だ・・・何故だ何故だナゼダナゼダナゼダ！！

・・・そうか、アイツが悪いんだ・・・アイツが・・・勝たなけれ

ば……。

力が欲しいか……。

……誰だ！

力が欲しいのなら……くれてやる！

そう俺の頭の中の誰かが言った瞬間、目の前が光に包まれた……。ふと目を開けると……見たことのないカードがデッキに……。

「死天使……？」

神が俺にチャンスくれたんだ……。

これで……コレで奴に勝てる！

「神よ！私めに復讐のチャンスをもたらした事に感謝いたします！」

「うるさい。」

「じゅん。」

視点：影丸

「はあ、タイタンが闇のデュエルしたらこんな面倒な事せんですんだのに……。」

「確かにな、4カード。」

「よし、私も4カード。」

「ちっ、4カード。爺さんは？」

「2ペア……。」

「「「いよつしゃー!!」「」」
「畜生。」

あゝ、なんで天使族使いをセブンスターズに引き入れなあかんだ。
てかみんな運いいなオイ。いや・・・私の運がないのか？
アムナエルは何してるんだらう？
カミューラくん出番だよ。

『骨までくだk・・・なによ影丸・・・。』

「今アムナエルは何してる？」

『一緒にテイルズしてるよ。』

何してるのアムナエルさん・・・。

てか何なのこのノリ・・・？

『もういい？通信切るわよ。・・・喰らえ！ジェノサイドブレイバ
ー！』

カミューラエ・・・本当にキャラが・・・。

『ぶるあああああ』

可愛い、スゴイ可愛い。

てか、ロリボイスなのね・・・。

アレ？俺悪役だったよね？

視点：永理

「魔法カード『ワン・フォー・ワン』を発動！
手札の『カタパルト・タートル』を捨て、『魔導サイエンティスト』
を特殊召喚！

魔法カード『死者蘇生』で『カタパルト・タートル』を特殊召喚！
『魔導サイエンティスト』の効果で『サウザンド・アイズ・サクリ
ファイズ』を特殊召喚！

『サウザンド・アイズ・サクリファイズ』の効果により『偉大魔獣
ガーゼット』を装備する！」

「なん・・・だと・・・。」

「『偉大魔獣ガーゼット』の攻撃力は4000！つまり『サウザン
ド・アイズ・サクリファイズ』の攻撃力は4000！

更に『魔導サイエンティスト』の効果により『コアラッコアラ』を
特殊召喚！ラストに『コアラッコアラ』を特殊召喚！

『カタパルト・タートル』の効果により『コアラッコアラ』を射
出！もう一回『コアラッコアラ』を射 出！ラストに『サウザンド・
アイズ・サクリファイズ』を射 出！！

『カタパルト・タートル』を射 出し、止めだ！」

「ひどくね？」

「ガチデツキならこんなもんだブルー生徒くん。」

むっ、アレは・・・天界磁くん！8〜9話ぶりだな。

「久しぶりだな・・・悪魔使い！」

我こそはセブンスターの一人！天界磁誠！いざ！七精門の鍵を賭
け！デュエルだ！」

「闇の力を手に入れたか・・・面白い！俺様を楽しませろ！俺様の

！」

気のせいだなうん。気のせい気のせい。

「『ダーク・ネクロファイア』を召喚！」

禿げ頭の女の人が出てきた。あ……睨まないでお願い。
気にしてただね。

「魔法カード『トレード・イン』発動！

手札の『DTスラッシュ・ブラッド』を墓地へ捨て、2枚ドロ！
更に装備魔法『早すぎた埋葬』発動！スラッシュ・ブラッド蘇生！

『DTデス・サブマリン』を捨て、『ダーク・グレファア』を召喚！

『DTスラッシュ・ブラッド』に『ダーク・グレファア』をダーク
チューニング！

神と生が朽ちし時、封印されし闇が舞い降りる！我が地へ現れよ！
ダークシンクロ！

出ですよ！『不完獣キメラ』召喚！」

俺の場に見えろ完璧に見えるキメラ。

だがリミッターが常に外れている危険な人工生命体……。

「このカードは攻撃力は3000！

行け！キメラ！『ダーク・エンジェル』を攻撃！キメラ・パッシュ
ン！」

キメラの口から黒い炎を吐く、その炎に当てられ、羽からダーク・
エンジェルが朽ちて逝く。

くくく、絶景だ！

「ぐっ、だが『ダーク・エンジェル』の効果により、デッキから死
天使と名のつくモンスターを特殊召喚する！
こい！『死天使アモラティス』を召喚！」

レベル5で攻撃力が1470？何故そんなカードを……。
何を考えている？

「何を考えている？『ダーク・ネクロファイア』でアモラティスを攻
撃！念眼殺！」

「罨カード！『和陸の死者』！」

「ちっ、モンスターを伏せ、エンドフェイズにキメラの効果でデッ
キを3枚墓地へ送る！」

伏せたモンスターはメタモルポット……。次のターンに手札を一気
に回復してやる。

「俺のターン！ドロー！」

「死天使の使い』を召喚！」

攻撃力が2000の下位モンスター……。

「『死天使の使い』の効果発動！このカードを破壊する！」

「『死天使の使い』の効果により、墓地から『死天使クリスティアゼ
ロ』を召喚！」

黒いクリスティア？アイツは誠の精霊だったはずじゃ……。
まあどうでもいい。次のターンで潰す！

「『死天使クリスティアゼロ』で『不完獣キメラ』を攻撃！タナト

ス・フラッシュユ！」

攻撃力2700のモンスターで攻撃？何を考えて……。

「『死天使クリスティアゼロ』の効果！」

キメラが……破壊された！？

どういう事だ！？

「クリスティアゼロは特殊召喚されたモンスターと戦闘を行う場合、そのモンスターを破壊する！」

そして『死天使アモラティス』の効果により、デッキからカードを1枚墓地へ送る毎に100ダメージ軽減する！俺はカードを3枚墓地へ送り、ダメージを0にする！」

面倒くせえ効果だ。

しかし、死天使……聞いたことがないし持ってない……どういう事だ？

「ターンエンドだ。」

「俺様のターン！ドローカード！」

ちっ、リバーズモンスターオープン『メタモルポット』！

5枚ドロー！『ワタポン』を特殊召喚！『DTシールド・ドルリラ』を特殊召喚！

『DTシールド・ドルリラ』に『ワタポン』をダークチューニング！破壊の闇に現れし闇の竜よ、今我のため、力を解き放て！

ダークシンクロ！我が契約せし死の神！『カラストロフィー』！」

機械族じゃないです。

「『カタストロフィー』で『死天使クリスティアゼロ』を攻撃！カタストロフィー・ブレス！」

黒い竜が闇のブレスを吐く、だがクリスティアゼロが黒く光り、カタストロフィーを破壊する。

だがカタストロフィーの効果でクリスティアゼロも破壊される。

「な・・・何故クリスティアゼロが・・・？」

「くきやはははは、『カタストロフィー』の効果は、破壊された場合、相手モンスターを破壊する！」

『ダーク・ネクロファイア』でアモラティスを攻撃！念眼殺！」

ダーク・ネクロファイアが目からビームを出した。

何処のネウロですか？

「ぐっ、アモラティスの効果で7枚墓地へ送り、ダメージを軽減！」

おいおい、残りデッキが15枚だぞ・・・何を考えている？

「カードを伏せ、ターンエンドだ！」

「俺のターン！ドロー！」

墓地の死天使と名のつくモンスターを全て除外し、『死霊天使アラブラミス』を墓地から特殊召喚！

アラブラミスの効果発動！除外されている死天使と名のつくモンスター1体につき、攻撃力を200ポイントアップさせる！

除外されたモンスターの数は19！よって攻撃力は3800ポイントアップ！」

おいおい、こりゃ不味いんじゃないか？

アラブラミスの元々の攻撃力は1800・・・FGDを超えたな。
だが、その攻撃力が命取りになるんだぜ！

「行け！アラブラミス！『メタモルポット』を攻撃！死天使怨念波
！」

はい、残念。

「畏カード！『スパーク・ブレイカー』！『ダーク・ネクロフィア』
を破壊！

『ダーク・ネクロフィア』の効果で、アラブラミスのコントロール
を得る！」

「な・・・！
くっ、ターンエンド！」

アラブラミスの効果は除外された死天使の数攻撃力が上がる。それ
は自分の数ではなく、全体の数・・・。
それこそが・・・最大の利点であり弱点！
この勝負！俺の勝ちだ！

「自身のモンスターで死にな・・・！
行け！死霊天使！死霊雷光波！」

「ぐっ、うわあああああ！！！」

ジ・エンドだ・・・。

「中々楽しめたよ。くくく、さあ、七精門の鍵を渡してもらおうか
！」

おや？奴の居た場所には、カラスの羽と鍵のみが落ちている・・・？
消えた？何故？

・・・まあ、どうでもいいか。

さてと、鍵を拾ってさっさと寝ますか！

『まだ18時だぞ。』

気にすんな。

オリキャラ出すの久しぶりだ……。(後書き)

お疲れ様。

『今回は俺出てない……。』

たまにはいいじゃないアバターくん。

『俺全く出てないんだけど……。』

ラストの台詞がお前でいいよ。

「全くダメージ喰らわなかったな……。俺……。」

それは置いといて、久しぶりのオリカ紹介!!

『ダーク・エンジェル』

レベル3

闇属性

攻撃力：1300

守備力：1200

天使族：効果

このカードは悪魔族としても扱う。

このカードが戦闘によって破壊され、墓地へ送られた時、デッキから死天使と名のつく攻撃力1500以下のモンスター1体を特殊召喚する。

『DTスラッシュ・ブラッド』

レベル8

闇属性

攻撃力：2100

守備力：0

悪魔族：ダークチューナー

このカードをシンクロ素材とする場合、ダークシンクロの素材に
し
か
で
き
な
い。
このカードが守備表示でフィールド上に存在する時

このカードを破壊する。

『不完獣キメラ』

レベル4

地属性

攻撃力：3000

守備力：1200

獣族：ダークシンクロ

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する
ダークチューナー
「DT」と名のついたチューナーのレベルを

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルか
ら引き

その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する場合

エンドフェイズにデッキからカードを3枚、墓地へ送る。

『死天使アモラティス』

レベル6

闇属性

攻撃力：1470

守備力：2100

天使族：効果

このカードは悪魔族としても扱う。

このカードが自分フィールド場に存在する場合、自分が戦闘ダメージを受けた場合

自分のデッキの上からカードを任意の枚数墓地に送る事で

自分が受ける戦闘ダメージを墓地に送ったカードの枚数×100ポイント少なくする。

『死天使の使い』

レベル4

闇属性

攻撃力：2000

守備力：0

天使族：効果

このカードは悪魔族としても扱う。

このカードが召喚に成功した時、このカードを破壊する。

このカードが破壊され、墓地へ送られた時

自分の墓地からし天使と名のつくモンスター1体を特殊召喚する。

『死天使クリスティアゼロ』

レベル8

闇属性

攻撃力：2700

守備力：1700

天使族：効果

このカードは悪魔族としても扱う。

このカードは戦闘によっては破壊されない。

このカードが戦闘を行う場合、相手モンスターが特殊召喚されたモンスターだった場合、そのモンスターを破壊する。

『DTシールド・ドルリラ』
レベル9

闇属性

攻撃力：0

守備力：0

戦士族・ダークチューナー

このカードをシンクロ素材とする場合、ダークシンクロの素材にしかできない。

このカードをドローフェイズ以外にドローした場合、フィールド場に特殊召喚できる。

『カタストロフィー』

レベル8

闇属性

攻撃力：3300

守備力：2700

幻神獣族・効果

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在するダークチューナー「DT」と名のついたチューナーのレベルを、

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルから引き、

その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。

このカードが破壊された時、相手モンスターを1体破壊する。

『死霊天使アラブラミス』

レベル12

闇属性

攻撃力：1800

守備力：2900

天使族：効果

このカードは通常召喚できない。

このカードは墓地の死天使を5体以上除外した場合のみ手札又は墓地から特殊召喚できる。

このカードは悪魔族としても扱う。

このカードの攻撃力は、除外された死天使と名のつくモンスター1体につき

200ポイント攻撃力をアップさせる。

このカードは魔法・罫の効果では破壊されない。

主人公どっちだっけ？

「俺だ。

所で名前の由来とかはあるのか？」

無い！

「それでこんなにも出せるのか貴様は……。」

はっはっは。

サイエンカタパこの時代使えたっけ？

「野良デュエルだからいいんじゃない？」

食の恨みは恐ろしや

視点：永理

あゝ、疲れた……。
なんでこんな日にアイツとデュエルしなきゃならなくなったんだ？
次は美少女のセブンスター来ないかな？

「美少女!？」

うわっびっくりした!

いきなり目を覚ましたな吹雪さん……。
さて……。と……。狸に連絡でもしますかな……。

「おい校長、吹雪さんが目え覚ましたぜ。」

「おい永理、でっかいエビを貰えたから今日エビフライにしようぜ。」

『さすが万丈目のアニキ!そこに痺れる憧れる!』

『何ネタやってんだメモエ……。』

『まあまあ、そう怒らずに……。イエローだって悪気があったわけじゃないんだから。』

……。ウルセエ……。

「少し静かにしろ……。今吹雪さんが目覚めたところなんだから……。」

「つーかなんでこのタイミングで目覚めるんだ？
しかも美少女とか言ってたような……。
駄目だこいつ……早く何とかしないと……。」

『おおっ！目が覚めましたか、吹雪くんが……。
コレでまたファンクラブとかが活発に……。はあ。』

大変ですなあ……。校長も……。」

『おジャマドレミー！』

『『『『ドツカーン！』』』』

ウゼエ……。マジウゼエ。」

なんなのこのノリ、さすがおジャマ！

「じゃあもう切りますね、電池がアレなんで。
』そうですか……。では……。」

校長がそう言ったのを確認し、電話を切った。

「アレ？ここは何処？僕は誰？」

「お前は天上院 吹雪、ここは俺の部屋だ。」

「一応俺も住んでるんだが……。」

気にするな万丈目。アドバイス「アビドスだ！」だって住んでんだから。

ウゼエ……。アポピス「ア・ド・ビ・ス！」ウゼエ……。」

……。よし！今日はエビフライにしよう！

「千丈目！今日はエビフライだ！」

「万丈目だ！」

どっちでもいいだろ・・・ソースまだあったっけ？

よし、ここは吹雪ングに任せよう！

「吹雪さん、ソース買ってきてください。拒否権はありません。」

「えー？何で僕が・・・まあいいけどさ・・・。」

いいんだ・・・吹雪さんエ。

視点：キング？

おい上の？はなんだおい。

まあそれは置いといて、月影くんの態度が先輩に対しての態度じゃない様な・・・。

えっ？出席日数が足りないから留年？マジで？

えっ？なんで名前を知ってるかって？ダークネス時代に影丸さんから聞いたからさ。

は？記憶を失ってるんじゃないかって？失う訳ないだろ。そう簡単には・・・。

じゃあ最初の台詞はなんだって？へっ？目覚めたら普通ノリで言うでしょ？えっ？言わない？

・・・ソース買いに行こう・・・。

なんだろう・・・すんごい久しぶりに外へ出た気がする・・・。

あっはっは、久しぶりに明日香に会いに行こうかな・・・女子風呂

でなッ!

あつ痛い痛い、石ころが飛んで来た様な……。

「あ……。」

「うん……!?!」

亮……なにその薄い本……月影くんの部屋の本と同じ様な……。
まさか……目覚めたのか亮……ついに本当の男の子として……。
中等部時代は熟女や醜女好きだったのが遂に……。

「スクラップ・フィスト!」

「ひでぶっ!」

い……いきなり何するんだ亮!中等部からの長い付き合いじゃないか!

涙が出ちゃう……男の子だもん!

「黙れ……この本を見たからには生かして帰さん!」

「吹雪さん?ソースはまだかな?かな?」

アレ?月影くん……いつの間に……。

気のせいかな……二人の背後に三幻神が……。

「さつさと買ってこいや吹雪!」

「くたばれい!衝撃のファーストブリットお!」

ああ……空つて……こんなに青かったっけ……?

僕は今……空を飛んでいます……。そして落ちてます……。

アレ？クロノス先生・・・？まさか・・・。

「避けて！クロノス先生避けて！」

「ひよっ？」

何だろう・・・頭が痛い・・・。

「痛いノーネ・・・いきなり何するノーネ・・・。」

「すみません・・・亮が僕を飛ばしたから・・・。」

嘘はついてないよ・・・事実だし・・・。

ああ・・・頭がクラクラする・・・恋とは別の・・・物理的な・・・。

「じゃあクロノス先生・・・僕はソース買いに行かなきゃならないので・・・この辺でサイナラ〜。」

「ちよっ待つノーネ！って足早っ！」

はっはっは！面倒事に巻き込まれる位なら逃げるさ！
購買へ向かって・・・全速前進DA！

その頃永理達は・・・

「なあ、学食の方でソース・・・貰えば良かったんじゃ・・・。」
「・・・あ！」

気のせいかな・・・なんか殺意が・・・。

気のせいだなうん。
さて……

「トメさん、ソース下さい！」

「おや、久しぶりだねえ、吹雪くん。はいよ、230円だよ。」

学校のソースって高いんだよね……ハア……。
帰ろう……なんか明日香に会う気分じゃないし……。

「エビフライってなんかドン・フライを連想させる……。」

ドン・フライってなんだろう……自分で言っただけど……。
おや……アレはアビドスくん？何をして……はっ！

忘れてたけど彼……まだ負けてないんだっ！ソレであの生徒と
デュエルを……。

気のせいだよな！タニアまで居る気がするけど気のせいだよな！

「あつ、吹雪さん目が覚めたんだ。」

「ちようどいい……タツグデュエルだ！」

いや……いきなり言われても……。

タニア何とかしてくれ。

「諦めろ。」

何それ酷い。

あつ、月影くん！助けてくれ！

「ソースまだあったからデュエルしても大丈夫だZE」

何処の魔理沙だ！

あと鍵はどうするの？

「俺のを授けよう。全力で頑張れ。」

ああ・・・助け舟はどこにもないのか・・・。
タニア止めてくれ。

「ムリダナ。」

畜生・・・。

「さあ・・・デュエルだ！」

「全力で行くぜ！」

「なんで私まで・・・。」

「畜生・・・。」

「「デュエル！」」「「はあ・・・デュエル。」」

さて・・・読者の皆様はアニメ版のタッグデュエルは知ってるでしょう。
よ。

でも知らない人のために月影くんが説明してくれます。（多少改変して
してるかも？原作のルール知らないし。）

「月影 永理と・・・。」

『「アバターの・・・。」』

『「タッグデュエルルール説明！」』

「プレイヤーは最初のターン攻撃できません。
なんで最後の人も攻撃できないんだろう？」

『ソレは言わないお約束だぜ！』

墓地は共通で例えば吹雪ングが『貪欲な壺』を発動した場合

『貪欲な壺』を発動したプレイヤーのデッキに味方のカードも入ります。

終わったらしつかり返しましょう。』

「以上！説明終わり！短い？気にするな！」

先行はじゃんけんで勝ったアボカドくん「アビドスだ！貴様ダークネス時代に散々注意したではないか！」からのターンだ。

「俺の先行！ドロー！」

『E・HEROエアーマン』を召喚！効果により『E・HEROオーシャン』を手札に加える！

カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

「ちっ、属性HEROめ……。」

おお……十代くんが燃えている。

何で名前が分かるかって？上の文参照。

「僕のターン！ドロー！」

魔法カード『竜の目覚め』を発動！

デッキからレベル4以下のドラゴン族モンスターを手札に加える！

僕が手札に加えるのは『黒竜の雛』！そして『黒竜の雛』を召喚し、効果発動！

『黒竜の雛』を生贄に捧げ、『真紅眼の黒竜』を特殊召喚！
カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

アビドスくんのデッキが変わってる？何故……？

「私のターン！ドロー！」

『アマゾネスの戦士』を召喚！更に装備魔法『ミスト・ボディ』を装備！ターンエンド！」

ワーオ・・・ガチコンボだ！。
タニアさんソレヤヴァイです。

「俺のターン！ドロー！
魔法カード『天使の施し』を発動！

デッキからカードを3枚ドローし、2枚捨てる！

墓地のネクロダークマンの効果によりエッジマンを召喚！

カードを伏せ、ターンエンド！」

おお！十代くんも凄いね。本当にレッド寮生徒かい？
なんか・・・なんでもない・・・。

「俺のターン！ドロー！」

戦いの生態系！戦いの食物連鎖！その頂点に君臨するのはこの俺と
属性HEROだ！」

アビドスくん・・・何処の社長ですか。

「御託はいい・・・さつさと続ける！三下！」

おいおい十代くん、三下はないでしょ。
一応無敗王者なんだよ。

「威勢がいいな・・・魔法カード『融合』！
こい！『E・HERO アブソルートZero』！」

アブソ？ポケモンですか？

あれ？十代くん？・・・。

「残念でした！畏カード『ヘル・ポリマー』！」

十代くん？ソレは主人公が使うカードじゃないよ。
てかなんでそんなアンチカードを？

「これでアブソは俺の手中に収まった！きえーきえーきえーきえー！」

十代くうううん！！！！

その笑い方悪役！原作の綺麗な心はどこへ行った！

「卑怯な・・・モンスターをセット、ターンエンド」

どうしよう・・・たしかがら空きの方を狙ってもタニアが庇うだろ
うからなあ・・・。
よし！ここは・・・

「僕のターン！ドロー！」

リバースカードオープン！『砂塵の大竜巻』！破壊するのは勿論そ
の伏せカード！」

「なっ・・・（ちっ・・・『死せし英雄の骸』が・・・。）」

いいカードが破壊出来たかな？

「行くよ！魔法カード『黒炎弾』！アビドスくんを対象にするよ！」

真紅眼が黒い炎を吐き、アビドスくんの人中に撃った。

人中は駄目でしょ。

「なっ、ぐわあああー！」

「更に儀式魔法『高等儀式術』を発動！デッキから『片翼の飛龍』と『ゼロ・ドラゴン』を墓地へ送り、『闇竜の黒騎士』を儀式召喚！そして『闇竜の黒騎士』を生贄に捧げる事で、デッキから『真紅眼の黒竜』を特殊召喚！そして伏せカード『天よりの宝札』！デッキからカードを5枚ドロー！」

我ながら凄まじいドローだね・・・。
おっ、いいカードだ。

「魔法カード『サイクロン』！破壊するのは勿論『ミスト・ボディ』！」

そして魔法カード『禁じられた聖杯』！『アマゾネスの戦士』の効果を無効！

そして『真紅眼の黒竜』を2体生贄に捧げ、『真紅眼の皇帝竜』をレッドアイズエンペラードラゴン召喚！

おお、カッコいいぞ真紅眼！コレが皇帝になった姿・・・。
どこぞの銀河竜なんて目じゃない！

「はっはっは！行け皇帝竜！目障りな女を殺せ！滅びのダークネスバースト！」

どう聞いても青眼の攻撃名です本当にありがとうございました。
なんだろう・・・叫びたいぜ僕のコスモ！

ダークネス時代よりも輝いてるぜ僕！あっはっはっはっはっは！

「攻撃！破壊！大喝采！」

「吹雪さん……どこのキャベツ社長ですか？」

タニアの残りライフはわずか1000 この勝負！貰った！

「ターンエンド！」

「不味いな……私のターン！ドロー！」

（来たか！）魔法カード『アマゾネスの蘇生術』を発動！『アマゾネスの戦士』を蘇生！

更に『アマゾネスの戦士』を生贄に捧げ、『アマゾネスの神』を召喚！」

弱い！弱すぎる！今の僕では攻撃力2900など……弱すぎる！

「『アマゾネスの神』は1ターンに一度、相手モンスターを操る事ができる！『真紅眼の皇帝竜』を選択！」

「なっ、なん……だど……。」

なんちゃって！ヴァカめ！皇帝竜は相手のカード効果を受けないんだよ！」

「な……カードを1枚伏せ、ターンエンド！」

勝利の女神は僕たちのチームに微笑む！

さあ十代くん！君のチートドローで！勝利を掴もう！あと月影くんエビフライ残しとして！

「もぐもぐ……頑張れー」

『タルタルウマ！』

「博多の塩！」

『『『『『サクサクウマ！』』』』』

畜生。

「俺のターン！ドロー！」

『融合』発動！手札の『沼地の魔神王』とスパークマンを融合！

『E・HER シヤイニング・フレア・ウイングマン』を融合召喚！更に魔法カード『苦渋の選択』！

さあ、この中から選べ！アビドス！」

なになに・・・

E・HEROスパークマン

E・HEROバーストレディ

E・HEROネクロ・ダークマン

E・HEROバブルマン

E・HEROバブルマン・ネオ

なあにこれえ。

どれを選んでも攻撃力アップって・・・。

外道だ十代くん！月影くんの影響を受けたか！

「どれを選んでも同じだろう・・・バブルマンを選択する。」

「OK！残りは墓地へ！更に魔法カード『セメタリーヒーロー』を発動！

デッキからHEROを5体墓地へ送る！行け！シャイニング！アビドスに攻撃！セメタリー・フラッシュ！」

うおっ、眩し！

ああ、目があゝ、目があゝ。

「さあ行け！エッジマン！エッジスラッシュ！」

「何故俺を、ぐわああああ！」

「アブソ！絶対氷壁！」

「貴様・・・ぐわああああ！」

ひ・・・酷い・・・。オーバーキルだ・・・しかも止めアビドスくんのエースモンスターだし・・・。

「くくく、ターンエンド！」

外道だ・・・外道だよ十代くん！原作の綺麗な心は何処へ・・・。
一体どうして・・・確かに属性HEROやシンクロが増えたけど・・・。

「（殺らなきゃ・・・殺られる！）私のターン！ドロー！」

『アマゾネスの神』の効果はつd「残念、畏カード『天罰』！」ひ
よっ?？」

タニアさん・・・どここの羽蛾だ！

どこの羽蛾だ！大事な事なので二回言いました！

「うっう・・・なんで吹雪はそんなにも強いんだよ。ターンエン
ド・・・」

タニアさん・・・どうなのそのキャラ。

「僕のターン！ドロー！」

皇帝竜で攻撃！滅びのダークネスバースト！」

なんでだろう・・・攻撃法がバルバトスのジェノサイドブレイバー
風なのね・・・。

粉碎！玉砕！大喝采！

勝利！

「さあ、なんとかの鍵を渡してもらおうか。」

十代くん、七精門の鍵ね……。

「ちっ、ほらよ。」

「なんか釈然としないんだよなあ、まあ負けたから渡すわ。じゃっ、さようなら。」

タニア……ハングライダーで風に乗って飛んで行った……。アビドスくんはどうするんだろう。

「カモン！ヘリコプター！」

アビドスくんがそう叫ぶと、空からヘリが……。ではなく海から船が出てきた……。ヘリじゃねえのかよ！

「では、さくらば。」

おお、崖から飛んでも死なないとは……。さすが幽霊！

「月影くん……エビフライ頂戴。」

「「ごめん全部食った。」」

「「ダークネス・ギガ・フレイム！」」

「「R+ スマブラ的回避！」」

許さん！許さんぞう！！

食の恨みは恐ろしや（後書き）

エビフライ・・・食べたいなあ。

永理「貴様の分はない！」

このガキヤア・・・。

永理「さて、オリカ紹介！」

『竜の目覚め』

通常魔法

デッキからレベル4以下のドラゴン族モンスターを1体、手札に加える。

『死せし英雄の骸』

通常罫

デッキからHEROと名のつくモンスターを1体、特殊召喚する。
このカードは、自分のメインフェイズにのみ発動できる。

『片翼の飛龍』

レベル3

地属性

攻撃力：1200

守備力：1700

ドラゴン族

その昔、数多の人々を喰らった伝説の飛龍。
その力はもう、残ってはいない。

『ゼロ・ドラゴン』

レベル1

攻撃力：0

守備力：0

ドラゴン族

ガンドラの雛で、最強に近い力を持つ竜。

だがその力をまだ、コントロールできない。

『真紅眼の皇帝竜』
レッドアイズエンペラードラゴン

レベル12

攻撃力：5500

守備力：2200

ドラゴン族：効果

このカードは、真紅眼と名のつくモンスターを生贄にしなければ、
召喚できない。

このカードは魔法、罫、効果モンスターの効果を受けない。

『アマゾネスの蘇生術』

通常魔法

墓地のアマゾネスと名のつくモンスターを1体、特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターの効果は、無効となる。

『アマゾネスの神』

レベル10

攻撃力：2900

守備力：2900

戦士族・効果

このカードは、アマゾネスと名のつくモンスター1体で、生贄召喚できる。

1ターンに一度、相手モンスターのコントロールを得る。

『セメタリーヒーロー』

通常魔法

デッキからHEROと名のつくモンスターを5体、墓地へ送る。

永理「なんとというチートカード……。」

はっはっは、名前の由来なぞ考えんでもいくらでも出てくるわ！

永理「お前さ……もういいわ。」

エビフライのしっぽは堅い！

永理「俺も食えん。」

テメエは食えるだろ・・・魚の目玉も食ってるんだし・・・。

黒蠍？どんな効果か知らぬ！！

視点：永理

「ジエノサイドプレイヤー！」

「うるさい吹雪。」

「うるさいぜ吹雪先輩。」

「酷い・・・お兄ちゃん泣いちゃう！」

何だこの人・・・今回は結構マトモだったのに・・・
どうしてこうなった！作者！

はあ・・・客が来ない・・・何故？神のカードもあるのに・・・。

『今授業中だからだろ・・・。』

「ああ！」

そうか！でもなんでこいつ等は逝かないんだ？

「永理字が違うぞ。・・・もしかしたらセブンスターズが現れるか
もしれないからD A」

それを利用してサボってるんですね分かります。

こいつ等駄目だ！

「永理」

十代の声！？何故？まだ授業の時間だアアア！なのに……。えっ？なんでお前は授業に出ないのかって？店番だ！

「あつ、居るんだ……。授業はどうした！」

「無断欠席DA！」

「授業出るよ……。」

見るな！そんな目で俺を見るなアアア！

てかお前が言うな。

「お前が言うな。」

「あはは……。十代くん何か用かな？用がないなら是非、カードを買ってくれ！」

「じゃあ『魔導雑貨商人』を2枚……。って、そんなこと言ってる場合じゃないよ！」

なんか外に警察の人が居るんだが……。何かしたのか？」

俺は無実だ！本当に無実だ！

本当だよ……。昔不良達の頭になってたけどさ……。なんとなく嫌な奴のデッキを燃やしたり破いたりしたけどさ……。

「ハア……。ドロップアウトは何時まで経ってもドロップアウトだな……。」

「黙れネタデッキのエリート（笑）」

「貴様……。」

「えっ？何この雰囲気？僕置いてけぼりなんだけど……。」

喧嘩すんな……。面倒な奴らだ……。

あと地獄デッキは地味に強いお。

イレイザー、後ヨロシク。

『酷いよマスター……。』

「マスターって言うていいのは俺の嫁だけだ！」

思考がおかしい？気にすんな！そんな事よりスモークチーズを食べよう！

『お前本当に主人公か？』

「言うなアバター……。」

はっはっはっは！知るかヴオケがあ！

無理矢理ベリーメロン食わずぞ！シークレットソード？放っちゃう

よおおじさん！

塩くれてやるぞ！

「外に居る人達って誰？」

「三沢居たのか。」

「吹雪さんがジェノサイドブレイバー、って叫ぶあたりから居たよ！」

メタ発言多いな……。この小説。

いつその事アレするか？アレしちゃうよ俺？アレってなんだ！

「しらねえよ。」

ちよっ、心の声読むな十代！

「あの……。もう入ってもよろしいでしょうか？」

「「「「あっ、忘れてた。「「「」」」」

すまぬ、ガチで忘れてたZE ワザとではないんだZE

「酷い。」

「存在感がない同志、仲良くしましょう。」

「よし断る。」

「しょんなく。」

三沢ウゼエ・・・とりあえずウゼエ・・・なんかウゼエ・・・。
ロリコンの癖に！くさやジャム食わずぞ！
俺？・・・嫌いですけどくさやジャムは。

「で？何の用なんだ？用がないなら帰れ！商売の邪魔になる！」

「でも今、授業中・・・。」

「大丈夫よ。授業ならつぶす・・・潰れたわ。」

明日香・・・潰したって言わなかったか？もしそれが本当ならお前
ヤバイぞいろんな意味で。
てか居たのか？気付かなかったぞ？

「明日香！お兄ちゃんの為にこの店へやって来たんだね！お兄ちゃん
うれしいよ！」

「それはない・・・ちよつとカードを買いにね。」

で、この人達誰？警察みただけど・・・何かやったの？

何も殺つてないし犯つてない。

本当だよ！それは昔の話だよ！

ぷるぷる、ぼくわるいデユエリストじゃないよ。

「何もしていない、おそらく七精門の鍵の件じゃないか？」

「まあ・・・そうですね。その件です。鍵は奪われてないですけど
用心に越したことはないですからね。」

ちなみにこいつ等はカードの精霊・・・らしい。アバター達が言った。

「皆さんは何処に、鍵を隠していますか？」

「私は女子風呂の排水溝に隠しているわ。」

明日香・・・どこの犯罪者だ！絶対犯罪犯すよこの人！
てか髪の毛詰まったりしないのか！？

「リストバンドの中だ。」

カイザー・・・居たのか。音も声も聞こえなかったから気付かなかったぞ。

・・・リストバンド好きだねこの人・・・。オーバーロードに未来融合隠してるしね・・・。

しかもデッキに4枚積み・・・こいつデュエリストとして最低だ！
本人はリアリストって言ってるけど・・・。

「俺は翔の髪の中に。」

翔！気付け！普通気付くだろ！

それと十代！どうしてそんな所に・・・。

「俺はデッキケースの中に・・・。」

さすが三沢！地味だ！普通だ！特徴ねえ！

「俺は薄い本のどれかに・・・。」

万丈目・・・お前なあ・・・
どうしてそれに隠したよ・・・。

「大会の景品にしたぜ！」

「『『『『『隠せよ！』』』』』」

はっはっは！強化ガラスだから問題ない！
それに最近大会出る人いないし・・・。
・・・バカとか言うな！

アレ？クロノスは？原作ではカミューラに負けて鍵失くしたけど・・・。

「クロノス先生なら今日はおやすみよ・・・なんでも阪神VS巨人の試合を見に行ったらしいわ。」

「授業しろよ・・・。」

アレ？あのでかいおっさんの肩が震えているぞ？

「くっくくく・・・それさえ聞けばもはやきさま」「奪ってもたしかデュエルで盗らなあかんど。」・・・まじで？」

知らなかったんかい・・・駄目だこのおっさん・・・。

「貴方がセブンスターズの一人なら・・・私とデュエルよ！最近出番が無いしデュエルだって全くやってないし・・・。」

明日香エ・・・メタ発言を・・・一応アニメのキャラなんだからさ・・・。

「だったら俺もだ！なんか無視されてはっかな気がするから……」

三沢……だからコスプレデュエル大会で活躍させたるって……。

「だったら俺だってでゅえ」「テメエは沢山出てるだろ!!」「」
だが原作では俺がデュエルする事になってるんだ!」

万丈目……アニメのキャラが原作とか言うな……。
もうジャンケンで決める……。

まさか万丈目が勝つとは……なんか二人位絶望してたぞ？

「デュエルの女神は俺に微笑んだ！さあデュエルだ!!」
「えっ？あ、ああ。……なんか釈然としないなあ……デュエル
!」

さて……万丈目はあのデッキをどこまで使いこなせるかな？
……警官の方誰だっけ？

「俺のターン！ドロー！
魔法カード『苦渋の選択』を発動!」

おいおい……一気に決めるつもりかよ……。
しかも選択したカードが……な……。

「俺は『おジャマ・イエロー』を選択!」
「なら残りは墓地へ捨て、『アームド・ドラゴンL?3』を召喚!
永続魔法『ハイリスク・レベルアップ』を発動!デッキの魔法力!

ドを5枚墓地へ送り、『アームド・ドラゴンL?5』を特殊召喚！」

初っ端から飛ばすねえ、破壊されたら泣くよ？

「カードを伏せ、ターンエンド！」

さて・・・アイツはどんなインチキを使う？

何故インチキを使うと思うかって？勘だ！

まあ、俺の勘は外れやすいけどな！

「俺のターン！ドロー！」

・・・魔法カード『黒蠍団の勧誘』を発動！デッキから黒蠍以外のモンスター1体と、黒蠍と名のつくモンスター1体を特殊召喚する！デッキから『首領・ザルグ』と『黒蠍 毘外しのクリフ』を特殊召喚！さらに魔法カード『黒蠍団召集』を発動！

手札から『黒蠍 茨のミーネ』『黒蠍 強力のゴーグ』『黒蠍 逃げ足のチツク』を手札から特殊召喚！カードを伏せ、ターンエンド！」

一気に並んだな・・・黒蠍？・・・ああ、アレか！たしか万丈目が中の人ネタするアレか！

・・・いつからだろう・・・公式が病気になったのは・・・。

「俺のターン！ドロー！」

スタンバイフェイズに『ハイリスク・レベルアップ』の効果発動！このカードが表になっている時、1000ポイント払う。

魔法カード『ハイリターン・レベルアップ』を発動！自分の場に存在する『ハイリスク・レベルアップ』を墓地へ送り、デッキからモンスターを特殊召喚する。

俺はデッキから『アームド・ドラゴンL?7』を特殊召喚！『ア

ムド・ドラゴンL?7』の効果により、手札の『地獄殻の使い』を墓地へ送り、貴様の場のモンスターすべて破壊する！
アームド・ミサイル！」

アレ？ドラゴンってたしか生き物だよな・・・なのになんで爪を射出してんだ？

おかしいよね！

「なつ、貴様・・・。」

「はっはっは！大事な友達が潰されてさぞや悲しいだろうな！だがそれも、俺にとっては至福の時だ！相手のエースモンスターがあっさり破壊されず様・・・最高だ！」

万丈目が・・・万丈目があ！完全に悪役に・・・。
駄目だこいつ・・・。

「案外あつけなかつたな・・・『地獄戦士』を召喚！更に魔法カード『イージー・チューニング』を発動！

墓地の『地獄からの使い』を除外！『地獄戦士』の攻撃力を2600アップさせる！さらばだ・・・『アームド・ドラゴンL?7』で直接攻撃！

完全破壊！アームドブラスト！」

うわぁ・・・これはやり過ぎ感が・・・。

そもそも爪を射出し、プレスを吐いて、相手へのリスペクトが全くない感じが・・・。

「チエックメイトだ・・・『地獄戦士』で止め！一族秘伝ヘルスラッシュ！」

一族秘伝なんだ・・・地獄戦士・・・。

「な、うわあああああ!!!」

「あっはっはっはっはっは!!! 貴様の實力など、所詮その程度だ。雑魚め!」

万丈目・・・明らかにやり過ぎだ。

よし、カードをあげよう! レア物の青眼だ。レアカードって書いてある方のな!

「さあ、七精門の鍵を俺に渡し、とっとと失せろ!」

「商売の邪魔になるから消えてくれ。」

外道? タグに書いてあるではないか!

あっはっはっはっはっは!!!

「僕たち・・・空気だね・・・。」

「次こそは・・・ちゃんと活躍を・・・。」

・・・お前らなあ・・・そんな事言っているのか? 一応アニメキヤラだぞ?

黒蠍？どんな効果か知らぬ！！（後書き）

「お前さ、もう少し長くは出来ぬのか？」

ムリダナ。

・・・さて、後書きが短い気がするけど気にせずオリカ紹介！

「お前なあ・・・本当に駄目だ！」

『ハイリスク・レベルアップ』
永続魔法

自分フィールド場にL?と名のつくモンスターが存在する場合に発動。

そのカードに記されているモンスターをデッキから特殊召喚する。

このカードが破壊された場合、この効果で特殊召喚したモンスターを破壊する。

このカードが表側表示で存在する場合、自分のスタンバイフェイズに1000ポイントのライフを払う。

『黒蠍団の勧誘』
通常魔法

自分のデッキから黒蠍と名のつくモンスター1体と黒蠍と名のつくモンスター以外を1体、特殊召喚する。

『ハイリターン・レベルアップ』
通常魔法

自分フィールド場に表側表示で存在するハイリスク・レベルアップを墓地へ送り
デッキからハイリスク・レベルアップで特殊召喚したカードに記されているL?と
名のつくモンスター1体を特殊召喚する。

「『レベルアップ!』という名のk魔法カードの方が強いな……。」

黒蠍団の勧誘はいいと思うが。

「まあそれ位だな。」

だね。

恋愛などはなア、ソレだけで死亡フラグなんだよぉー！！

視点：みなんとか

「俺の名前は三沢 大地だ！！」

「いきなり何叫んでんだよ三・・・沢？」

「『？』を何故つける十代くん！？」

俺はそんなにも影が薄いのか・・・。

だが・・・俺は今回こそデュエルをする！

そもそも俺はセブンスター編は影が薄くはなかったはず・・・何故D A I E R Y ! ! ! !

「あつ、三沢くん居たんだ。」

「居ましたよ!？」

ふっふっふっふ・・・今回は活躍するぞ！コスプレデュエル大会！これに出て、俺は新・・・じゃねえや。真のメインキャラに・・・！そのために・・・そのために来たのに・・・。

「何故俺が準備を・・・。」

「アレ？知らないの三沢くん、三沢くんの出番はこれだけだよ。」

へ？翔くんもう一回言ってみてくれ。

「だから、三沢くんの出番はこれで終わりだよ。」

「なん・・・だと・・・?」

・・・そだ・・・嘘だあああああ!!!?」

そんな訳がない・・・そんな訳がないんだ!だって・・・だって作者は・・・作者はアア・・・活躍させてくれるって・・・くれるって言ったのに・・・。

もう誰も信じられない・・・信じないぞオオオオオ!!!」

「十代、この木材を持ってきてくれ。」

「サー・イエッサー」

「・・・俺は軍曹ではないぞ?」

「三沢くんの出番はこれで終わりです。」

ちくしょおおお!!!」

俺はレオパルドンじゃねえぞオオオオオ!!!」

視点：栄

「4カードね。」

「2ペア・・・。」

「3ペアですわ!」

『ロイヤル・ストレート・フラッシュですう。』

「「「なん・・・だと・・・」」」

気のせいですかねえ、喋るのが久しぶりな気がしますう。
気のせいですね!はい!

「そついやあさく、レッドでコスプレデュエルするらしいんだけど、皆は出るの？私は出るけど。」

ジユンコさんは、出るらしいですねえ・・・やはり永理さんの造った衣装が着たいんでしょうかあ？

まあ、気持ちは分からないでもないですけど・・・。

「私は遠慮いたしますわ、レンちゃんできょつとした曲を作ろうかと思ひましてね。」

「シヨタコン・・・」

「何か言いましたか？明日香さん。」

「ももえ・・・顔が怖いわよ・・・。」

ももえさん・・・何言ってるんですかあ？レンって誰ですかあ？あと、ももえさんはオタクなんですかあ？

「ぶえつくしよい！！」

「どうした永理・・・くしゃみなんかして・・・。」

「明日香く、どこ行つたんだい・・・お兄ちゃん寂しいよ。」

「吹雪黙れ。」

「酷い・・・。」

何か聞こえたような気がしますますが気のせいですよね・・・。
あとカミューラさん・・・何してるんですかあ？

「どうぶつの森。オオクワガタゲットオオオオ！！」

『シーラカンス4匹釣りましたけれど・・・。』

「ちくしよおおお！！」

私は運はいいですからねえ、ジャンケンで負けた事は13回しかないんですよ。

「栄ちゃんはどつするの？出るの？出ないの？」

『出ますよう。永理さんのは凄いですからあ。』

「なんかえ」「黙りなさいももえ、この小説がR 15になってしまうわ。」「明日香さんメタ発言はどうかと。。。」

なにがエロいんですかあ。私にはわかりませえん。

「フィツシユイヤツフオオオオウ!!!」

。。。煩いですカミユウラさん。。。

視点：吹雪

明日香、どこ行ったんだよ。お兄ちゃん寂しいよ。

あと永理くん、背中蹴らないで痛いよ。

あと吹雪と呼ばないでお兄ちゃんと呼んでくれれば僕はうれしいな。

「貴様。。。この小説をボーイズラブにするつもりか！」

「永理。。。一応あんなでも先輩だから。。。認めたくないけど。。。」

「みんな酷くない！？あと僕は普通に女子が好きだよ！基本大学生以上が好みの普通の少年だよ！」

みんなして酷い。。。二人だけだけ。。。

て言うか永理くんロリコンだよね！？そんな人に女性好きだけの馬鹿なんて言われたくないよ！

「そんなことは言っていない。心の中で呟いただけだ！」

酷いよ……。

あと心読まないで！

「そもそも17過ぎたらもうおばさんじゃん。」

「ロリコンめ。」

「ロリコンじゃん！」

『では、俺はその上に行く！』

「……アバター黙れ。」

『黙れって……俺神だよ？』

そういえばそうだったね。忘れてたよ。

うん？永理くんどこかへ行くのかな？

「嫉妬センサーが反応した……今から幸せいっぱい奴に地獄を見せに行く。」

永理くん……怖いよ……君本当に十代くんと同じ年齢かい？

「おじさんを差し置いて幸せなど……許すわけにはいかない！イザ！漆黒の世界へ！！！」

永理くん！！？

帰ってきて！！

「ハハハハハハア！！『オレイカルコスの結果』で、あ奴の

魂を頂戴するぜ！」

永理くんが……壊れた!? 僕には止めることができないよ……
残念ながら……そのカップルさん……ご愁傷様だね。

視点：最終鬼畜暴走月影 永理

「奴をデュエルで拘束せよ！」

「「「サー・イエツサー!!!」」」

はっはっは、逃げる逃げる!

さあ万丈目! 奴を捕まえるんだ!

「捕まえたぞ! 異端児!」

万丈目ナイス!

「なっ、何の用ですか……?」

「貴様に朝日は拝ませねえ! フィールド魔法! 『オレイカルコスの結果』!!!」

「「よし!! 万丈目さん! 早く逃げて!!そこに居たら永理さんに二人同時に狩られてしまいますよ!!」」

「おう! 今そちらへ行く!」

さあ、シヨアの始まりだ!

「このフィールドはこのデュエルに勝利しなければ出る事は出来ない。そして負けた者は魂を刈り取られる!」

「な・・・それなら貴様も負けたら魂が抜き取られるって事じゃねーか！」

「ご安心を・・・私には闇のデュエルを無効化するアイテムを持っていますのでね。私が負けた場合、どちらも助かるんですよ。」

「貴様・・・卑怯な！」

「そりゃどうも、さあ、狩らせてもらっつぞ、貴様の幸せをなッ！」

「デュエル！」「ぎゃははははー！」

先ずはあ奴のターンか・・・まあ、どちらでも良い。

貴様は一ターンで葬ってやる・・・くくくくく・・・。

「『ゴブリン突撃部隊』を攻撃表示で召喚！ターンエンド！」

弱い、弱すぎるぜ。

「私のターン！ドロー！」

『黒竜の雛』を攻撃表示で召喚！『黒竜の雛』を生贄にして、『真紅眼の黒竜』を特殊召喚！

魔法カード『二重召喚』！その効果により私は更にモンスターを通常召喚出来る！

そして『正義の味方カイバーマン』を攻撃表示で召喚！そして『正義の味方カイバーマン』を生贄にし、『青眼の白竜』を攻撃表示で召喚！」

「なっ、貴様積み込みしただろー！」

何故分かったし。だが、このデュエルにルールなぞは関係ないぜ！それに、俺の手札にはオネストが有る。・・・オレイカルコス？あれは奴をデュエルで拘束するためだが？

「『青眼の白竜』でキモいゴブリン集団を攻撃！破滅のブラストスクリーム！！」

更に、ダメージ計算時に手札の『オネスト』の効果を発動！」

はっはっはあ！気分爽快だぜえ！

「なっ、うわあああああ！！」

「ヒャーハツハツハツハア！真紅眼で貴様を攻撃！黒炎弾！！」

「うわあああああああ！！」

ジ・エンドだぜヒャーハツハツハツハア！！

奴が負けたからオレイカルコスの光に包まれた。

スゲエ、アニメ道理だ！

空に魂みたいなのが吸い込まれていき、その魂が抜けた体・・・いや、骸と言った方がいいな。

骸が奴の場所、いや、今骸になっているのは奴か・・・まあ、そこに転がっている。

「諸君！私は勝利したぞ！！悪しき者の魂は、何処へ消えた！」

「『ジーク、永理！ジーク、永理！』」

・・・さて、帰って文園祭の準備でも手伝いますか。

・ ・ ・
もう少し主人公した方がいいかな？

恋愛などはなア、ソレだけで死亡フラグなんだよお！！（後書き）

お前さア、オレイカルコスはあかんやろ。

永理「仕方ないじゃん！他に拘束出来そうなカードが無かったんだから！」

やっぱりお前、セブンスターズにしたら良かったわ。

永理「俺は誰にも従わない！」

金貰えるなら？

永理「従うぜ！」

お前外道だな。

アバター「俺たちの出番がなかった・・・。
三沢「せめてもう少し出番が欲しかったなア。」

ロリサイコー近○相○サイコーブス最悪……。

視点：永理

文園祭……それは俺の夢とロマンと桃源郷が造られる時間……。
文園祭……それは好きなキャラクターにコスプレ出来る唯一の時
間……。

文園祭……それは明日香ちゃんやこの島に来たレイちゃんやカミ
ユーラのコスプレ姿が見れるという至福の時……。

文園祭……それはトメさんによって齎される我が嫁……じゃね
えや我が心のオアシスが汚されてしまった絶望の時間……。
あえて言おう！何故……何故……

「明日香さんがブラマジガールのコスプレじゃなくてトメさんがブ
ラマジガールのコスプレしているんだ……！！！」

「何叫んでるんツスカ？永理くん。」

「貴様には解らんのか！熟女と言うアンデットによってブラマジガ
ールが汚されているんだぞ……あの狸め……地獄を見せてや
る。」

「こ、怖いツスよ永理くん……。」

怖い？何処がだ？

あつ、万丈目何してるんだ？

「やはり……XYZでは中途半端だな……VWXYZまで行っ
た方がいいか？」

無茶言うな！こちら首なし騎士の鎧作るのに大分と金と時間を掛けたんだよ！

そもそもカイザーが「ディアバウンド・カーネル」の格好してみたいな……。」とか言うからなあ……首なし騎士の剣の部分がまだ未完成なんだよ！

サイバー・ヴァリー？あれは翔の奴だ！

「てか翔。どうやって移動してるんだ？俺が作ったんだけど……。」

「下の方に穴開けて足を出しているんだ。兄さんはなんのコスプレなの？」

「『インヴァルズ・ギラファ』だが？」

「なんと悪趣味な……。」

ディアバウンド・カーネルなんか作れるか！

まあ……首なし騎士の完成度が予想の斜め上を行っただんで部屋に飾ってるんだけどね……。」

じゃあ今は何の恰好かって？死霊伯爵ですがなにか？

む、アレは……アネキ！？

なんでアネキが！？

しかも何故ヒータ？声も見た目もシャナたんだしさ！

「アレ誰ツスか？見たところヒータっぽいツスけど……。」

「アレは俺の姉だ。」

「なん……だと……！？」

『新たなヒロイン……私の立場が……。』

栄ちゃん・・・居たのか？

アレ？あれって・・・藍ちゃんか？大分と久しぶりな気がするな！

「トメさん、貴女のその姿はまるで天使のようね」「ダーク・メガ・フレア！」「ぎゃあああああ！！」

なにしてるんだろう？二人とも・・・。

「私の出番が全く無いんだけど・・・。」

「ドンマイだ若人。生きてりゃ良い事あるって！」

「デュエルだって、全くしてないしさあ。」

「じゃあ、永理〜！その幽霊さんとこの子、デュエルさせて〜。」

無理難題だなおい！栄ちゃんのデッキは今、他の子どもに貸してるつてのにさ〜。

「栄ちゃん、デュエルやりたいツスか？」

『はい、そろそろマトモにデュエル描写が欲しいですう〜。』

「吹雪め・・・貴様あ！」

「亮！目を覚ますんだ！あんなブスの何処が良いんだ！」

「ゆ・・・許さん！！！」

はあ、あっちの方もなんとかしないとな・・・。

まあ、栄ちゃんのデッキはもう一個有るんだけどね！

たしか、このデッキだったな・・・。

「栄ちゃん、パス。」

『えっ？はい！』

ああ、可愛いな栄ちゃん可愛い。
藍しゅま・・じゃなくて藍様がデュエルディスクを構える。
藍ちゃんの方は可愛いと言うより、凜々しい感じだなうん。

「『デュエル！』」

まずは栄ちゃんのターンか・・・。

『私のターン！ドロ〜！』

『地縛霊』を守備表示で召喚ですう〜。

カードを2枚伏せ、ターンエンドですう〜！』

栄ちゃんやつぱ可愛いよ栄ちゃん。

地縛霊？アレはアイドルカードみたいなのだ！

「ワタシのターン！ドロ〜！」

魔法カード『愚かな埋葬』を発動！デッキから『トラップ・リアクター・RR』を墓地へ送る！

『ブラック・ボンバー』を召喚！効果により墓地の『トラップ・リアクター・RR』を特殊召喚！

『トラップ・リアクター・RR』に『ブラック・ボンバー』をチュ
ーニング！

世界の平和を守るため、勇気と力をドッキング！シンクロ召喚！愛
と正義の使者！『ダーク・ダイブ・ボンバー』！」

あるえ〜？その口上はパワーツールじゃなかったっけ？

コレ絶対ネタだよな？

『畏れ〜ド『奈落の落とし穴』を発動ですう〜。』

「えっ、あつうつうつ。カードを伏せて、ターンエンド』では『サイクロン』でそのカードを破壊ですう〜。』……うええええん！！」

栄ちゃん……なんてガチカードを……。

「あの幽霊……このデュエルに勝ったね。」

「え……あ、ああ。そうだね。」

逆に勝たなければおかしいけどね……あのデッキは超ビートデッキ。ガチシンクロのアンチも入れてあるし。でも、ゲームがつまなくなるからね。封印してたんだ……。

ウソだけどね。

『私のタ〜ン！ドロ〜！』

『地縛霊』を生贄に『地獄詩人ヘルポエマ〜』を攻撃表示で召喚ですう〜。

装備魔法『デ〜モンの斧』をヘルポエマーに装備ですう〜。

『地獄詩人ヘルポエマ〜』で直接攻撃ですう〜。』

「へっ？いや来ないで怖い怖い助けて〜。みぎゃっ！」

ああ、マジ可愛いな二人共。マジお持ち帰りしたい可愛い可愛い可愛い。

「逝け吹雪！『サイバー・エルタニアン』で止め！」

「畏カード！『魔法の筒』！」

「なん……だと……？」

なにやってんだあつちは……。

マジで何やってるんだあつちは。

『カードを伏せ、ターンエンドですう〜!』

藍ちゃんヤバいぞ……。

恐らく伏せたカードは次元幽閉……マジでガチカード集団だな。

「あーうー。私のターン……ドロー……。

(やっと来たよ〜。)『洗脳ブレイン・コントロール』を発動! 選択するのは勿論ヘルポエマー!」

おお! まさかそのカードを引くとは……スゲエ!

あとあつちの方は……

「もう万策尽きただろ亮。さっさとサレンダーしたら楽になるのに……。」

「……くっくっく……ライフを1になるようにライフを払い」

サイバー・デス・デビルデーモン』を特殊召喚!

潰せ! サイバー・デビル・クラッシュ!!」

「な、うわあああああ!」

おいおい。そのオリカ使うか普通……。

こいつ駄目だ!

「ヘルポエマーで栄ちゃんに直接攻撃!」

『残念ですね。畏カード『次元幽閉』!』

やっぱりか!

この子、恐ろしい子!

「あつうつう……『大木人18』を守備表示で召喚して、ターンエンド……。」
『ふふふ、私の勝ちですね。私のターン！ドロ〜！』
『ハンマー・シユート』を発動ですう〜。『大木人18』を破壊ですう〜。

『メカ・ハンター』を召喚ですう〜。そして攻撃ですう〜。
「ちよっ、やめて止めてやめて止めて……止まった！」

うわあ、すんげえネタだあの台詞……。

マジでこの小説が何処向かっているか分からなくなってきた……。

「おお！マジあの子強いよ永理ちゃん！スゲエ！」

「はいはい。凄い凄い。」

「あつう……永理ちゃん意地悪するよおおお。」

ああ、この姉可愛いZE

マジ可愛い本当に可愛いマジお持ち帰りしたいさすが最強で最高に可愛いプロデュエリスト！

「泣かない泣かない。良い子良い子してあげるから。」

「わーい。永理ちゃんの久しぶりの頭なでなでだー。」

ああ、この時間が最高だ……。やっぱりこの姉可愛い幽霊に怖がる姉可愛い一人でトイレ行けないから俺んとこにくる姉可愛いぶっちゃけロリ顔で遊んで遊んでってせがむ姉可愛い！
変態？紳士です。てかぶっっちゃけロリなら何でもいいのでシスコンではありません。

「わ、私の出番が……。」

「『あつ。明日香さん居たんだ。』」

「居たわよ!!」

ごめんマジ気付かなかった。
アレ？亮達何してるんだ？

「亮くん。君にも分かるか。彼女の魅力が。」

「ええ、師範。恋に子弟関係は関係無いですよね。」

「いいでしょう。なら、今日から貴方も私のライバル 友 ですよ！」

「おいしいおいしい!!!何やってんだアイツ等！」

「何あの茶番劇？すごくウザい。」

「なあ、俺の出番無いのか？折角投票されたオリキャラなのにさ・・・」

次回で出ると思うよ。

ロリサイコー近○相○サイコーブス最悪……。 (後書き)

あんな姉が欲しい。

永理「はっはっはあ。羨ましいだろ。」

だが貴様に恋人は作らぬ！

永理「なん……。だと……。？」

俺に恋人が居ないのに貴様に恋人を作るとでも？

永理「貴様……。最低だな！」

ありがとう、最高の褒め言葉だよ。

さて、オリカ紹介DA

『サイバー・デス・デビルデーモン』
レベル12

閻属性

攻撃力：？

守備力：0

機械族：効果

このカードは自分のライフを1にして、特殊召喚する。

このカードの攻撃力は除外されている機械族モンスター1体に付き、攻撃力を600ポイントアップする。このカードが破壊された場合、自分は1のダメージを受ける。

さて、忘れてたアレ。

プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いといて、5人以上で書くと思うからあとオリキャラも募集中だ。感想欄に見たい目、性格、使用デッキ、性別などを書いてください。ついでに使用デッキも。もし書いてなかった場合、作者が勝手に決めます。

永理「なんで前までやってなかったんだ？たしか最後にやったのは・
・アビドス？の時だったけ？」

ああ。

永理「もうお前最悪だな。」

はっはっは。ありがとう。

永理「褒めてない。」

レイちゃんは俺の嫁！異論は認めない！

視点：みんなの嫁レイちゃん

「おじさーん、久しぶりー！」

僕は永理さんに向かって走って行った。

僕が永理さんに抱きつくと、少し乱暴に頭を撫でてくれる。
腕が女の人の様に白いし、顔だって女の人みたいなのにおじさんって呼んでしまうんだ。

所で、あの女の人は誰だろう？ヒータっばいけど・・・。

「永理おじさん。あの人誰？」

「俺の姉だ。」

ええ！！？永理さんのお姉さん！？どちらかというとな妹の方がシックリ来るよ！

あ、そうだ。永理さんにあのカードお願いしてたんだ。

「永理おじさん。あのカード有る？」

「ああ、あのカードか。はい、レイちゃん。」

やった。やっと手に入れた！究極時械神セフィロンゲットだぜ！
あっ、お金渡さなきゃ。

「レイちゃん。それはおじさんからのプレゼントだ。一人でよくこ

「ここまで来れたね。」

「む〜。おじさん、僕もう子供じゃないよ〜。」

「はいはい。良い子良い子。」

「あ〜。レイちゃんズルい〜。私も私も〜。」

「・・・この人本当に永理おじさんのお姉さんなのかな？
だって、仕草がすんごく子供っぽいんだもん。」

「あつ、僕が恋してるのは十代様様だからねッ！」

「吹雪！あんなケツの青いガキの何がいいんだ！熟女こそが最高なんだ！」

「亮目を覚ませ！つてかこのやり取り前回もやったよね!？」

「アレは無視だ無視。・・・無視つたら無視！」

「だって怖いんだもん！何あの亮さんの眼！本気で怖いよ！」

「ああ、今日も海が青いなあ・・・。」

「レイちゃんレイちゃん！！一緒にイエロー寮の出店回ろッ！勿論永理の奢りでッ！」

「えっ、はい。そうですね。」

「ハア・・・まあいいけどさあ。5千円でいいな。」

「変な人に付いて行くなよ。金が余ったらおじさんに返せよ。しっかり考えて使うんだぞ。」

「「ハイ！」」

「そういえば、このお姉さんの名前なんて言っただろう。」

「あの・・・お姉さん。」

「むッ、何かなレイレイ。」

「そのあだ名止めてください。・・・お姉さんの名前なんて言うんですか？」

なんで前回は名前出さなかったんだろう・・・。

あと、僕は普通だよ。永理おじさんのお姉さんの方が数倍可愛いよ。

「あつ、そういえば言っていなかったね。・・・ふっふっふ、お姉さんの名前は月影 瑠璃だよ！」

瑠璃・・・可愛い名前だなあ・・・アレ？どこかで聞いたような・・・。

・・・あつ、思い出した！たしか、無敗伝説を持つプロデュエリスト、月影 瑠璃さんだ！

前にテレビでエドって人をノーダメージで倒してた！

・・・でも、エドって人のデッキは正直微妙な実力だったのはは密に、密に・・・。

「さあ行こう！夢のワンダーランドへ！」

「そういえば、永理さんが4時にはレッド寮へ戻るようになって言っていましたよ。」

「なぬッ！（4時・・・永理の好きな時間に戻る・・・大会だな！）

そう、だったらちゃんと楽しもうではないかッ！！」

「瑠璃さん。そんなに走ったら扱けますよ？」

あつ、扱けた。大丈夫かなあ？なんか涙目みただけど・・・。

「レイちゃん！絆創膏持ってきて〜！」

この人、本当に私より年上なのかな？

くようじ・・・少女移動中く

さて、やってまいりましたイエロー亮！

「レイちゃん！金魚すくいやろうやろう!!」

なんだろう・・・見てるだけで癒されるなあ・・・。

アレ？あの人・・・アカデミアの人じゃない様な・・・。

「ついに見つけたぞ・・・月影 瑠璃！」

「むツ？誰っさ？」

懐かしいなあ・・・昔、ドラグニティってデッキでぶいぶいいわせてた篠芽 響谷さん。

しのめって聞いた時、日常のはかせの作ったロボットの一種ですか？って、聞いたのは僕だけでいい。

ぶいぶいって言うのは時代遅れ？・・・屋上。

「俺を忘れたか！篠芽しのめ響谷ひびやだ！」

瑠璃さん。本当に知らないって顔してる・・・それはちょっと酷いんじゃない・・・。

『ツシャア！？6個体ゲット!!』

彼女はビッグバングールのシャルロツテ。

厨二病じゃないよ？本当だよ？

だから、瑠璃さんの真上になんかデツカイ龍が居るんだけど・・・
幻覚とかじゃないよね？

『あゝ、ありや混沌帝龍だね。どう見ても。』

ですよね・・・やっぱり、永理おじさんの家庭は普通じゃないな・・・。

「あゝ、たしかリリーで負けた人ねたしか。」

「アレは偶然だ！そもそもあん時は手札が事故ってたから負けた訳であつてだな・・・。」

たこ焼き・・・美味しいなあ。外はカリカリ、中はトロ〜リとしていて、学生が作れるレベルではないよね。

『美味しそう・・・。』

シャルロットの分は無いですよ。

あつ、涙目だ。・・・しょうがない、一個だけだよ？

『おお、すんげえ美味しい！なにこれ学生が作るレベルを超越しちゃつてるよ。』

でしょ！すごいなあ・・・。前来た時は、自分で作った方が美味しいって感じたのに・・・。

「デュエル！」

あつ、いつの間にかデュエルになっちゃったかあ。
まあ、デュエルアカデミアだしね

「私のターン！ドロー！」

『ドラグニティ・ドウクス』を攻撃表示で召喚！更に魔法カード『ワン・フォー・ワン』を発動！手札の『ドラグニティ コルセカス』を捨て、『ドラグニティ トリブル』を守備表示で特殊召喚！
『ドラグニティ トリブル』の効果により、『ドラグニティ ファランクス』を墓地へ送る！ターンエンド！」

一気に2体も・・・永理さんの方が凄いやね。
でも、普通の人よりは凄いのかな？

『？6じゃない・・・よし、もう一回！！』

シャルロット・・・電池ヤバいんじゃないの？ランプが赤色だよ？あつ、やっぱ消えた・・・。

『イーブイが・・・？6のイーブイがあ・・・。
出すのに10時間かかったのに・・・。』

僕しらないッ！

「ふっふっふ、若人よ。はりきり過ぎて自分の首を絞めるなよ。私のターン！ドロー！」

『RF 闇の狩人』を攻撃表示で召喚！更に『RF 漆黒を狩りし者』を特殊召喚！

そして『DT 闇からの使者』を特殊召喚！レベル2の闇の狩人にレベル12の闇からの使者をダークチューニング！」

永理さんと同じ、ダークシンクロ！瑠璃さんも使うんだ・・・。
あと、最初の台詞ってたしか・・・ブレイブって人と同じな気が・・・。

「光が闇に閉ざされし時、冥府に封じられし邪神よ！我が勝利の為

に働け！

ダークシンクロ！コレが私の神だ！『邪王モノフルスス』！！』

うわぁ・・・すごいデカイなぁ・・・。

アレ？攻撃力がたったの2000？強力な効果があるのかな？

「このカードがダークシンクロに成功した時、デッキから光属性のモンスターを1体手札に加え、デッキから闇属性モンスターを特殊召喚する！」

私はデッキから『RF 陽月の神官』を手札に加え、『死者のお守り』を特殊召喚！」

アレ？死者のお守りって攻撃力が0？どんな効果があるんだろう。

『嘘！？リオってこんなに強かったっけ！？』

「カードを伏せて、ターンエンド！」

邪王モノフルススの攻撃力が900上がった。一体どれだけの効果があるんだろう。

私はその事で頭がいっぱいだった。だが、それは予想の斜め上を行く効果だったのだ。

『なんか一気に普通の小説みたいになったね。』

普通って言うな！

「RF・・・目障りなカードだ。私のターン！ドロー！」

『ドラグニティ ブランディストック』を攻撃表示で召喚！

レベル1の『ドラグニティ トリプル』にレベル4の『ドラグニティ ドウクス』レベル1の『ドラグニティ ブランディストック』

をチューニング！

竜の里に封じられし稲妻の竜よ。今、我が僕の魂を餌として、我が地へ舞い降りろ！シンクロ召喚！これが新たなる破壊の力！

『ドラグニティロード・カラドボルグ』！！』

これがシンクロ・・・目に悪いなあ本当に・・・。
光の中から出てきたのは翼が4枚のレヴァティン・・・若干白っぽい緑。

『なんか四枚の翼で白っぽい緑って強化版のデフォだよね。』

シャルロット・・・それを言っちゃ駄目だよ。

手にやいばを持ち、体に白銀のよろいをまとっていたのって誰だっけ？全く関係無いけど。

「カラドボルグの効果発動！手札のドラグニティと名のつくモンスターを1枚捨て、相手フィールドに表側表示で存在するモンスターを全て破壊！」

目障りな敵を焼き払え！フレイム・テンペスト！」

属性風なのにフレイム・・・某E・HEROを思い出すなあ。

そんなどうでもいい事を考えていると、目の前が真っ白になった。どこのポケモンだ！って思った人、私の時械神でみつくみくにしてやんよ。

「カラドボルグで直接攻撃！超電動斬 サンダー・スラッシュ！」

どう聞いてもドジリスのパクリです本当にありがとうございます。
そういえば、あのカードの攻撃力・・・3000なんだよね。瑠璃さん大丈夫かな？

「ふっふっふ、まだまだだよ若人！畏カード『ダークスター・フル

ガード』！！』

なんかデツカイ盾？が描かれている罨・・・どんな効果が・・・。

『幼女はおおきいって言うのがそそるんだよ！レイ！』

『少し静かにしてください。』

あつ、上に居た混沌帝龍が下りてきた。

喋れたんだ・・・。

「ふっふっふ、『ダークスター・フルガード』はエクストラデツキからダークシンクロモンスターを9体墓地へ送ることで、戦闘ダメージを0にするのさ！

私はこの効果で『DST病竜』に『DST死竜』、『ワンハンドレツド・アイ・ドラゴン』と『地底のアラネー』に『猿魔王ゼーマン』
『地獄の亡霊スプライト』 『暴漢ピサロ』 『セメタリー・クイーン』
ブラックアイバードドラゴン
『黒眼の紫龍』

を墓地へ送り、戦闘ダメージを0にする！」

ダークシンクロって、こんなにも居たんだ・・・。さすが月影家！アレ？たしか5D・sでダークシンクロって、ダークシグナーが使ってたんじゃ・・・。

「カードを伏せ、ターンエンド！（伏せたカードは『竜族のバリアドラゴンフォース』これで奴もイチコロだ。）」

失敗フラグビンビンだね。

『幼女がビンビンって、ちよつとえr・・・レイちゃん？そつちの方に関節は曲がないんだy痛い痛い痛いよ！もうやめて！とつくに私のライフは0よ！もう勝負はついたよの！』

よし、この位にしておくか！反省してるみたいだしね。
鬼？教育です。

「私のターン！ドロー！」

魔法カード『強欲な壺』を発動！デッキからカードを2枚ドローっ
さ！

魔法カード『ミラクル・シンクロフュージョン』！

墓地のダークシンクロモンスター10体を除外！現れよ融合召喚！

『絶望に染まりし英雄ゼブラ』！！」

キン肉マンとは関係無いよ！本当だよ！

「ふーははははは！！行けゼブラ！！マッスル・インフェルノ！」

瑠璃さん狙ってやってるだろ絶対！

てか、ネタが古いよ！

「畏発動『竜族のバリア ドラゴンフォース』！！」

「無駄無駄！！ゼブラは魔法、畏では破壊されないのさ！」

なんとというチートカード・・・この子、恐ろしい子！！

『・・・それ、どこのガラスの仮面？』

元ネタを言うな！元ネタを！！

あ、カラドが破壊されている・・・。

「なっ、攻撃力たったの2000のモンスターに破壊されただと！
？」

「ふっふっふう、このカードが風属性モンスターと戦闘を行う場合、

攻撃力を2600上げるのさ!!」

やっぱりチートカードだったか!

僕の予想だけど、あのカードはクリアー・ワールドみたいな……。今度作るのかな?クリアーデッキ。

「カードを伏せて、ターンエンドさ!さあ、どこまで足掻けるかな少年!」

おっさんに少年で……。どうなの?

あの人、他に切り札があるのかな?

「まだまだ!まだ終わらんよ!私のターン!ドロー!

『強欲な壺』を発動!デッキからカードを2枚ドロー!更に『天使の施し』発動!デッキからカードを3枚ドローし、2枚捨てる!」

普通そこでドローカード引くかな普通……。

私なんか、手札事故で負けたんだからな!

サンダー3枚に青眼2枚つてどうなのさ!

「『未来融合 フウーチャーフュージョン』!『F・G・D』を選択!

『ドラグニティ・ピルム』 『ドラグニティ・ファランクス』

『ドラグニティ・ブラックスピア』 『ドラグニティ・ブランディストック』 『ドラグニティアームズ・ミスティル』を墓地へ送る!

魔法カード『龍の鏡』!墓地のドラゴン族モンスターを5枚除外!

来い!『F・G・D』!!」

すごく……おおきいです。

でも相手は闇属性だから、瑠璃さんのチートモンスターのインチキ

効果で破壊されるだろうなあ……。

「行け！ゼブラに攻撃！超炎弾波ファイアー・フォース！！」

「ゼブラの効果！闇属性モンスターが攻撃する場合、手札を2枚捨てる！」

以外と地味でした。

地味に強い効果だね。

……このオシリス好きなのかな？だって技名が全てオシリス風だし……。

「『死者のお守り』の効果！相手の闇属性モンスターの攻撃宣言時、そのモンスターの攻撃力を3000下げる！それにチェーンして『収縮』発動！攻撃力を半分にするっさ！」

うわあ、チートだ、チート。

「なっ、うわああああ！！」

まさかの反射ダメージで止めとは……。でも最近、闇より光が待遇されている気がするから普通なの……。かな……？

「ガツチャ、楽しいデュエルだったよ！」

「……十代様のパクリ？」

『お疲れ様です。マスター……。早く帰ってアイドルマスターを攻略したいので帰りますよ。』

混沌帝龍さん・・・ヲタクなんだ・・・。

ああ、アバターさんを思い出すなあ・・・今頃何してるんだろう？

「混沌帝龍さんはデュエルするんですか？」

『下手の横好きですよ私なんて・・・瑠璃さんにも永理さんにも勝てないですし・・・。』

いや、それが普通だよ！あの人達に勝てるデュエリストなんてそう居ないよ！

・・・もう、永理さんはプロで食べていけると思うよ僕は・・・。

あつ、もうこんな時間だ！

「瑠璃さん！そろそろ4時になりますよ！」

「なぬール！それでは行くかレイレイ！目指すは優勝だー！」

「次は負けないぞ瑠璃！覚悟しているー！」

ああ、多分この人も大会出るんだろうなあ・・・。

だって、こんな人がアカデミアに居るって事は、永理さん主催の大会で優勝して賞品のカードを目当てに他のプロデュエリストも居るし・・・。

「アレ？今回も私の出番無し？なんで？」

「明日香さん、居たんだ。」

「ずっと居たわよ！？てか、出番これだけ！？不幸だー！」

禁書目録ネタですね、わかります。

レイちゃんは俺の嫁！異論は認めない！（後書き）

邪神達『俺たちの出番は？』

無いね。まあ、レイちゃんが主役の回だし？

明日香「私の出番をもっと増やしてよ！レオパルドンだってもっと出てたわ！」

おお、キン肉マンネタ・・・。

まあ、それは置いといてと、オリカ紹介。

明日香「聞いているの!?!」

『RF 闇の狩人』

レベル2

光属性

攻撃力：1000

守備力：2000

鳥獣族：効果

このカードが表側守備表示で存在する場合、このカードを破壊し、このモンスターの元々の攻撃力ダメージを受ける。

自分フィールド場にFRと名のつくモンスターが存在する場合、手札から特殊召喚できる。

1ターンの1度、相手モンスターの元々の攻撃力を半分にする。

『RF 桎梏を狩りし者』

レベル4

光属性

攻撃力：1700

守備力：1000

鳥獣族：効果

このカードが表側表示で存在する場合、このカードを破壊し、このモンスターの元々の攻撃力ダメージを受ける。

自分フィールド場にFRと名のつくモンスターが存在する場合、手札から特殊召喚できる。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時その守備力を攻撃力が超えていればその数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

『DT 闇からの使者』

レベル12

闇属性

攻撃力：0

守備力：0

悪魔族：ダークチューナー

このカードをシンクロ素材とする場合、ダークシンクロの素材にしかできない。

自分フィールド場にモンスターが2体以上存在する場合、手札から特殊召喚できる。この効果で特殊召喚した場合、エンドフェイズに除外される。

『邪王モノフルス』

レベル10

闇属性

攻撃力：2000

守備力：750

悪魔族：ダークシンクロ

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する
「DT」と名のついたチューナーのレベルを

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルか
ら引き

その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。

このカードがダークシンクロに成功した時、デッキから光属性のモ
ンスターを1体手札に加え、デッキから闇属性モンスターを特殊召
喚する事が出来る。

このカードの攻撃力は場にフィールドに存在する魔法・罫カード1
枚につき、攻撃力を900ポイントアップさせる。

『RF 陽月の神官』

レベル6

光属性

攻撃力：1960

守備力：2780

鳥獣族：効果

このカードは、相手プレイヤーに直接攻撃できる。

『死者のお守り』

レベル8

攻撃力：0

守備力：3000

鳥獣族：効果

このカードが破壊された時、墓地のシンクロモンスターをすべて、
手札に戻す事が出来る。

『ドラグニティロード・カラドボルグ』

レベル6

攻撃力：3600

守備力：2300

ドラゴン族：シンクロ

ドラチューナー+チューナー以外のモンスター2体以上

1ターンに1度、手札のドラグニティと名のつくモンスターを1枚捨てる事で、相手フィールドに表側表示で存在するモンスターをすべて破壊する。1ターンに1度、手札からドラグニティと名のつくモンスターを捨てる事で、自分フィールド場に表側表示で存在するこのカード以外のドラグニティと名のつくモンスターに、墓地のドラゴン族モンスターを装備させる事ができる。

『ダークスター・フルガード』
通常罫

ダメージ計算時、エクストラデッキのダークシンクロモンスターを9枚、墓地へ送る事で戦闘ダメージを0にする。

『DST病竜』

レベル1

地属性

攻撃力：200

守備力：1500

ドラゴン族：ダークシンクロ・ダークチューナー

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する

「ダークチューナーDT」と名のついたチューナーのレベルを

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルから引き

その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。

このカードがダークシンクロに成功した場合、墓地のダークシンクロモンスターを1体、表側守備表示で特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚したモンスターは表示形式を変更する事ができず、効果は無効化される。また、1ターンに1度、エクストラデッキに存在するモンスターを相手に見せる事でエンドフェイズ時まで、このカードのレベルを相手に見せたモンスターのレベルにする事が出来る。

『DST死竜』

レベル4

闇属性

攻撃力：2100

守備力：0

ドラゴン族：ダークシンクロ・ダークチューナー

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する

ダークチューナー
「DT」と名のついたチューナーのレベルを

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルから引き

その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。

このカードが特殊召喚された場合、エクストラデッキからレベル8のダークシンクロモンスターを1体、特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターは、効果は無効化される。また、1ターンに1度、自分の墓地に存在するモンスター1体を選択し、このカードのレベルをエンドフェイズ時まで、選択したモンスターと同じレベルにする事ができる。

『地底の亡霊スプライト』

レベル6

闇属性

攻撃力：2600

守備力：3000

アンデット族：ダークシンクロ

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する

「ダークチューナーDT」と名のついたチューナーのレベルを

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルから引き

その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。

このカードの攻撃力は自分の墓地に存在するアンデット族モンスターの数×300ポイントアップする。1ターンに1度、墓地のレベル4以下の守備力700以上のモンスターを1体、特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターは、エンドフェイズに破壊される。

『暴漢ピサロ』

レベル7

地属性

攻撃力：3300

守備力：0

戦士族：ダークシンクロ

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する

「ダークチューナーDT」と名のついたチューナーのレベルを

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルから引き

その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。

このカードの攻撃宣言時、自分フィールドのモンスターを1体、生贄に捧げる事で攻撃力を300ポイントアップさせる事ができる。

この効果を発動した場合、エンドフェイズに自分フィールドのモンスターをすべて破壊し、墓地からレベル3以下の闇属性モンスターを表側守備表示で特殊召喚する。

『セメタリー・クイーン』

レベル3

闇属性

攻撃力：1000

守備力：3000

魔法使い族；ダークシンクロ

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する

ダークチューナー

「DT」と名のついたチューナーのレベルを

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルから引き

その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。

このカードが表側表示で存在する場合、自分フィールド場のモンスターの攻撃力を600ポイントアップさせる。

墓地のモンスター1体につき、このカードの攻撃力を600ポイントアップさせる。このカードが戦闘で破壊され墓地へ送られた時、墓地のモンスターを1枚除外し、このカードを特殊召喚する事ができる。

『黒眼の紫龍』

レベル7

闇属性

攻撃力：3000

守備力：1500

ドラゴン族；ダークシンクロ

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する

ダークチューナー

「DT」と名のついたチューナーのレベルを

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルか

ら引き

その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。
このカードが破壊された場合、墓地のカードを1枚手札に加える。

『竜族のバリア ドラゴンフォース』
通常罫

自分フィールド場にドラゴン族モンスターが存在する場合のみ、発動できる。

相手モンスターの攻撃宣言時、相手フィールドのモンスターをすべて破壊する。

『絶望に染まりし英雄ゼブラ』

レベル12

闇属性

攻撃力：2000

守備力：2000

幻神獣族：融合

ダークシンクロモンスター10体以上

このカードは融合召喚でのみエクストラデッキから特殊召喚することができる。

このカードが表側表示で存在する場合、相手はコントロールしている属性によって以下を適用する。

光：相手は、手札からモンスターを特殊召喚、効果を発動する事ができない。

闇：相手は、手札を2枚捨てなければ攻撃する事ができない。

地：相手は、エンドフェイズにデッキからカードを6枚、墓地へ送る。

水：相手は、墓地のカードを2枚、除外しなけば攻撃宣言に入る事ができない。

炎：相手は、ライフに直接ダメージを与えるカードは発動できない。

風：風属性モンスターと戦闘を行う場合、このカードの攻撃力は2600アップする。

自分で作っというんだけど・・・なんていうチートカード群。しかも、ダークシンクロモンスター多いなあ。

永理「まあ、原作でもあまり出てなかったからな。OCG化しないかな？ダークシンクロ・・・。」

したら使うよ俺。

レイ「あゝ、明日香さん。元気を出して・・・ね。」

さて、永理おじさんのプロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いてください。5人以上で作者が書くと思います。

あとオリキャラも募集中です。感想欄に見たい目、性格、使用デッキ、性別などを書いてください。

あと、使用デッキも。もし書いてなかった場合、作者が勝手に決めますので。

また、キャラ的に薄い感じがする。こうした方が盛り上がる。って場合、性格などが変更される場合がございますので、あしからず。」

レイレイって、暴デメリットアタッカーを思い出すZ E

レイ「サンダイオンで攻撃！」

ぎゃあああああああ！！

参加者が凄すぎる大会では、大体自信満々な奴は嘸ませ犬だけこの話ではそん

視点：レイ

「さあやってまいりました！！第一回 カードショップ石村デュエル大会！」

永理・・・さん？なにこれ？大会？聞いてないんだけど・・・。
アレ？瑠璃さん知ってたの？すんごいわくわくしてるけど・・・。

「さあ！勇気ある挑戦者達よ！神のカードを手に入れたいか！」

うわぁ・・・みんなノリノリだぁ。なにこれ怖い。

瑠璃さんまで、・・・神のカードってなんだろう？

でも、優勝するのは無理そうだなぁ・・・だって海馬さんや城之内さんまで居るんだもん！なにこの豪華キャストは！！？

『えーでは、この大会の大まかな説明をいたしますドレッドです。
えー、この大会ではタッグデュエルを皆様方にしていただきます。
タッグデュエルは

最初のターンは攻撃できません。この大会では、以下のカードを使用制限させていただきます。

- 1 封印されしエクゾディア
- 2 直接攻撃系魔法、または罨カード
- 3 終焉のカウントダウン
- 4 意図的な目的でのデッキ破壊
- 5 サイキック族

- 6 相手モンスターを破壊する魔法、罨
 - 7 ロックカード
- などを禁止していただきますはい。この大会は基本、見せデュエルなので……。
- あと、この大会では以下のような特別ルールが追加されます。
- 1 ライフコストの踏み倒し
 - 2 エンドフェイズに手札を5枚になるように補充可能
 - 3 通常モンスターはバニラテキストに記されている説明がカード効果となる。

以上です。では皆様、見てる側もやってる側にも楽しいデュエルをお待ちしております。』

ど、ドレッドさんが普通に喋った……だと……？
あのドレッドさんが……ドレッドさんがあ。

『レイ、ちよつとたこ焼き買ってくるわ。レイも居るか？』

「じゃあ頼むね。」

「じゃあ私もよろすくつさ！」

『食べ過ぎたら太りますよ……。』

混沌さん！それは言わないの！

そもそも、僕はまだ成長期だから体重が2？増えたぐらい……じやあ……。

……大丈夫だよね！？僕はまだ大丈夫だよね！？

「勝利と栄光と神のカードを手にするには誰だ！第一回戦 凡骨&エネコン社長VS顔芸&顔芸 デュエルスタンバイ！」

「「顔芸じゃないよ……！」」

「エネコン……？」

「気にするな・・・海馬・・・。」

「すごい大物さんだあ・・・。これなんてMAD？」

「そう僕が自問自答していたら、海馬さん達とマリクさん達がデュエル場へ上がったっていった。」

「・・・ちよつとまつて！？なんで永理さん家にデュエル場なんかあるの！？何この人怖い。」

「ああ、永理さんには常識なんて通用しないんだな・・・帰ったら虻でも食べよう！」

「レイちゃん・・・さすがに虻はちよつと・・・。」

「結構美味しいんだけどなあ・・・永理さん家で食べてみたら旨かったのに・・・。」

「お酒もいいよね あつ、始まった始まった。」

「デュエル・・・開始です！！！」

「・・・デュエル！！！！」

(永理家内BGM resonance)

「なんでソウルイーターの曲？」

「まあ、それは置いといて。」

「まずはマリクさんからのターン・・・ホント、豪華だなあ・・・。」

「アレ？みんなどうしたのかな？手札事故ったのかな？」

「俺のターン！カードドロー！」

「魔法カード『手札抹殺』！」

「今引いた『ニードリユア』を守備表示で召喚！魔法カード『愚かな埋葬』を発動！デッキから『青眼の白竜』を墓地へ送る。更に魔法カード『死者蘇生』！蘇生させるのは勿論、『青眼の白竜』！夕

「ターンエンド！カードを3枚伏せ、ターンエンド！」

うわぁ、これなのはMADだ。完全になのはMADだ……。てかいいの？こんな声優さん達集めてこんなのに使ってるいいの！？次は、城之内さんのターン。永理さんは凡骨って呼んでるけどいいのかな？

「俺のターン！ドロー！」

『ランドスターの戦士』を召喚！魔法カード『スタープラスター』発動！このカードは、自分のモンスターを1体生け贄に捧げて発動。サイコロを1つ振り出した目の数と生け贄にしたモンスターのレベルの合計分のレベルを持つモンスターが手札に存在する場合、そのモンスターを特殊召喚するぜ！出た目は勿論、5！」

また出るんだ……。青眼さん……。私も持つてるけどね。でも、出し過ぎじゃないかな？

『女の子が出し過ぎ、最高ー！』

『……。キン肉バスター！
ギャー！』

「手札から、『青眼の白龍』を特殊召喚！伏せカードを2枚場に出し、ターンエンド！」

これだけ手札消費しても、エンドフェイズに補充されるから凄いやね。壊れルールだよね。

あつ、海馬さん怒ってるよ！嫁出されて怒ってるよ！

「私のターン！ドロー！」

『カイザー・シーホース』を召喚！更に魔法カード『二重召喚』発動！『カイザー・シーホース』を生贄にして、『青眼の白龍』を召

喚！

カードを伏せ、ターンエンド！」

うわぁ、最上級モンスターばっかだぁ。これなんてMAD？
最後は、社長のターン。どうせ融合だろうね……。

「俺のターン！ドロー！」

『融合』発動、『融合解除！』……。」

うわぁ、マリクさんえぐいなぁ……。

コレで社長はどう出るか？伏せてエンドだろうけど……。

「お、俺はカードを伏せ、『ジャイアント・ウィルス』召喚！ター
ンエンド！」

積み込みかな？普通、こんなにも早く青眼なんて出せないでしょ。
えっ？TFでは初手裁きの龍3枚でワンキル余裕でされました？
・僕はライトロードなんか使わないよ！？使っるのは時械神だよ！
時械神もヤバいだろうって？気にすんな

「俺のターン！カードドロー！」

行くぜ！『青眼の白龍』で海馬の『青眼の白龍』を攻撃！『滅びの
爆裂疾風弾』！」

「リバーズカードオープン！『攻撃誘導アーマー』！このカードは、
呪われし鎧を着せられた者に攻撃が誘導される！俺は凡骨の青眼を
選択！」

「海馬テメエ！！！」

なのはは出てこないよね？ないよね？タグに書いてないから出てこ
ないよね？

海馬さん・・・全く協力しようとしてない。これじゃなのはと丸被りだよ！

ニコニコネタ多いなあ・・・。

「カードを伏せ、『ギル・ガース』を守備表示で召喚し、ターンエンド！」

「俺のターン！ドロー！」

魔法カード『死者蘇生』！青眼を蘇生！青眼で斎王だっけか？そいつの青眼を攻撃！バーストストリーム！（これで斎王の場にモンスターはいない、海馬の青眼で一気に決めるぜ）

「所がそうはいきませんよ。罨カード『蘇生の石版』！このカードは戦闘で破壊されたモンスターを蘇生させる。つまり、青眼復活！」
「くっ、『リトル・ウインガード』を守備表示で召喚！ターンエンド！」

あの・・・後からやる人達の事も考えてくださいお願いします。

本当に後からやる人達にとってはプレッシャーになりますので・・・
てかこのデュエル・・・

「一回戦でやる内容じゃねえ！！！」

「同意」「」

やっぱみんなもそう思うよね！？そもそもこれ、ほぼオリジナリテイーがないんだけど！？

しっかりと後からなのはMADとは違う展開になるんだよね！？

『最初あたりが違うじゃん。』

そうだけだよ！

「私のターン！ドロー！」

『酢酸の悪魔』を攻撃表示で召喚！『酢酸の悪魔』で海馬さんに直接攻撃です！」

「かかったな！リバーカードオープン！『死のデッキ破壊ウィルス』」

不味い！これがほぼなのは道理に話が進むのなら・・・海馬さんのデッキは死滅してしまう！

これで、なんの対策もしなかったらオリジナル展開になるけど・・・。

「甘い！『呪い移し』！」

「『呪い移し』？聞いた事ないツス。」

「翔さん、『呪い移し』は畏の効果を相手に移し替える効果なの。」

つまり・・・」

「つまり？」

「海馬さんがデッキ破壊されるって事。」

なのはだったか・・・ヤバイ・・・この回が長引けば・・・精霊界編に間に合わなくなってしまう！それだけは阻止せねば！

だが、それより恐ろしいのは×××で×××や×××が感想欄に書かれてしまう！それも阻止せねば！

だが、マリクさんが何とかしてくれる・・・はず！

「『酢酸の悪魔』が戦闘を行った場合、このカードは破壊されます。カードを伏せて、ターン終了です。」

あつ、そんな効果があるんだ。結構使える・・・かな？

まあ、機皇帝の召喚に使えるけど・・・。

「俺のターン！ドロー！」

戦いの生態系、戦いのしよくもつれんさ」「六芒星の呪縛」「魔法

カード『闇の生産工場』！墓地の青眼を2体、手札に加える！魔法カード『融合』発動！来い！『青眼の究極竜』！そして魔法カード『死者転生』発動！墓地から『青眼の光龍』を手札に加える！そして『青眼の究極竜』を生贄に『青眼の光竜』召喚！」

攻撃力・・・6000！？凄い・・・これが海馬さんの真の力・・・。

こんなのと戦う事になるなんて・・・笑えるよ本当に・・・。
みんなも驚いてるし・・・そりゃこんなの見せられたら驚くよね・・・
・永理さんや亮さんはその上を行くけど・・・。

「俺に力を貸せ！キサラ！！装備魔法『メテオ・ストライク』を装備、『ニュードリユア』に攻撃！シャイニング・バースト！！！」

「（甘い、甘いぜ海馬・・・くくくく・・・）罨発動！『レインボー・ライフ』！！このカードにより、ダメージは受けず、回復する！」

まさかのカード・・・これ以上デュエルを長引かせるのは作者の体力的にヤバイ！5200ライフ回復なんて・・・。
ライフポイントが9200ってどうなの！？キュアバーンでもない限り無理だよ！？

「『リトル・ウインガード』を破壊！（光龍が倒せないのは痛いな・・・
・斎王、貴様の力を見せてみる。）」

「カードを伏せ、ターンエンド！」
「（分かりました。）私のターン！ドロー！（このカードなら・・・勝てる！）」

私は魔法カード『手札同調』を発動！手札のレベル6『アルカナフォースXIV | TEMPERANCE』にレベル3『ジャンク・シンクロン』をチューニング！

集められし破壊の光よ！今こそ我が身体を器とし、目の前の敵を破壊せよ！シンクロ召喚！来い！『フォーカード ジョーカー』！」

凄いデカイ化け物がそこに居た。信じられるか？これ、天使族なんだぜ？

ちなみにアルカナフォースはタロットつてのをモデルにしてるらしい。日本人なら、スピリット使えよ！

「『フォーカード ジョーカー』の効果発動！このカードがシンクロ召喚に成功した時、デッキ、またはエクストラデッキからアルカナと名のつくモンスターを特殊召喚できる！

私はデッキから『アルカナフォー스XXI』THE WORLD』を特殊召喚！THE WORLDの効果発動！その瞬間『ジョーカー』の効果発動！アルカナと名のつくモンスターの効果を任意で決めることができる！選択するのは勿論表！」

うわあ、なんとというチートカード・・・何度目だろう。この台詞。そろそろ終わってほしいんだけどなあ・・・作者的には。

「まだ終わりませんよ！『フォーカード ジョーカー』の第3の効果発動！相手モンスターのコントロールを得る！この効果は無効にされない！『青眼の光龍』のコントロールを得る！」

・・・コレナントなのは？このままじゃバルバトス風のなのはさんがジェノサイドプレイヤーぶっばなすよ？

「行け！『フォーカード ジョーカー』で『ジャイアント・ウィルス』に攻撃！雷光弾！」

もうやだこの大会。自信無くす。

「『ジャイアント・ウィルス』の効果発動！」

相手ライフに500のダメージですね分かります。

あえて言おう。シヨボイなおい！永理さんが売ったんだろあいつ等に！あとシャルロッテ！食堂でDS充電してるんじゃないよ！怒られえるよ！

「デッキから『ジャイアント・ウィルス』を2体、特殊召喚！」

「光龍で攻撃！シャイニング・バースト！」

「『ジャイアント・ウィルス』の効果以下略！！」

略した！？略したよこの人！

そして海馬さんのライフはゼロに・・・最後にTHE WORLDで止めさせました。

「そして魔法カード『神秘の中華鍋』発動！光嫁を生贄にし、ライフ3500回復！ターンエンド！」

うわぁ、駄目だろそれガチコンボ。

しかし、城之内さん。ドンマイです。

「お、俺のターン！ドロー！」

『E・HEROプリズマー』召喚！プリズマーの効果でデッキの『メテオ・ブラック・ドラゴン』を相手に見せ、このカードを『真紅眼の黒竜』として扱う！

『真紅眼の黒竜』扱いのプリズマーを生贄にして、『真紅眼の闇竜』を特殊召喚！」

海馬さんが負けて、海馬さんの墓地は消滅した。なので攻撃力がた

つたの3000。普通なら十分なんだけど、この相手じゃあ……
城之内さん。ご愁傷様です。

「ターンエンド……。」

あつ、諦めた。

「俺のターン！ドロー！」

魔法カード『苦渋の選択』を発動！俺が選択するのはこの5枚だ！」

えーっと何々……

・サファイア・ドラゴン

・ヘルカイザー・ドラゴン

・輪廻独断

・処刑人マキユラ

・ラーの翼神竜

なあにこれえ。

「『サファイア・ドラゴン』を選択……。」

「残りは墓地へ送り、『ドリ・ラゴ』召喚！行け！『青眼の光竜』
で攻撃！シャイニング・バースト！！」

『ドリ・ラゴ』で直接攻撃！『フォーカード ジョーカー』で攻撃
！」

城之内さん爆 殺！

勝ったのは顔芸チーム……もういやだこの大会。

「勝者！顔芸&顔芸！素晴らしいデュエルを見せてくれた四人に大
きな拍手を！！！」

永理さんノリノリだあ・・・ある方の感想欄では残虐な性格なのに・・・。
次は・・・僕と吹雪さんがチームなんだ・・・瑠璃さんと組みたかったなあ・・・。
対戦相手は・・・遊戯さんと永理さん！？なんで永理さんまで！？盗られたくないなら賞品に出さないでよ！金か？金が目的なのか！？
一気にハードル上がったんですけど！？MCは誰がやるんだろう・・・
・アバターさんですか。
あっ、もう行かなきゃ。僕はこれで失礼するよディスプレイの前の諸君。

視点：君の瞳に何が見える？んんんんジョイン！！

僕はアニメよりハジけたりしないよ。
さて、デュエルの相手がまさかの無理ゲーと化すとは・・・誰が思ったでしょう。

でも負けられない！意地があんだよ、男の子にはね！

「心の準備はいいかい？レイちゃん。」
「はい、でもこれ・・・勝てないでしょ。チートドロとチートドロ+ガチ構築寄りの人がタッグ組むなんて・・・。」

うん。僕も信じられないんだよ。そもそも今回の賞品は三幻神の融合体らしいからね。たしか、ホルワクチンだったっけ？

でも、三幻神が融合素材だから出しにくいんだよね・・・事故率高いし。

さて、無駄話が過ぎたかな？デュエルと逝こうか！負けるとわかっ
ていても、漢はやらなきゃならない時があるんだよ！！
こうなりゃヤケだ！当たって砕けるだ！粉碎とはいかないだろうけ
ど、玉砕ならなんとか逝ける！

『デュエルファイト！レディーGO！！』

「『『『デュエル！』『』『』」

（永理家BGM 聖少女領域）

「僕のターン！ドロー！（なんでローゼン？）
モンスターをセット！ターンエンド！」

レイちゃんのパターンが僕と丸被りだあ・・・まあいいけどね！た
ぶんデッキは違うだろうから。

次は・・・遊戯さんのターン・・・もう勝つのは諦めています（泣）

「俺のターン！ドロー！」

『デーモン・ソルジャー』を攻撃表示で召喚！更に装備魔法『デー
モンの斧』を『デーモン・ソルジャー』に装備！伏せカードをセッ
トし、ターンエンド！」

アレ？意外と普通だった・・・前ので感覚が鈍ってるのかな？
いや、でもそう簡単に鈍るわけ・・・あるなこれ。

「僕のターン！ドロー！」

儀式魔法『黒竜降臨』を発動！手札の『真紅眼の飛龍』を生贄にし、
『真紅眼の黒竜』を特殊召喚！

更に『真紅眼の黒竜』を生贄に『真紅眼の闇竜』を特殊召喚！モン
スターを伏せ、カードをセットしターンエンド！」

僕が伏せたカードは攻撃誘導アーマー・・・伏せたモンスターは魔導雑貨商人。このデュエル、僕たちの勝ちだ！
アレ？これって負けフラグ？

「くははははは！俺様のターン！ドロー！

魔法カード『天使の施し』発動！デッキからカードを3枚ドロー！
そして手札を2枚捨てる！更に魔法カード『愚かな埋葬』を発動！
デッキから『首なし騎士』を墓地へ送る！

墓地の悪魔族モンスター・・・『首なし騎士』『絵画に潜む者』『
夢魔の亡霊』を除外し、『ダーク・ネクロフィア』を特殊召喚！更
に速攻魔法『異次元からの埋葬』！墓地の悪魔族モンスター3体を
墓地へ戻す！カードを伏せ、モンスターをセット。ターンエンド！」

さすが永理くん・・・行動が速いなあ。

確か効果は、コントロール略奪だったっけ？・・・前のパワーゲ
ムで感覚が鈍ってるから大した脅威には感じないなあ・・・。
どうでもいいけどこの曲、いい曲だね。

「僕のターン！ドロー！

リバースモンスターオープン！『魔導雑貨商人』！自分のデッキを
上からめくり、一番最初に出た魔法か罠カード1枚を自分の手札に
加えよ！

それ以外のカードは墓地へ送るよ！

まず1枚目！『ライトロード・ビースト ウォルフ』！

2枚目！『時械神サンダイオン』！

3枚目！『時械神ラツイオン』！

4枚目！『時械神ザフィオン』！

5枚目！『魔導雑貨商人』！

6枚目！『カイザー・シーホース』！

7枚目！『セカンド・エフェクト』！魔法カードだから手札に加えるよ！そして魔法発動『セカンド・エフェクト』！

このカードは墓地のリバースモンスターを除外して、その効果を得る！僕は墓地の『魔導雑貨商人』を除外！そして効果で以下略！

1枚目！『時械神ザフィオン』！

2枚目！『時械巫女』！（『時械巫女』が落ちた・・・『リミット・リバース』で蘇生できる！）

3枚目！『時械神カミオン』

もう面倒だから5枚めくる！『時械神ミチオン』『時械神ハイロン』『ネクロ・ガードナー』『時械神ラフィオン』『天使の施し』！

レイちゃん・・・墓地肥やし過ぎだよ・・・チートドロいなね。

しかも、ウォルフが落ちたって事は特殊召喚されるって事だよね・・・

。。この子、恐ろしい子！

・・・そういえば、時械神って全て天使族だったね・・・まさか、これがレイちゃんの恋のキューピット！？

「ウォルフはデッキから墓地へ送られた時、特殊召喚できる！『ライトロード・ビースト ウォルフ』を特殊召喚！

更に魔法発動『死者蘇生』！墓地の『時械神サンダイオン』を特殊召喚！バトル！遊戯さんの『デーモン・ソルジャー』を攻撃！超魔導波ゴッド・サンダー！」

サンダイオンがデーモン・ソルジャーの両腕を鷲掴みにして、横にバスターを掛けた。って駄目だろ！それキン肉バスターだよ！

しっかりと神らしく、攻撃名道理に攻撃しなよ！

「『時械神サンダイオン』の効果！相手モンスターを破壊した場合、相手ライフに4000ポイントのダメージ！まずは一匹目。きやは・・・、ターンエンド！」

レイちゃん!!?まさかのワンターンキル!?見せデュエルはどこ行っただの!?

・・・永理くん!?何その顔!?もう諦めた感漂う顔は!?君があげたんでしょ!?

「レイ・・・変わっちゃったな・・・レイのエンドフェイズに速攻魔法『終焉の炎』を発動!」

俺のターン!ドロー!

永続罫『サンダー・スパーク』!破壊するのは『ダーク・ネクロフイア』!」

ああ、彼女の体に稲妻が走り、身体を崩す。まるでマモーみたいに・・・。

・・・久しぶりにルパン3世の映画が見たくなってきたなあ。今度借りよう!

「『ダーク・ネクロフイア』の効果発動!『時械神サンダイオン』のコントロールを得る!

魔法カード『愚かな埋葬』を発動!『ダーク・ネクロフイア』を墓地へ送る!

フィールド魔法『ダーク・サンクチュワリ』を発動!」

不気味なフィールド魔法だ・・・永理くんがいかにも好きそうなフィールドだね。

だって永理くん。ホラー映画とかオカルトグッズとか集めてるし。前に千年リングを拾ったって言ってたっけ?

「我が運命の光に潜みし亡者達の魂よ!この流転なる世界に暗黒の真実を導くため、我に力を与えよ!現れよ!『地縛神 U r u』!」

凄く・・・大きいです。

大きい・・・虫です。虫は嫌いだアー！永理くん狙ってやってるの！？お兄ちゃん泣いちゃうよ！

なに？お兄ちゃんって誰が言うか気持ち悪い・・・？・・・酷い！お兄ちゃん泣いちゃう！

「『地縛神 U r u』で吹雪に攻撃！ヘル・スレッド！」

呼び捨て？酷いや酷いや・・・どうせサンダイオンで僕の闇竜を破壊 バーンダメージで止めなんだろうびっくり？あつ、この伏せカード使えるか？

「リバーズ罨オープン！『攻撃誘導アーマー』！対象にするのは『時械神サンダイオン』！！」

ふう、なんとか凌いませ・・・ごめん、気持ち悪かったね。反省してるよ。

でもまさか、勝てるとは思わなかったね本当に。あのダブルチートに勝てるとは・・・。

『勝者！むとうゆうg・・・吹雪&レイチーム！！』

あ、あはは・・・これ夢じゃないよね？僕達、あの人達に勝ったんだよね。

あはは、信じられないよ本当に！

「レイちゃん！やったね！」

「はい！ですが、明日香さんがなんかorzになってるんですが・・・。なんでですか？」

「たぶん出番が無いからだと思うよ。明日香、次回は出れると思うから・・・三沢くん？居たっけそんな人。」

「吹雪さん、それは酷いんじゃない？」

いやだつて、最近見てないしさ。そういえば三沢くんはもう、出番はないのかな？

ちよつと疑問だね。

『え、では第3回戦に入る前に少し、休憩に入りたいと思います。では皆様、次のデュエルも期待して。シーユーアゲイン』

英語で書こうよそんぐらい。

参加者が凄すぎる大会では、大体自信満々な奴は嘸ませ犬だけどこの話ではそん

ああ、こんな世界へ行きたい。

永理「駄目だこいつ。」

煩い。・・・さて、次回は永理の姉さんと投票されたあの人を出す。
・・・予定。

永理「明日香は？」

分からぬ。

永理「お前なあ・・・。」

まあそれは置いといて、オリカ紹介！

『酢酸の悪魔』

レベル4

闇属性

攻撃力：1300

守備力：2100

悪魔族：効果

このカードは直接攻撃できる。

このカードが戦闘を行った場合、このカードをエンドフェイズに破壊する。

『手札同調』

通常魔法

このカードの発動後、エンドフェイズまで手札でシンクロできる。

『フォーカード ジョーカー』

レベル10

光属性

攻撃力：3100

守備力：1200

天使族：シンクロ

チューナー+アルカナと名のつくモンスター1体以上

このカードは手札同調の効果でのみ、特殊召喚できる。

このカードのシンクロ召喚時、デッキまたは、エクストラデッキからアルカナと名のつくモンスターを1体、特殊召喚できる。

このカードが表側表示で存在する場合、アルカナと名のつくモンスターの効果は、このカードのプレイヤーが決める。

1ターンに一度、相手モンスターのコントロールを得る事ができる。

『セカンド・エフェクト』

通常魔法

自分の墓地のリバース効果モンスター1体を除外する。このカードの効果は、この効果で除外したりリバースモンスターの効果になる。

イレイザー 『俺の出番が無い！ナム！どういう事だ！』

こういう事だ。

イレイザー 『闇電動波ダーク・サンダー！』

畏発動 『ディメンション・ウォール』

イレイザー『ぎゃあああああ！』

召喚条件が難しいカードは大体チート。幻魔？ゲート・ガーディアン？聞こえん

視点：カミューラ

「お姉さん、みぞれ一つ。」

「ちよつと待ってね はいよ少年、一気に食ったら頭痛くなるからゆっくり食べるんだよ」

はいどうも。永理亭・・・じゃなくて永理家のヒロイン（自称）カミューラお姉さんだよ

ああ、そろそろ大会の時間だね。私も行かなきゃ。

「万丈目くん 店番よろだよ」

「イー！」

ショツカー戦闘員ですか？さあ、行くぞ我らが戦場へ・・・あつ、たこ焼き買おう。大好きだし・・・。
おおーフライドポテトが200円だー。これは買いだね

うう・・・服が汚れたよ・・・。たこ焼き持ちながらフライドポテトなんか食べるんじゃないかなかったにや〜。

服？永理くん家からコスプレの衣装を借りてきたから・・・でも、何故にナージャ？可愛いからいいけど・・・。

てかこの服、完成度高いなおい！売れるぞ普通に！

『では、第3回戦 同じ中の人VS旧サイバーチーム デュエル場へ！』

アバター・・・その服なに？なんでカオス・ソルジャー？いや似合
ってるんだけどさあ。ほら、普段とのギャップの差が激しいとい
うか。永理は永理で死霊伯爵だしさ・・・。
はつきり言おう！もっとマシなコスプレは無かったのか！！
まあ、そんなんはどうでもいいんだけどね。さて、いつちよ頑張り
ますか私！

「頑張ろつぞよ少年。」

「へ、あ、ああ！優勝目指すか！」

うんうん。こういう純粋な心を持った少年はいいね。青春だね。
相手は・・・カイザー？とルドガーっぽい人が相手か・・・ど
うかで見ただよねルドガーっぽい人。

「相手はカミューラか・・・くくく・・・旧サイバーデッキの底力
をとくと味わうがいい。」

「なんで俺を示す文字が一文も無いんだ！」

「黙れ！そもそも俺は瑠璃さんとペアを組み、裏サイバーデッキで
思う存分戦りたかったのに・・・。」

喧嘩・・・か・・・。これを腐女子がみたら『ヒビ×亮キター！』
とか言うんだろつな・・・。

え？私？私は・・・普通が好みだよ！ヲタクではないよ！

「さあ、貴様の罪を教える！」

おお、ノリがいいねこの人！ヨハンって言ったっけ？気が合いそう
だ！

「え？へ？えっ？」
「それ何の台詞だっけ？」

さて、戦ろうか。

「『デュエル！』『』『』」

『デュエルファイト！レディーGO！』

それって、Gガンダムでしょ？ネタ多いなあ！

(永理家内BGM DIRTY)

この曲！ネウロだ！凄エ！凄い曲の数だ！

・・・永理の部屋にCDなんて置いてあったっけ？たしかDVDデ
ツキは無いけどビデオデツキはあったけど・・・。

そっいえば最近、ラジカセ買ったらしいけど・・・iPhone買
えよ！って言いたくなった私は悪くない。

「私のターン！ドロー！」

進化したドラグニティデツキの恐ろしさ、とくと味わうがいい！
『ドラグニティダーク・トリル』を攻撃表示で召喚！効果発動！こ
のカードの召喚に成功した時、手札のドラグニティと名のつくモン
スターを特殊召喚できる！

『ドラグニティダーク・フラス』を特殊召喚！『ドラグニティ
ク・フラス』の効果発動！このカードがドラグニティダークと名の
つくモンスター効果によって特殊召喚された時、デツキからドラグ
ニティダークと名のつくモンスターを特殊召喚できる！

『ドラグニティダーク・カラストロフ』を特殊召喚！『ドラグニテ
ィダーク・カラストロフ』の効果により、デツキからDTと名のつ
くモンスターを特殊召喚できる！『DT ダークネス・ドラゴン』
を特殊召喚！

レベル2『ドラグニティダーク・フラス』にレベル8『DT ダークネス・ドラゴン』をダークチューニング!

破壊の風よ!我が龍に闇の力を!ダークシンクロ!飛翔せよ!『ドラグニティダーク・ブルラスト』!カードを伏せ、ターンエンド!

ヘル・ドラゴンにS.iのパーツくっ付けたみたいな?はつきり言う
とあんまり強そうには見えない。

一気に飛ばすねえ。まあ、私はその上に行くけど・・・永理?無理
です勝てません。

レイちゃん?無理ですなにこれチート?

「私のターン!ドロー!

魔法発動!『苦渋の選択』!」

さて、墓地に落とすカードはゾンビ・マスター×2に馬頭鬼×1闇
竜の黒騎士×2

外道とか言つな!これも立派な戦術なんだよ!

「私は『ゾンビ・マスター』を選択!」

あゝあ、どれ選んでも同じだったんだけどね。

さあ、召喚条件はすべて整った。ゲームスタートだ。

「墓地の光属性と闇属性を除外!『カオス・ソーサラー』を特殊召
喚!皿の効果によりブルラストを除外!」

カオソがあのカードに描かれている光と闇を相手にぶつけ・・・
と見せかけて上で両方をぶつけて次元を空に作ったと思ったら落と
し穴に相手が落ちた。

長いわ!行が長いわ!てかなんで得意げ?ドヤ顔やめい!

「納得いかねー！」

「カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

そういえばあのカードの効果ってなんだろうっ？どうでもいっか！

ああ、攻撃してえ……。

これがタッグデュエルじゃなかったらワンターンキルできたのになあ……。

「ふははははは！俺のターン！ドロー！」

フィールド魔法『戦場の跡地』発動！」

煙を上げる戦車……地面に突き刺さってる剣……これ、少年向けじゃないね。今ならPTAに訴えられるなこりゃ。

永理はなんか心地いい感じがしてたけど……あいつってあんな性格だったんだ。

「『戦場の跡地』の効果発動！1ターンに一度、デッキからレベル4以下の旧と名のつく機械族を特殊召喚できる！」

デッキから『旧サイバー・ドラゴン』を特殊召喚！」

なんか現在よりシンプルなデザインのサイバー・ドラゴンが戦車から出てきた。

でも攻撃力がたったの1499……しかも通常モンスターと、何故このモンスターを選択したのかが気になる。

……まさか融合モンスター！？

「カミューラ、貴様の推理は良い所まで行っている。だがこいつの力は融合では無い！『旧サイバー・ドラゴン』を生贄に……

『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』を生贄召喚！」

見た目はデビルガンダムと神龍を足して2で割った感じ……。攻撃力がたったの2000? いったいどんな効果が……。

「『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』の効果発動! 相手モンスターを装備魔法として装備!

そしてデッキから旧と名のつくサイバーモンスターをこのカードに装備させ、そのモンスターの攻撃力分アップする!

『カオス・ソーサラー』を装備! そしてデッキから『旧サイバー・オーガ』を装備!」

ヤバイヤバイヤバイ! 攻撃力が6200だよ!

これ本当にヤバイ! そもそも何あのカード軍!? 効果鬼畜すぎだろ! しかもヨハンくんのデッキはまだ分からないし、でもこの攻撃力を超えるのは無理でしょ!

「永続魔法『機甲部隊の最前線』を発動! カードを伏せ、ターンエンド!」

うわあ……。超ガチコンボだ……。ヨハンくん頑張ろうね! てか倒してくださいお願いします。

てかこの小説でのルールで毎ターン手札補充だからこのデッキの生還の宝札いらなくなつた!

「俺のターン! ドロ……!

『ボマー・ビー』召喚! 効果発動! 『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』を破壊!」

虫が兵器を破壊する。シユールだわ……。

だってそうでしょ? 譬えるならビグ・ザムがボールに負けるような

もんだよ！

なに？ガンダムVSZガンダムとか連邦VSジオンではできるだあ？知るかなもん！

「甘い！永続暴発動！『不良品シールド』を発動！

このカードが場に存在する場合、効果破壊を戦闘破壊として処理する！よって『機甲部隊の最前線』の効果により、デッキから『旧サイバー・ドラゴン』を特殊召喚！」

うわあ、しぶとい。またかよおい！

いちいち出てくる時の演出が凝ってるな！羨ましくなんか・・・ないんだからね！

「俺はカードを3枚セット！ターンエンド！」

次のターンに、またあんなのが出てくるのか・・・もう嫌だ！すんごいやる気削がれる！

まあ、あのカードのおかげで私のデッキは結構有利に進めれるけどね！

「私のターン！ドロー！」

魔法カード『愚かな埋葬』を発動！デッキから『DT ドラグニティダーク・スプロトル』を墓地へ送る！

墓地の『DT ドラグニティダーク・スプロトル』の効果発動！墓地のこのカードを除外し、デッキから同名モンスターを特殊召喚でききる！

『DT ドラグニティダーク・スプロトル』を特殊召喚！『ドラグニティダーク・ハルプトル』を召喚！

レベル3の『ドラグニティダーク・ハルプトル』にレベル7の『DT ドラグニティダーク・スプロトル』をダークチューニング！

集いし闇が、新たな進化の糧となる！ダークシンクロ！『ドラグニ
ティダーク・ススパルト』をダークシンクロ召喚！」

うん、もうね・・・普通の槍じゃん！黒い槍じゃん！

ただ単にドラグニティアームズ レヴァティンの目が虚るなだけじ
ゃん！でも効果は強かったり・・・。

「『ドラグニティダーク・ススパルト』の効果発動！デッキから装
備魔法を3枚墓地へ送り、デッキから装備魔法を手札に加える事が
できる！」

私は『ビックバン・シュート』と『ドラゴンの秘宝』最後に『デー
モンの斧』を墓地へ送り、デッキから『純悪な闇』を手札に加える！
『ドラグニティダーク・ススパルト』に『純悪な闇』を装備！」

攻撃力がたったの3000・・・低いな。
しかも装備してやっと4000って・・・。

「『ドラグニティダーク・ススパルト』でカムイラに直接攻撃！
ダークスピア！」

「永続畏発動！『メタル・リフレクト・スライム』！」

みんな大好きマリクさん。変異でエンド出せるのがいいよね！
おジャマ・カントリー使えば攻撃力が3000！ロマンだね！

「スライムはk「畏発動！『ディフェンドアップ』！」なん・・・
だど・・・？」

ちなみに効果は守備力を2000上げるだけなんだよね。

アンデット族に相性がいいから入れてるんだけど・・・まさかこん
な所で使うとは・・・。

「くっ、カードを伏せ、ターンエンド！」

ふふふふふふ・・・折角出したのにすぐに退場する事になるとはね・・・。

「私のターン！ドロー！」

魔法カード『突然変異』を発動！『メタル・リフレクト・スライム』を生贄にし、『地天の騎士ガイアドレイク』を特殊召喚！

装備魔法『復讐の剣』をガイアドレイクに装備！行け！ススハルトに攻撃！」

ある者はバウンスの力により戻されて、ある者は権力の力に屈し、ある者は最終兵器の龍に除外された・・・。
今こそその恨みを糧として、その力を発揮せよ！

「ガイアアアアア！！ストラツシユウウウウウ！！！」

これが・・・復讐の力！恨み妬みの力だ！
ふははははははは！

「ぐ・・・チツ・・・。」

「まだまだア！速攻魔法『アンデットスラツシユ』！墓地のアンデット族を除外し、追加攻撃できる！」

行け！ガイアアアアアアアア！ストラツシユウウウウ！」

「甘い！畏発動『レインボー・ライフ』！」

不味い、ライフが6000を超えた・・・だと・・・？
ヨハンくんごめん！」

「カードを3枚セット、ターン終了!」

カイザー……自重してね本当に……。
粉碎玉砕大喝采とかやめてね。

「俺のターン!ドロー!」

魔法カード『プロトフュージョン』を発動!手札の『旧サイバー・ドラゴン』と場の『旧サイバー・ドラゴン』を融合!
『プロトサイバー・ツイン・ドラゴン』を融合召喚!

なんか黒いサイバー・ツイン・ドラゴンが出てきたんだけど!?
すんごいやバそうなんだけど!?勝てるのこれ!?

私……やれるだけやったよね……。だから負けてもいいよね。
てか、ビートデッキじゃなくてデッキ破壊作ればよかった……。
このデッキアンデシンクロだけど……。
アレ?攻撃力がたったの2000?どういう事?

「装備魔法『プロトサイバーキャノン2001』を『プロトサイバー・ツイン・ドラゴン』に装備!
バトル!『地天の騎士ガイアドレイク』に攻撃!旧レボリユーション・ツイン・バースト!」

こ、攻撃力が4500……。?勝てない……。
だが、私には畏がある!んだけど……。どうせ妨害されるんでしょ!
!分かってますよ!

「無駄だと思っけど……。畏発動……。できない……。だと……。?」

「無駄だ!このカードが攻撃する場合、魔法、畏は発動できない!」

なにそのインチキ効果！？DT・デスサブマリンよりチート効果じやん！？

って怖い！トゲが怖い！

「うつ・・・面白くない・・・。」

「更に直接攻撃！」

やばいよやばいよやばいよ！

これどうし・・・クリボーあつた。なんで？まあいいや。

「手札のクリボーを墓地に捨て、ダメージをゼロにするわ！」

「カードを伏せ、ターンエンド！」

さあヨハンくん！なんとかアレを倒してくれよ！

「俺のターン！ドロー！」

魔法カード『生贄人形』を発動！『ボマー・ビー』を生贄にして、

『ブレイン・クラッシャー』を特殊召喚！

魔法カード『フォース』を発動！『プロトサイバー・ツイン・ドラゴン』を選択！バトル！『ブレイン・クラッシャー』で『プロトサイバー・ツイン・ドラゴン』を攻撃！

行け！『ブレイン・ジャッカー』！ブレイン・ショット！」

口から粘液を吐き出し、プロトサイバー・ドラゴンの体を溶かす。気持ち悪いわ・・・。

ってか昆虫族でどうなの？HAGAGさんぐらいでしょ使うの・・・。

へ？アンデット族も気持ち悪い？・・・表出る！

「くくくくくく……『機甲部隊の最前線』の効果により、デッキから『旧サイバー・オーガ』を特殊召喚！」

「カードを伏せ、エンドフェイズに『ブレイン・ジャッカー』の効果発動！来い！『プロトサイバー・ツイン・ドラゴン』！ターンエンドー！」

おお！凄いわヨハンくん！

……でも、カイザーしつこい。またモンスター出したし……。

「私のターン！ドロー！」

『ドラグニテイク・ハルプルト』を攻撃表示で召喚！

魔法カード『愚かな埋葬』発動！デッキから『青眼の白竜』を墓地へ送る！

更に魔法カード『希望の光と絶望の闇』を発動！墓地の『ドラグニテイク・ススパルト』と『青眼の白竜』を除外！

除外したモンスターの攻撃力の半分、フィールドの表側表示のモンスターを攻撃力をアップさせる！」

つまり、攻撃力が3000アップね。……てヤバいんじゃない？ハルプルトの攻撃力は1600……3000アップで4600……。

しかも私の手札には切り札の次元融合……異次元からの埋葬はまだ手札には来ていない。

……ネクロフェイスを使うしかないかな？いや、それでは折角除外したモンスターがデッキに戻ってしまう。

それでは次元融合が腐ってしまうし、相手のデッキにまたあのカードが戻るのを阻止しなければ……。

「ふはは！カムイラに直接攻撃！」

「っ、手札から『クリボー』を捨て、ダメージをゼロにするわ！」

なんとか凌いだわね。・・・次のターンで一気に決める！

「ふふん、ターンエンド！」

「私のターン！ドロー！」

畏発動！『異次元からの帰還』！」

ライフコスト？踏み倒しです。
なのは？はいそのとおりです。

「『閻竜の黒騎士』の効果発動！『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』を蘇生！」

そして場のモンスターを全て破壊し、『霸幻王』を特殊召喚！」

これで私の勝ちだ！・・・たぶん。
攻撃力がたったの2000なのがたまに傷んだけどね。

「『霸幻王』の効果発動！特殊召喚成功時、相手モンスターの攻撃力をこのカードに与える！『ドラグニティダーク・ハルプルト』の力を吸収！」

行け！『ドラグニティダーク・ハルプルト』に攻撃！霸王斬！」

ハルプルトに剣を投げただけ。それで破壊されるってどうよ？

・・・まだ私のバトルフェイズは終了してないわ！

「『霸幻王』の効果！相手モンスターを戦闘によって破壊した場合、攻撃力を元に戻す事で追加攻撃できる！直接攻撃！」

「う、くくく・・・その程度か？まだまだだな。」

後は、このカードね！私の希望！

・・・吸血鬼が希望とか言うのってどうよ？

「速攻魔法『幻の追撃』を発動！ライフを2000ポイント払い、追加攻撃！」

でもライフがまだ残っちゃうんだよね。はぁ・・・罨とか発動されなければいいけど。

ライフコスト？踏み倒しですがなにか？

「罨発動！『闇からの援軍』！『ドラグニティダーク・プライスト』を特殊召喚！」

攻撃力1400・・・守備表示で特殊召喚できない方の効果のようね。

私みたいにメタル・リフレクト・スライム入れればいいのに。

「構わないわ！攻撃！」

後はヨハンくん！頑張つてね！私、たぶん亮にやられると思うから！だって亮のデツキヤバいんだもん！旧サイバーデツキなんてほぼ黒歴史のデツキじゃん！

「カードを伏せ、ターンエンドよ！」

「俺のターン！ドロー！」

魔法カード『闇の量産工場』を発動！墓地の『旧サイバー・ドラゴン』を2枚、手札に加える！

『融合』発動！『プロトサイバー・ツイン・ドラゴン』！

また出たよ！何こいつうざいわ！

まあ、このカード使うからそれも無駄になるんだけどね。

「畏発動！『奈落の落とし穴』！『プロトサイバー・ツイン・ドラゴン』を除外！」

「で？魔法カード『魂の解放』を発動！墓地の『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』に『旧サイバー・ドラゴン』3体を除外！魔法カード『次元融合』を発動！『プロトサイバー・ツイン・ドラゴン』に『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』『旧サイバー・ドラゴン』を特殊召喚！」

あれ？まさか青眼も出てくるんじゃ……。
やっぱ出てくるのね……あうう……。

「『覇幻王』を『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』に装備！更にデッキから『旧サイバー・エルタニアン』を装備！」

「融合」発動！来い！『サイバー・ツイン・ドラゴン』！
カミューラに直接攻撃！半エターナル・レボリューション・バースト！」

うふふふふ……コレもう無理。伏せたカードは砂塵……ムリ
ダナ。

手札にはクリボーはもう無いし……。速攻のカカシもないし……。
勝てない。

「次！『プロトサイバー・ツイン・ドラゴン』に『プロトサイバー・ツイン・ドラゴン』で攻撃！」

続いて『ブレイン・ジャッカード』に攻撃！ダメージ計算時に『オネスト』を捨て、攻撃力を『ブレイン・ジャッカード』の攻撃力分アップさせる！

そして『旧サイバー・ドラゴン』で直接攻撃！
二体目の『旧サイバー・ドラゴン』で止めだ！」

私、オワタ！優勝オワタ！あはははははははははは！

「・・・俺、あんま出番無かった・・・ゲストなのに・・・。」

ゴメン、私の実力不足だったね・・・。

『勝者！旧サイバー流！素敵なデュエルをありがとう！』

嘘つくな！モンハンやってたの見え見えだったんだからね！
アバター！あんた人間じゃねえ！・・・精霊だった・・・。

視点：異世界編では空気だった明日香

空気じゃなくてよ！

・・・コホン！さて、カミューラ達が終わった事だし、そろそろデュエルの準備でも・・・。

・・・瑠璃さんとかよおおお・・・！よりによって一番目立つ人と組むとは、藍ちゃんと組みたかったわ・・・。

対戦相手は・・・誰？・・・うん、あんまり脅威には見えないわ私。なんでだろう・・・。

「若人よ、頑張ろうぞよ。」

「へっ？は、はい・・・。」

うわああああ、緊張するわー、プロと話すの。

チキンですよ！私はチキンですがなにか！？

『では始めます。第4回戦！アイドル&アイドル？VS出番の少ない精霊達 デュエル場へ！』

おい！？の方は私かおい！

やってちゃんよ！ぎったぎたのぼっこぼこのみっこみくにしてちゃんよ！

『ふうん。すぐに決めるぞ小娘。』

『その仮面ダサイから取った方がいいですよ。』

『えっ！マジで！？』

あゝ、そろそろ始めたいんだけど・・・。

でも、さわらぬ神にたたりなしって言うしね。

てかみんな、なんか興奮してんだけど？なんで？

「では、行きますよ！」

「にやはは！」

『高ぶる、高ぶるぞ！』

『今日の晩飯、豚キムチにしよう！』

「」「」「デュエル！」「」「」

精霊もごはん食べるんだ。知らなかった。

さあ飛ばすわよ私！久々の出番だから！

先行は貰った！

「私のターン！ドロー！」

『極星天ヴァナディース』を攻撃表示で召喚！

『極星天ヴァナディース』の効果により『極星天ヴァルキュリア』

を墓地へ送り、このカードのレベルを2にする！

カードを3枚セット、ターンエンド！」

あはは、このデッキ後攻の方が有利になるんだった。忘れてたわ。いやだつてさ、久しぶりの出番だよ。普通浮かれるでしょ？

『私のターン！ドロー！』

魔法カード『手札抹殺』を発動です！手札を全て捨て、捨てた枚数分ドローです！

『ワタポン』は通常ドロー以外でドローした場合、特殊召喚が可能です！『ワタポン』を特殊召喚！

魔法カード『コストダウン』を発動です！『ワタポン』を生贄に『青眼の白竜』を召喚です！

カードを伏せ、ターンエンドです！」

相方すんごい怒ってるけどいいの？どうでもいいけど・・・。

「私のターン！ドロー！」

『RF 桎梏を狩りし者』を攻撃表示で召喚つさ！

『RF 闇の狩人』の効果により手札から『RF 闇の狩人』を特殊召喚つさ！

『DT 闇からの使者』を特殊召喚つさ！

レベル4『漆黒を狩りし者』にレベル12の『DT 闇からの使者』をダークチューニング！

漆黒の帳下りし時冥府の瞳は開かれる。

舞い降りる闇よ！ダークシンクロ！

出でよ、『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』！カードを3枚セツトしてターンエンド！」

瑠璃さん！？いきなりそれは無いんじゃないですか！？

そもそもダークシンクロで、永理ぐらいですよ使ってるの！

『俺のターン！ドロー！』

儀式魔法『白竜降臨』！手札の『サファイア・ドラゴン』を生贄に『白竜の聖騎士』を儀式召喚！

永続魔法『未来融合』フューチャーフュージョン』を発動！『F・G・D』を選択！

デッキから『伝説の白石』3枚と『スピア・ドラゴン』『エメラルド・ドラゴン』を墓地へ送る！

墓地の『伝説の白石』の効果発動！デッキから『青眼の白龍』を3枚手札に加える！

『白竜の聖騎士』を生贄に『青眼の白竜』を特殊召喚！更に魔法カード『増援』を発動！デッキから『正義の味方カイバーマン』を手札に加える！』

おいおいおい、これヤバいんじゃない？

やばいよ瑠璃さん！助けて！

って、何その余裕顔は！こっちは寿命が縮みそうなのに！

「『白竜の聖騎士』を生贄に手札から『青眼の白竜』を特殊召喚！

『正義の味方カイバーマン』を召喚！『正義の味方カイバーマン』を生贄に『青眼の白竜』を特殊召喚！

カードをセットし、ターンエンド！」

あ、あはは・・・これ・・・もう出番終わり？そんなのは嫌だ！私はもっと出たい！

他の小説ではメインキャラなのにこっちは私は出番が無いよ！なんで！？どうして！？

「私のターン！ドロー！

ヴァナディースを守備表示に変更！『極星獣タングリスニ』を守備表示で召喚！ターンエンド！」

今は護りに徹しなきゃ！
でも、無理そうです。

「私のターン！ドロー！」

魔法カード『フォース』を発動！カイバーマンさんの青眼の攻撃力の半分を私の青眼に加える！

バトル！『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』に攻撃！滅びの爆裂疾風弾！」

うわあ……１ターンで瑠璃さんのワンハンドレッドを破壊するって……。

信じられるか？これ、プロ同士のデュエルじゃ無いんだぜ……。

「『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』の効果発動！デッキから好きなカードを手札に加える事ができる！」

私は『ダークシンクロ・サポーター』を手札に加える！」

『ふふふ、カードを伏せ、ターン終了です！』

またダークシンクロのサポートカード……なにこれ？こんな普通のじゃないよ！

50円で売られているダークシンクロって、こんなにも強かったの？永理ん家では結構な値段するけど……。

「私のターン！ドロー！」

リバーズ畏発動！『呪縛牢』！エクストラデッキから『DST死龍』2体と『黒眼の紫龍』を特殊召喚！

『DST死龍』に『黒眼の紫龍』をダブルダークチューニング！

絶対王者と絶望が共鳴せし時、無限の苦しみより死の王は甦る！闇で蔽え！心も体も、世界も！ダークシンクロ！

これが絶対なる間、『デスナイト・オブ・ダークネスドラゴン』！
こ、攻撃力5500って、勝てないよ絶対！
なにこのチートカード！？どうせ効果もチートなんだから！

「『デスナイト・オブ・ダークドラゴン』の攻撃力は、場のカード
の数×1000ポイントアップする！」

予想の斜め上のチート効果だった！

しかもまだ効果あるっぽいし！

アレ？相手の場に存在するカードは・・・私も入れて9！？つまり
攻撃力18500！？絶対勝てないよ！アバターでもない限り！

「行け！『デスナイト・オブ・ダークドラゴン』！青眼1に攻撃！
デスナイト・オブ・ストリーム！」

そして『デスナイト・オブ・ダークドラゴン』の効果発動！相手モ
ンスターを戦闘で破壊した場合、デッキを3枚めくり、闇属性モン
スターの数分だけ攻撃が可能となる！

青眼2に攻撃！デスナイト・オブ・ストリーム！青眼3に攻撃！デ
スナイト・オブ・ストリーム！」

あ、あはは・・・私の出番・・・全く無かった。

『勝者！アイドル&アイドル?!瑠璃さん自重しろ!』

「にははは・・・アバター、それは無理な話っさ」

カムバーク！私の出番！

召喚条件が難しいカードは大体チート。幻魔？ゲート・ガーディアン？聞こえん

永理「なんというチート……。」

ふっふっふ、これこそがオリカの力よ！

アバター『そういえば、だいぶと更新してなかったけどなにかあったの？』

いやね、遊戯王MADにハマったりネタが思いつかなかったりTF6とかやっていたりで……ね？

永理「お前たぶん小説の作者の中で一番最悪なパターンだぞそれ。」

小さいことは気にすんな。それワカチコワカチコ。さて、オリカ紹介、入ってみよう！

『ドラグニティダーク・トブリル』

レベル4

闇属性

攻撃力：1300

守備力：1200

鳥獣族：効果

このカードの召喚に成功した時、手札のドラグニティと名のつくモンスターを1体、特殊召喚できる。この効果を発動するターン、自分はバトルフェイズを行う事ができない。

『ドラグニティダーク・フラス』

レベル2

闇属性

攻撃力：250

守備力：120

ドラゴン族：効果

このカードがドラグニティダークと名のつくモンスターの効果で特殊召喚された時、デッキからドラグニティダークと名のつくモンスターを1体、特殊召喚できる。

『ドラグニティダーク・カタストロフ』

レベル3

闇属性

攻撃力：1300

守備力：1200

鳥獣族：効果

このカードが召喚、特殊召喚された時、デッキからTDと名のつくモンスターを1体、特殊召喚できる。

『DT ダークネス・ドラゴン』

レベル8

闇属性

攻撃力：0

守備力：0

ドラゴン族

地縛神に仕える龍、最近給料が減ってきたのでブックオフで働いてるとかなんとか。

『ドラグニティダーク・ブルラスト』

レベル6

闇属性

攻撃力：3100

守備力：1200

ドラゴン族：ダークシンクロ

チューナー以外のドラグニティダークと名のつくモンスター1体・
ダークチューナー

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する

ダークチューナー

「DT」と名のついたチューナーのレベルを

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルか
ら引き

その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。

このカードは戦闘では破壊されない。

『戦場の跡地』

フィールド魔法

1ターンに一度、デッキからレベル4以下の旧と名のつくモンスターを1体、特殊召喚できる。

『旧サイバー・ドラゴン』

レベル3

地属性

攻撃力：1499

守備力：1456

機械族

プロトサイバーより昔に作られた兵器

仲間との合体により、真の力を発揮する・・・かも？

『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』

レベル12

地属性

攻撃力：2000

守備力：3100

機械族：効果

このカードは旧サイバー・ドラゴンを生贄にする事で、生贄1体で召喚できる。

このカードの召喚、特殊召喚時、相手モンスターを1体、このカードに装備させ、デッキから旧と名のつくモンスターを1体、このカードに装備させる。

このカードの攻撃力は装備されているモンスターの攻撃力分アップする。

『旧サイバー・オーガ』

レベル5

地属性

攻撃力：1900

守備力：1200

機械族：効果

このカードを手札から捨てる事で、デッキから旧サイバー・オーガを手札に加える。

『ボマー・ビー』

レベル3

風属性

攻撃力：1300

守備力：1200

昆虫族：効果

1ターンに一度、相手モンスターを破壊できる。この効果を発動するターン、自分はバトルフェイズを行う事はできない。

『不良品シールド』

永続罫

モンスターがカードの効果によって破壊される時に発動できる。
効果破壊を戦闘破壊として処理する。

『DT ドラグニティダーク・スプロトル』
レベル7

闇属性

攻撃力：1200

守備力：1300

鳥獣族：効果

墓地に存在するこのカードを除外する事で、DT ドラグニティダーク・スプロトルを1体、特殊召喚できる。

『ドラグニティダーク・ハルプルト』
レベル3

闇属性

攻撃力：1500

守備力：1300

ドラゴン族：効果

このカードが墓地から特殊召喚された場合、デッキからカードを1枚ドロウできる。この効果を発動した場合、このカードを除外する。

『ドラグニティダーク・ススパルト』
レベル4

闇属性

攻撃力：3000

守備力：3000

ドラゴン族：ダークシンクロ

1ターンに一度、デッキから装備魔法を3枚墓地へ送る事で、デッキから装備魔法を1枚、手札に加える。

『純悪な闇』
装備魔法

闇属性モンスターにのみ装備可能。
装備モンスターの攻撃力を1000ポイントアップさせる。

『ディフェンドアップ』
通常罫

自分フィールドに表側守備表示で存在するモンスターを1体選択して発動する。
そのモンスターの守備力をエンドフェイズまで2000ポイントアップさせる。

『復讐の剣』
装備魔法

ガイアと名のつくモンスターにのみ装備可能。
攻撃力を500ポイントアップさせる。
このカードが破壊された時、墓地のカードを1枚、デッキに戻す事ができる。

『アンデットスラッシュ』
速攻魔法

墓地のアンデット族を除外し、効果を発動する。自分フィールド場に存在するモンスターを1体選択する。そのモンスターは通常の攻撃に加え、もう一度だけ攻撃ができる。

『プロトフュージョン』
通常魔法

手札またはフィールド上から、融合モンスターカードによって決められた

モンスターを墓地へ送り、機械族の旧と名のつくモンスターの融合モンスター1体を融合デッキから特殊召喚する。

『プロトサイバー・ツイン・ドラゴン』
レベル8

地属性

攻撃力：2000

守備力：2000

機械族：融合

旧サイバー・ドラゴン+旧サイバー・ドラゴン

このカードの融合召喚は、上記のカードでしか行えない。

このカードが攻撃する場合、相手は魔法、罫を発動できない。

『プロトサイバーキャノン2001』
装備魔法

プロトサイバー・ツイン・ドラゴンにのみ装備可能。

攻撃力を2500ポイントアップさせる。

『希望の光と絶望の闇』
通常魔法

墓地の光属性モンスター1体と闇属性モンスター1体を除外して発動する。

除外したモンスターの攻撃力の半分を、自分フィールドのモンスター

1の攻撃力をアップさせる。

『覇幻王』

レベル10

闇属性

攻撃力：20000

守備力：20000

悪魔族：効果

このカードは自分フィールドのモンスターを全て破壊する事でのみ、特殊召喚できる。このカードの特殊召喚成功時、相手モンスターを1体選択して発動する。

そのモンスターの攻撃力を半分にし、このカードの攻撃力を半分にした数値分、アップさせる。相手モンスターを戦闘によって破壊した場合、このカードの攻撃力を元に戻す事で、続けて攻撃する事ができる。

『幻の追撃』

速攻魔法

ライフを2000ポイント払う事で発動する。自分フィールド場のモンスターを1体選択する。選択したモンスターは、続けて攻撃ができる。

『闇からの援軍』

通常罫

デッキからドラグニティダークと名のつくモンスターを1体、攻撃表示で特殊召喚できる。

『ドラグニティダーク・プライスト』

レベル4

闇属性

攻撃力：1400

守備力：1900

鳥獣族：効果

このカードの召喚成功時、デッキからドラゴン族モンスターを1体、手札に加える。

『ダークシンクロ・サポーター』

レベル1

闇属性

攻撃力：1000

守備力：0

機械族：効果

このカードの召喚時、手札からレベル8以下のTDと名のつくモンスターを1体、特殊召喚できる。この効果で特殊召喚したモンスターはエンドフェイズに破壊される。

『デスナイト・オブ・ダークドラゴン』

レベル1

闇属性

攻撃力：5500

守備力：2100

ドラゴン族：ダークシンクロ

黒眼の紫龍 - ダークチューナー2体

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在するダークシンクロチューナー「DST」と名のついたチューナーのレベルを

それ以外の自分フィールド上に存在する黒眼の紫龍のレベルから引きその数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。

このカードの攻撃力・守備力は、相手フィールド上に存在する

カードの枚数×1000ポイントの数値分アップする。

このカードが相手モンスターを戦闘によって破壊した場合、自分のデッキの上からカードを3枚めくる。

このターンこのカードはその中の閻属性モンスターの数まで攻撃する事ができる。

その後めくったカードをデッキに戻してシャッフルする。

永理「予想の斜め上に行くチートカード軍団だった・・・。」

この俺が自重するだけでも？

アバター『明日香の順番、もっと増やしてやれよ。』

大丈夫！次回の次回の次回で出てくるから。

ちなみに、それまで永理の順番はほとんど無いよ。

永理「行け！ラーよ！ゴッド・ブレイズ・キャノン！」

甘い！マジック・シリンダー！

永理「うわああああー！」

英語版のバスター・モードの名前はカッコいい。だが、俺には読めないぜ！あー

視点：十代

さて、やっと俺の出番か。．．．しかし、まさかタッグパートナーがこいつとはな。

「よろしく頼むぜ！十代！」

神楽坂．．．その格好なに？

「たしか永理は．．．『DT・ナイトメアハンド』って言った。」

マジですか永理さん．．．。てか作ったの！？凄エ！

そついやあ、この大会での優勝賞品ってなんだろう？分かんないなちよつと．．．。

でも、さすがにホルアクティは無いだろ．．．。アレ？気のせいかな？．．．気のせいじゃなかったよ！

こいつマジでやらかしたよ！レイのデッキしかり！普通に神のカード使用しかり！

『漲って来たぜ！第5回戦！ 英雄は夢に何思うのか？V S H E R O & H E R O デュエル場へ！』

アバターのテンションがヤバい事に．．．なんか怖い。

だって眼が！眼が完全に逝っちゃってるもん！

まあいいや、忘れよう。さて、久しぶりのデュエルだぜ！楽しまな

いとな！

「行くぜ神楽坂！」

「OK！俺様のハンドレスコンボは完璧だ！」

「猫とは・・・いいものだ！」

「何言つてんだ馬鹿不死鳥！」

対戦相手は、アビドスと・・・誰だっけ？たしか人妻好きなプロデ
ユエリストだった気が・・・。
まあいい！ゲームの始まりだ！

「・・・デュエル！」 「デュエルではない、エドだ！」

（永理家内BGM ダークシグナー）

選曲いいな永理・・・。

エドさん何言つてんの！？

まずは神楽坂のターンからか・・・。 先行欲しかったなあ・・・。

「俺のターン！ドロー！」

モンスターをセット！魔法カード『愚かな埋葬』！デッキから『イ
ンフェルニティ・ガーディアン』を墓地へ送る！

カードを伏せ、ターンエンド！」

それだけ？もつと行動したら？

まあいいや、次はアビドスのターンか・・・。

「名前覚えてくれたんだ。・・・俺のターン！ドロー！」

『ジエスター・コンフィ』を特殊召喚！『ジエスター・コンフィ』

を生贄に『生贄人形』を発動！

『E・HEROエッジマン』を特殊召喚！更に『融合』発動！手札の『E・HEROスパークマン』と『E・HEROオーシャン』を融合！

来い！『E・HEROアブソルートZero』！ターンエンド！」

忌々しい属性HEROめ……。絶対に殺す！

「俺のターン！ドロー！

チツ、モンスターをセット！カードを3枚セット！ターンエンド！」

くくく、伏せたカードは素っ破抜きとアヌビスの裁き……。そして天罰！俺の勝ちだ！

エドのデッキはなんなのだろう？まあいい、我が力にひれ伏すがいい！

「俺のターン！ドロー！

『D・HEROダイアモンドガイ』召喚！エフェクト発動！デッキトップをめくり、そのカードが通常魔法だった場合、そのカードを墓地へ送り、次のターンにエフェクトを発動できる！！

デッキトップは当然……。通常魔法『滅びの爆裂疾風弾』！次のターンエフェクト確定！」

やっぱり青眼か！青眼入れてるかあいつ！

しかし、面倒な効果だなあいつ……。攻撃力がたったの1400……。か……。低いな。

「カードを3枚セット！ターンエン、エドさんのエンドフェイスに畏発動！『砂漠の光』！『不幸を告げる黒猫』の効果発動！『ハンドレス・フェイク』デッキトップに！」。……。ターンエンド！」

ガン伏せですか？さすがプロ！タッグフォースのアレはなんだったんだプロ！？

神楽坂、・・・やっちなえ！

「俺のターン！ドロー！」

魔法カード『天使の施し』！デッキからカードを3枚ドローし、2枚捨てる！

手札の『インフェルニティ・デストロイヤー』を墓地へ捨て、『ダーク・グレファア』を特殊召喚！『ダーク・グレファア』の効果発動！手札の『インフェルニティ・リベンジャー』を墓地へ捨て

デッキから『ネクロ・ガードナー』を墓地へ送るぜ！『ダーク・グレファア』を生贄に『死霊を操りしパペットマスター』を召喚！1

000ライフをコストに墓地の『インフェルニティ・デストロイヤー』

『DT ナイトメア・ハンド』を特殊召喚！更に装備魔法『早すぎた埋葬』を発動！ライフを800払い、墓地の『インフェルニティ・ビートル』を特殊召喚！

更に魔法カード『死者蘇生』発動！墓地の『インフェルニティ・ドワーフ』を特殊召喚！」

・・・嫌な予感が・・・てか、DT？まさか・・・月影家十八番のダークシンクロ！？

インフェルニティと相性最悪なんだけどな・・・上級モンスターにDTは・・・。

おいエドさん！何ポケモンやってんだ！しかもGBて・・・GBて・・・。

「おっ、ファイヤーレベルアップ、にらみつけるか・・・どうしよう？諦めよう！」

初代！初代だあれ！
おっ、神楽坂が動くぞ。

「カードを伏せ、レベル2の『インフェルニティ・ドワーフ』にレベル10の『DT ナイトメア・ハンド』をダークチューニング！漆黒の帳下りし時冥府の瞳は開かれる。

舞い降りる闇よ！ダークシンクロ！出でよ『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』！

レベル6の『死霊を操りしパペットマスター』にレベル2の『インフェルニティ・ビートル』をチューニング！

死者と生者、ゼロにて交わりしとき、永劫の檻より魔の竜は放たれる！

シンクロ召喚！いでよ、『インフェルニティ・デス・ドラゴン』！

おお！満足龍に不満足龍！凄エ！

・・・コレ、俺いらなくネ？

「ヒヤッハー！踊れエド！死のダンスを！『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』で『D・HEROダイヤモンドガイ』を攻撃！インフェニティ・サイト・ストリーム！」

「甘いぞ少年！畏発動『炸裂装甲』！」

ああ！神楽坂のダークシンクロモンスターが破壊される！

俺がそう確信した時、目を疑った。

・・・笑っているのだ、神楽坂が・・・。

「残念だったな・・・『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』は、墓地の闇属性モンスターの効果を得るのさ！

ヒヤッハッハッハッハア！墓地の『インフェルニティ・ガーディアン』の効果は、手札が無い場合、戦闘、カード効果では破壊され

ない！」

やっぱりか！やっぱりそんな効果か！
でも、これでエドさんも終わりか、意外と早かったな。

「ヒヤーツハツハツハア！『インフェルニティ・デス・ドラゴン』
で止め！デス・ファイア・ブラスト！」

Q・これはプロ養成学校ですか？

A・はい、プロからやる気を削ぐ学校です。

「やはり甘いな、最初の『炸裂装甲』はおとり！これが本命だ！畏
発動！『次元幽閉』！」

はいガチカード入りました。

さすがに堪えたみたいだな、神楽坂も……。

「そうでなくては面白くないな！ターンエンド！」

この状況で楽しむとか無理！絶対無理！

……まあいい、次の次のターン、俺のデッキの真の力を見せてや
る！

「俺のターン！ドロー！」

『融合』発動！手札の『E・HEROSパークマン』と『カード・
ガンナー』を融合！来い！『E・HEROガイア』！」

またか、……ヘルポリマー伏せときゃよかった。

だが、所詮その程度の効果！ひやはははははは！

「『E・HEROガイア』の効果発動時に、こいつを発動させてもらうぜ！『天罰』！」

「ぐっ、小癩な！『カード・ガードナー』を守備表示で召喚し、ターンエンド！」

さて、残りの属性HEROをどうするか？

……くくく、運命は俺に味方するのか。

「俺のターン！ドロー！」

手札の『沼地の魔神王』を墓地へ捨て、『融合』を手札に加える！魔法カード『融合』発動！手札の『ゼミアの神』と『E・HEROプリズマー』を融合！

『G・HEROグリファル』を融合召喚！融合召喚した瞬間、効果発動！場のカードを全て破壊！」

「ぐっ、猪口オナ！」

「え？何？何？何が起きたの！？」

くくく、シンクロの力、とくとその目に焼き付けるがいい！

ヒヤーツハツハツハツハア！！……エドさんがなんか違うんだよな……テレビとはな……。

「『デブリ・ドラゴン』を召喚！効果により、墓地の『沼地の魔神王』を特殊召喚！レベル3の『沼地の魔神王』に、レベル4の『デブリ・ドラゴン』をチューニング！」

冷気を纏いし龍よ！我が勝利のために、古の封印を解き放つがいい！シンクロ召喚！飛翔せよ！『氷結界の龍グングニール』！そして速攻魔法『異次元からの埋葬』」

ふっふっふ、こいつの効果は、ちょっとキツイぜ？

さあ、イツツ・シヨータイム！

「グングニールの効果発動！手札を2枚まで捨て、捨てた枚数分だけカードを破壊できる！」

ヒャーハッハッハア！エドの残りカードを全て破壊！オール・ブリザード！

さあ行け！グングニールでアビドスに攻撃！ワールド・ブリザード！」

グングの口から冷気を纏いし息吹が放たれる・・・訳ねえだろ！下等生物に息吹なんざ執拗ねえ！

尻尾で攻撃しな！ヒャーッハッハッハア！

「ぐ、貴様は、貴様だけは許さん！絶対にぶっ潰す！グアアアアアアア！」

「寝言は寝て言ってる。ターンエンド！」

相手の場には壁モンスターが存在しない。たとえ融合されたとしても、俺の墓地にはネウロ・ガードナーが2枚。

たとえ攻撃してきたとしても攻撃を無効にし、神楽坂のワンハンドレッド・アイ・ドラゴンで攻撃or効果破壊で勝てる！

「俺のターン！ドロー！」

墓地の『滅びの爆裂疾風弾』の効果発動！全てのモンスターを破壊！・・・『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』は破壊されないけど・・・。

魔法カード『ダーク・ゲート』を発動！手札を2枚捨て、デッキからダークと名のつくモンスターを1体、召喚条件を無視して特殊召喚できる！来い！『ダーク・アームド・ドラゴン』！

『ダーク・アームド・ドラゴン』を生贄に『偉大魔獣ガーゼット』を召喚！バトル！十代に直接攻撃！ミサイルパンチ！」

「エドの直接攻撃宣言時、墓地の『ネクロ・ガードナー』を除外し、攻撃を無効！」

「ちっ、カードを2枚伏せ、ターン終了だ。」

ついに、ついに来た！プロを倒す時が！……まあ、倒すのは神楽坂なんだけど……。

まあそんな事はどうでもいい！永理の口から血が出てる気がするが気にしない！

なんかリングゴ持つてるが気にしないぜ俺は！

「俺のターン！ドロー！」

手札の『インフェルニティ・デーモン』を相手に見せ、手札から特殊召喚！

『インフェルニティ・デーモン』の効果発動！デッキから『インフェルニティ・アタッカー』を手札に加える！そして、『インフェルニティ・アタッカー』の効果発動！

手札から特殊召喚し、デッキからインフェルニティと名のつくレベル5以上のモンスターを手札に加える！俺は『インフェルニティ・ジエネラル』を選択！

2体のモンスターを生贄に『インフェルニティ・ジエネラル』を召喚！バトル！『インフェルニティ・ジエネラル』でアビドスに直接攻撃！アビドス撃破！

メインフェイズ2に、『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』の効果発動！『偉大魔獣ガーゼット』を破壊！

くははははは……、これでバーンダメージは2800……俺達の勝ちだ！

「バーンで止めは嫌あああああ……！」

「恐怖におびえ、生き恥さらせ！」

神楽坂くうくうん!!?
悪役ですやん、もう完璧に……。
俺?……気にするな!

『あ、終わった?……勝者、英雄は以下略。』

アバター絶対にもう飽きてるだろ!
はあ、まあいいやもう。

「神楽坂、少しは自重しろよ……。」
「ダークシンクロ以外と使いやすかった……。それは無理だな!
ヒャーッハッハッハッハア!!」

いや、マジで自重してくださいお願いします。

視点：一！十！百！千！万丈目サンダー！

幽霊って飯食うもんなのか?まあいいや。

『万丈目さん、頑張りましょうね!』

ああ、俺には眩しすぎるぜ……その笑顔。
……殺気が背中からするのは気のせいではないなうん。

『え〜では、次の選手は、デュエル場へ上がってください。……
フォルテのあのバルカン卑怯だろ。』

お前もつやる気ないだろ！
しかし、対戦相手が迷宮兄弟とは……。

「我々の力。」

「とくと思いい知るがいい！」

「……デュエル！」

「私のターンですう！ドロー！」

「レッド・ガジェット」を召喚ですう。効果により、デッキから

「イエロー・ガジェット」を手札に加えますう。

カードを3枚伏せ、ターン終了ですう。」

栄ちゃんのデッキはいつたいたいなんなのか？まあいいや。

次は、迷宮弟の番か……。

「私のターン！ドロー！」

「地雷蜘蛛」を召喚！魔法カード「生贄人形」を発動！「地雷蜘蛛」を生贄に、「風魔神・ヒューガ」を特殊召喚！

更に魔法カード「天使の施し」発動！デッキからカードを3枚ドローし、2枚捨てる！魔法カード「死者蘇生」発動！

墓地から「水魔神・スーガ」を墓地から特殊召喚！更に装備魔法「早すぎた埋葬」を発動！ライフを800払い、墓地から「雷魔神・サンガ」を特殊召喚！

魔法カード「強欲な壺」を発動！デッキからカードを2枚ドロー！3体のモンスターを生贄に、「ゲート・ガーディアン」を特殊召喚！

「では、特殊召喚成功時に『奈落の落とし穴』を発動ですう！」「えっ？」

ああ、ガーディアンが、落ちていく……。

しかも除外だしな……。ダーク・エレメント対応してないし……。
この子、恐ろしい子！

「カードを伏せ、ターン終了……。」

「俺のターン！ドロー！」

魔法カード『スター・ブラスト』を発動！500ライフを払い、『アームド・ドラゴンLV5』を召喚！更に魔法カード『ハイリスク・レベルアップ』を発動！デッキから『アームド・ドラゴンLV7』を特殊召喚！

魔法カード『天使の施し』を発動！デッキからカードを3枚ドローし、2枚捨てる！カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

伏せたカードは、リビングデッドの呼び声……。たとえば効果で破壊されたおしても、蘇生できる！

そしてもう一枚は収縮。たとえ攻撃してきたとしても、相手モンスターを破壊し、デッキからアームド・ドラゴンLV7を特殊召喚できる！

「私のターン！ドロー！」

ふっふっふ……。魔法カード『古のルール』発動！『青眼の白竜』を特殊召喚！カードを3枚場に出し、ターン終了だ！」

栄ちゃんのデッキがまだ分からないな……。ガジェットだから機械族か？

……。まさか、前に永理が作った機械アンデじゃないよな……。あれの展開力は恐ろしかった……。

「私のターン！ドロー！」

『愚かな埋葬』を発動ですっ。デッキから『ゾンビキャリア』を

墓地へ送りますう〜。『ゾンビ・マスター』を召喚ですう〜！

『ゾンビ・マスター』の効果で、手札の『サイバー・フェニックス』を墓地へ送り、『ゾンビキャリア』を特殊召喚ですう〜！

更に畏発動ですう〜！『地の代償』！『ゴ布林ゾンビ』を召喚ですう〜！レベル4の『ゴ布林ゾンビ』にレベル2の『ゾンビキャリア』をチューニングですう〜！

地獄の名を持つ龍よ、我が勝利のために甦るがいい！シンクロ召喚！これが、死の文字を与えし龍！『デスカイザー・ドラゴン』ですう〜！

『ゴ布林ゾンビ』の効果発動ですう〜！デッキから『ゴ布林ゾンビ』を手札に加えますう〜！

ヘルカイザー・ドラゴン？だが腐ってるし……。まあいいや！

効果は、永理から聞いた時は、相手の墓地のアンデット族を1体特殊召喚だっけか？

『フィールド魔法『アンデットワールド』』を発動ですう〜！バトル！迷宮兄弟兄に直接攻撃ですう〜！デスアンデット・ヘルブレス！

……。気のせいかな？ワンキル臭がするんだけど……。

恐らく、あの伏せカードの1枚はバスター・モードだと思うんだよね俺。

いや無いか、さすがにそれは無いよな。

『畏カード『Assault Mode Activate』』を発動ですう〜！

外国かい！まさかの外国かい！

ん？永理がグーサイン……。？まあ、カッコいいよね外国版。

『『デスカイザ〜・ドラゴン』を生贄に、デッキから『Doomkaiser Dragon/Assault Mode』を特殊召喚ですう〜！』

『Doomkaiser Dragon/Assault Mode』の効果発動！万丈目さんの墓地から『青眼の白竜』と、迷宮兄弟の墓地から三魔神を特殊召喚ですう〜！』

『青眼の白竜』で『青眼の白竜』を攻撃ですう〜！滅びの爆裂疾風弾！更に三魔神で直接攻撃ですう〜！雷衝弾！流水波！魔風波！』

ああ、俺の出番が無かったぜ
折角のアームド・ドラゴンが無駄になったぜ あははははは・・・
はあ。

『ありがとうございますあ〜。』

「次は絶対に」

「我々が勝つ！」

「その時まで」

「負けるのではないぞ！」

「『では、また会おう！』『」

・・・元気だなあいつら。

『ちっ、移動するなよ。・・・あ、勝者、栄ちゃんと万丈目。はい拍手〜。』

お前後で巩固めな。

英語版のバスター・モードの名前はカッコいい。だが、俺には読めないぜ！あー

やっと不満足に50回勝った今日。長かったぜ。

永理「・・・凄いなお前、勉強しろよ。」

はっはっは、断るZE

家ではゲーム&ネット&漫画でおk。

成績悪くてもなんとかなるさ。

永理「おいおい・・・。」

まあいいじゃんそれは、さて、オリカ紹介エーイ

永理「無駄にテンション高いなお前。」

『ダーク・ゲート』

通常魔法

手札を2枚捨てる。

デッキからダークと名のつくモンスターを、召喚条件を無視して特殊召喚する。

この効果で特殊召喚されたモンスターは攻撃できず、効果を発動する事も出来ない。

永理「正直言つと、微妙だな。」

うん、俺もそう思う。でもさ、シンクロとか、ガーゼットとかに使えるし、ダーク・グレイにも使えるしさ。

永理「確かに、ダークシンクロデッキに入れてもいいんだけど、『簡易融合』でおkだし。」

言うな。それを言うな。

歯茎、大丈夫？

永理「歳には勝てぬわ。」

お前まだ高校生だろ、設定上は。

地縛神には何かの魅力を感じる。・・・そう、ロマンという魅力を・・・。

視点：ナノネ

長き月日を得て、やっとの出番・・・。
そう、今ここに宣言しよう。

「わが世の春が来たアアアア!!」
「うるさいでアール!クロノス先生!」

いや、だって全くデュエル描写が無いノネよ!いやまじ本当に。

『ふああ、7試合目開始。眠ろう。』

やる気が無いノネ・・・、アバター。
ま、まあいいノネ。頑張るノネ!

「「「デュエル!」デース!」でアール!」ノネ!」

(永理家内BGM らららコッペパン)

「(おお、らきすたBGMデース 素晴らしい・・・)私の先行!
ドロー!

ライフを1000払い、『トウン・ワールド』を發動デース!
『トウン・マーメイド』を特殊召喚デース!

『トウン・マーメイド』を生贄に『トウン・デーモン』を特殊

召喚デース！『トウーン・チェミナイ・エルフ』を召喚し、ターン終了デース！」

いきなりヤバいノ〜ネ！この状況・・・、どうする私！ あっ、愚かな埋葬あつた。

てかこの手札、一目見たら事故じゃね？って手札なノ〜ネ！

「私のターンでア〜ル！ドロー！」

『トイ・ワールド』を発動でア〜ル！『トイ・ソルジャー』を召喚でア〜ル！カードを3枚伏せ、ターンエンドでア〜ル！」

嫌な予感しかしないノ〜ネ・・・。ああ、この手札ならワンキルできるのに・・・。

まあいいノ〜ネ！うん！

「俺のターン！ドロー！」

『ツインバレル・ドラゴン』を召喚だ！『ツインバレル・ドラゴン』の効果！選択するのは『トイ・ソルジャー』！」

不味いノ〜ネ！あのカードはナポレオン教頭のキーカードなノ〜ネ！でも、あの人ならたぶん、畏を発動するのでしょうか・・・。

「甘いのでア〜ル！畏発動！『トイ・ガード』を発動でア〜ル！このカードは対象を相手モンスターに変更する事ができるのでア〜ル！変更対象は『トウーン・デーモン』！」

「甘いデース！畏カード『トウーン・ガード』！1000ライフ払い、トウーンと名のつくモンスターは効果では破壊されませーん！」

おお、美味しい事かわしたノ〜ネ！

でも、1000ライフコストはちよつとキツイノ〜ネ・・・あつ、

この大会ではライフコストの踏み倒しが可能だったノ〜ネ！
まさか、そこまで考えて……。

「ちっ、カードを2枚伏せ、ターン終了だ！」

「私のターン！ドローによ！」

魔法カード『愚かな埋葬』を発動なノ〜ネ！デッキから『DT デス・サブマリソ』を墓地へ送る〜ノ！

墓地の『DT デス・サブマリソ』の効果発動ナノ〜ネ！墓地から特殊召喚できるノ〜ネ！魔法カード『ワン・フォー・ワン』を発動なノ〜ネ！

手札の『古代の機械巨人』を捨て、デッキから『ダークシー・レスキュー』を特殊召喚ナノ〜ネ！レベル1の『ダークシー・レスキュー』にレベル9の『DT デス・サブマリソ』をダークチューニング！

闇と闇重なり〜し時、冥府の扉は開かれ〜る。光無〜き世界へ！ダークシンクロ！出でよ、『ダーク・フラット・トップ』！

『ダーク・フラット・トップ』の効果発動！墓地の『古代の機械巨人』を特殊召喚するノ〜ネ！」

私の得意なコンボより早く出せました〜ノ。……事故率高くなりました〜が……。

ちなみに、このデッキは機械族のみなのデ〜ス！つまり、一族の結束で攻撃力3800の貫通効果の巨人が出てくるノ〜ネ！

……1枚しか持ってません〜が……。はあ……。

あと、ナポレオン教頭も機械族オンリーなノ〜ネ！つまり、タッグには最適なノ〜ネ！……性格は好きに慣れませんが。

「カードを2枚伏せ、ターンエンドなノ〜ネ！」

「私のターン！ドロー！」

『トウオン・デーモン』でクロノスさんを直接攻撃デ〜ス！」

「甘いノ〜ネ！罨カード『スピリット・バリア』！」

ふっふっふ、効果は以下略なノ〜ネ！だって面倒だし。

「中々やりますね。カードを伏せ、ターンエンドデース！」

さすが遊戯王の生みの親。強いノ〜ネ……。てかなんでこの人がここに居ます〜ノ？

マリクさんとか遊戯さんとか海馬さんとかがなんで……。

やはり永理、恐ろしい子！

「私のターンでア〜ル！ドロー！」

スタンバイフェイズに『トイ・ソルジャー』の効果発動でア〜ル！デッキから『トイ・ソルジャー』を特殊召喚でア〜ル！

更に特殊召喚した『トイ・ソルジャー』の効果でデッキから『トイ・ソルジャー』を特殊召喚でア〜ル！

『ニトロ・シンクロン』を召喚でア〜ル！レベル3の『トイ・ソルジャー』3体に、レベル1の『アンノウン・シンクロン』をチューニングでア〜ル！

自立型機械大砲の力、とくと見るがいいのでア〜ル！シンクロ召喚でア〜ル！いでよ、『A・O・Jディサイズ・アームズ』！

バトル！『A・O・Jディサイズ・アームズ』で『トウーン・デ―モン』を攻撃でア〜ル！ギガ・バースト！」

おお、スゴイ迫力なノ〜ネ！

でも、ちよつと煩いノ〜ネ……。

「カードを伏せ、ターン終了でア〜ル！」

「俺のターン！ドロー！」

魔法カード『愚かな埋葬』を発動！デッキから『トラップ・リアク

ター・RR』を墓地へ送るぜ！

『ブラック・ボンバー』を召喚！『ブラック・ボンバー』の効果で、墓地の『トラップ・リアクター・RR』を特殊召喚するぜ！

レベル4の『トラップ・リアクター・RR』に、レベル3の『ブラック・ボンバー』をチューニング！

屑鉄の悪魔よ！屑鉄の山より目覚めよ！シンクロ召喚！来い、『スクラップ・デス・デーモン』！

『ツインバレル・ドラゴン』の効果発動！効果対象は『A・O・J デイサイシブ・アームズ』！

コイントスの結果は、成功です。
城之内さんですか？

「バトル！『スクラップ・デス・デーモン』で、ナポレオンに攻撃！デーモン・ストラッシュ！」

「甘いでアール！罨カード『次元幽閉』！『スクラップ・デス・デーモン』を除外でアール！」

ガチ入りました。

ああ、この人とやると楽に勝てると思ってしまっノ〜ネ。ですが、このデュエルで勝ったとしてもマリクさんや、カイザーとかが控えているノ〜ネ……。

だから、このデュエルだけでも輝いてみせるノ〜ネ！

「ちっ、カードを伏せ、ターンエンドだ！」

「私のターン！ドロ〜によ！」

これをこれでこれして、フィールド魔法『歯車街』を発動なノ〜ネ！

「『トイ・ワールド』が破壊された瞬間、デッキから『トイ・ジエネラル』を特殊召喚でアール！」

そんな効果だったノ〜ネ……。知らなかったノ〜ネ……。それにしても、あのキースって人、すんごく帰りがたそうなの〜ネ。。。

「『歯車街』の効果発動なの〜ネ！『古代の機械獣』を召喚なの〜ネ！」

「おい、そのモンスターは上級だぞ！なんで召喚できてんだ!？」

「『歯車街』の効果なの〜ネ、古代の機械と名のつくモンスターの生贄を減らす効果なの〜ネ。」

バトル！『古代の機械巨人』で『ツインバレル・ドラゴン』に攻撃！アルティメット・パ〜ウインド！」

やはり、バトルは拳が一番なの〜ネ！まさに男の浪漫！

でも、永理は騙し討ちや不意打ちを好むって言ってたノ〜ネ……。教師としては少し、心配なの〜ネ。

「ぐっ、だがこいつの効果を使わせてもらっぜ！手札から『ツインゲーム・ガジェット』を墓地へ捨て、コイントスをする！

コイントスが表なら戦闘ダメージを0に、裏ならデッキからレベル4以下のモンスターを1体、特殊召喚する！

さあ、運命のコイントス！」

なんなの〜ネ!? そのチート効果は!??

永理……。これも売ったノ〜ネ!?!??

ゴホン!。。。コイントスの結果は裏、キースはデッキからツインバレル・ドラゴンを特殊召喚したノ〜ネ。

気のせいかな、若干ツインバレルの顔色が悪い気がするノ〜ネ。

「構わないノ〜ネ！『古代の機械獣』で『ツインバレル・ドラゴン』を攻撃なノ〜ネ！プレシヤス・ファンゲ！」

さすがに2枚目はもう、無い筈なノ〜ネ！この勝負、貰ったノ〜ネ！

「手札から速攻魔法『ツイスター』を発動なノ〜ネ！『歯車街』を破壊なノ〜ネ！」

「わざわざ自分のカードを破壊！？何考えてやる！」

「・・・結構ヤバイデース・・・。」

むひよひよ、このカードは永理から2100円で買ったカードなノ〜ネ！

・・・意外と高かったノ〜ネ・・・。おかげでいつもは買うワインが買えなかつたノ〜ネ・・・。

ま、まあいいノ〜ネ。そんな小さい事は・・・。ナポレオン教頭に馬鹿にされたけど・・・。

「『歯車街』の効果発動なノ〜ネ！デッキから『古代の機械巨竜』を特殊召喚なノ〜ネ！」

『古代の機械巨竜』で直接攻撃！ガジェル・サイクロン！」

んふふ、このデッキの展開力は素晴らしいノ〜ネ！永理から買ったカードを加えてこんなにも素晴らしい展開力になると〜は！

んん？永理がなにかドロップアウト・ボーイに言っているノ〜ネ。

「なあ十代、巨竜が巨乳に聞こえた俺は末期なのかな？」

「ただの思春期だ。」

それはただの思春期なノ〜ネ・・・。

永理の部屋に前に入ってみたことがありますが、まず目に付くの

は柵に並んだガンQ……。怖かったノ〜ネトラウマなノ〜ネ……。その後見たのはたしか、××××だったノ〜ネ……。まあ、仕方ないノ〜ネ。思春期だし……。

「ぐ、うわあああああ！！」

「カードを伏せ、ターンエンドなノ〜ネ！」

さすがに、この状況ではあのペガサス会長でも覆すことはできないノ〜ネ！この勝負、貰ったノ〜ネ！

……。いや、永理から聞いた事があるノ〜ネ……。その昔、ペガサス会長が使用したレベル1の儀式モンスター。その名も……。サクリファイスと……。でも、さすがに無いでしょ。もしあったとしても、1枚しかデッキに入れていないのであ〜れば、そのカードを引く確率はほぼ無いに等しいノ〜ネ。

「これはだいぶと不味いデスね。私のターン！ドロー！」

『トウーン・ゴッド』を召喚デース！『トウーン・ゴッド』の効果で、デッキから『イリュージョンの儀式』を手札に加えマース！儀式魔法『イリュージョンの儀式』を発動デース！手札の『洗顔の邪教神』を生贄に『サクリファイス』を儀式召喚デース！」

出てきたノ〜ネ……。最悪なノ〜ネ……。

やっぱりこの人もチートドローだったノ〜ネ……。だけど、まだ甘いノ〜ネ！

「『サクリファイス』の効果発動デース！『古代の機械巨竜』を装備デース！」

「甘いノ〜ネ！畏カード！『天罰』！『サクリファイス』の効果は無効にし、破壊するノ〜ネ！」

「・・・ターンエンドデース・・・。」

ふっふっふ、諦めたノ〜ネ！この勝負、私たちの勝ちなノ〜ネ！アレ？これって失敗フラグ？いやでも、ナポレオン教頭のトイ・ジエネラルで直接攻撃し、次のターンに私の古代の機械巨竜で攻撃して勝ちなノ〜ネ！

「私のターンでア〜ル！ドロー！」

「トイ・ジエネラル」の効果発動でア〜ル！1ターンに一度、デッキからトイと名のつくモンスターを1体、特殊召喚できるのでア〜ル！

デッキから「トイ・スパイ」を特殊召喚でア〜ル！バトル！

「トイ・ジエネラル」で「トゥーン・チェミナイ・エルフ」を攻撃でア〜ル！ジエネラル・スピーン！

「トイ・スパイ」で攻撃でア〜ル！ターンエンドでア〜ル！」

うわあ、これもう積んだノ〜ネ・・・さすがに少し、同情するノ〜ネ。

まあいいノ〜ネ。この大会で優勝して、優勝賞品をゲットなノ〜ネ！

「私のターン！ドローによ！」

魔法カード「トレード・イン」！手札の「古代の機械巨竜」を捨て、2枚ドロー！

「ダーク・フラット・トップ」の効果発動なノ〜ネ！墓地の「古代の機械巨竜」を特殊召喚なノ〜ネ！

バトル！「古代の機械巨竜」で直接攻撃！速攻魔法「リミッター解除」発動なノ〜ネ！

続いて、2枚目の「古代の機械巨竜」で直接攻撃なノ〜ネ！「古代の機械巨人」で直接攻撃なノ〜ネ！」

「ちよ、それやり過ぎデース！NOoooooooooooo・・・。」

勝利したノ〜ネ……。信じられないノ〜ネ。これ夢じゃないよね？

『あつ、終わった？勝者、機械族組。はい拍手〜。』

やる気出すノ〜ネ！少しはやる気を出すノ〜ネ！

はあ、なんかすんごく疲れたノ〜ネ……。

視点：久しぶりだな！永理だよ！

歯茎痛い、口が血の味する……。ちなみに作者は、自分の血を舐めて節分に使うあの豆の味したらしい。

俺？血の味好きだけど？眼とかも好きで集めてるけど？

ふう、まあそれは置いといて……。何故アイツがここに居るんだ？……デイヴァイン！

たしかトカゲちゃんにぱつくんちよされた筈……。一人称がおじさんと、俺とキャラが被るではないか！

……。ホセ爺さんも居るし……。

『ワタル絶対チート使ってるだろ……。あつ、第8試合開始……。れいとうビームでカイリニュー撃破！』

ポケモンやってんじゃねえよアバター！

あとデヴァイン共感するな！

ホセは、モンハンやってるし……。なんだこの未来組！？

ジャックが居たらなんだこれは！つて言うよ絶対！

あつ、ピチユツた……。美鈴強いよね。

「『デュエル！』」

あつ、始まつてた。ホセはどんなデュエルしたっけ？
でもさすがに機皇帝は無いよね！

「私のターン！ドロー！」

『ダッシュ・ウォリアー』を召喚！カードを伏せ、ターンエンド！」

ホセのデッキがなんかヤバいんだけど・・・。

ネタデッキだアレ！完璧にネタデッキだアレ！

でも、ダッシュと名のつくモンスターはあんまり無いような・・・。

「ひよひよひよ、俺のターン！ドロー！」

『DT スパイダー・コクーン』を特殊召喚！『ダーク・スパイダー』を召喚！

『ダーク・スパイダー』の効果発動！『DT スパイダー・コクーン』のレベルを2上げるぜ！

レベル1の『ダーク・スパイダー』にレベル7となった『DT スパイダー・コクーン』をダークチューニング！

闇と闇重なりし時、冥府の扉は開かれる。光無き世界へ！ダークシンクロ！出でよ『地底のアラクネー』！」

おお、早速羽蛾に売ったカードを召喚したか、成長したなあいつ。
ダイナソー竜崎には、何売ったっけ？

「カードを2枚伏せ、『地底のアラクネー』の効果！トワイナー・スレッド！『ダッシュ・ウォリアー』を装備だ！ターン終了だ！」

こいつにデッキレシピ売ったったが、インセクト女王を抜かなかつたな・・・。

何故だろう？地底でいいじゃん。

「私のターン！ドロー！」

永続魔法『アポルト』を発動！『アポルト』の効果で『強化人類サイコ』を特殊召喚！速攻魔法『緊急テレポルト』を発動！デッキから『クレボンス』を特殊召喚！

レベル4の『強化人類サイコ』にレベル2の『クレボンス』をチュ
ーニング！

我が深淵に眠りし悪魔よ、殺意の風を纏いこの世界を粉碎せよ！シンクロ召喚！降臨せよ、『サイコ・デビル』！

モンスターを伏せ、カードを2枚場に出そう。ターン終了だ！」

さすがサイキック！ガチデッキ！

えっ？BFだろGj？？セイバーだよ今は。

なんか腹減ってきたな……。今の季節はピザまん美味しいよね！

「わいのターン！ドローや！」

手札の『キラザウルス』を墓地へ捨て、デッキから『ジュラシクワールド』を手札に加えるわ！

フィールド魔法『ジュラシクワールド』を発動！永続魔法『一族の結束』を発動や！『キラザウルス』を召喚！

カードを2枚伏せ、ターン終了や！」

キラザウルスの攻撃力は1800、ジュラシクワールドの効果で300アップして2100、更に一族の結束の効果で攻撃力は2900か……。

中々の出だしだ、褒めてつかわそう。……うん、なんかごめん。

「私のターン！ドロー！」

魔法カード『愚かな埋葬』を発動！デッキから『グラント・コア』

を墓地へ送る！

永続罫『リミット・リバーズ』を発動！墓地の『グランド・コア』を特殊召喚！魔法カード『カオス・ブラスト』を発動！デッキから『バット』を3枚墓地へ送り、『グランド・コア』を破壊する！
「わざわざ、自分のモンスターを破壊やと！？」
「何考えてやがる、プレイミスか！？」

うわあ、TF6の悪夢・・・。

初見ではプレイミスと思うよね。おじさんもそう思ってたよ。

「『ワイズ・コア』の効果発動！」

来るぞ、BF以上の展開力を持つ機皇帝デッキの真の力が・・・！
ああ、地底が吸収されてしまう未来が見えるよ。

「デッキから機皇帝グランエル『グランエンルT』『グランエルA』
『グランエルG』『グランエルC』を特殊召喚！
合体変化、『機皇帝グランエル』！」

合体キター！竜崎も目を輝かせてるし、だれでも興奮するよね！

・・・はい、幼女見てた方が興奮するロリコン主人公ですはい。

「『機皇帝グランエル』の効果発動！シンクロモンスターを吸収
！」

「ひよひよひよ、残念だったな、罫カード！『虫神の加護』を発動
！フィールド上に表側表示で存在する昆虫族モンスターを対象にする
効果モンスターの効果・魔法・罫カードの発動を無効にし破壊する
ぜ！」

おお、昆虫族デッキにちょうどいいカード作ってみたから売ったっ

だが、ここで使ってくれるか。うれしいな俺。
あとホセ、バットは抜いた方が良さぞ。

「ぐっ、カードを伏せ、ターン終了だ！」

「ひよっひよっひよ、俺のターン！ドロー！」

『代打バッター』を召喚！魔法カード『死者の手向け』を発動！手札の『ゴキボール』を墓地へ捨て、『代打バッター』を破壊するぜ！

『代打バッター』の効果発動！手札から『地縛神Uru』を特殊召喚するぜ！そして装備魔法『火器付機甲鎧』を『地縛神Uru』に装備！

永続魔法『一族の結束』を発動するぜ！バトル！『地縛神Uru』でデイヴァインに攻撃！ヘル・スレッド！」

ルドガーより操るの美味いなこいつ。・・・ダークシグナーに最適なんじゃね？

未来世界へなら、いつでも行けるし・・・。

主人公がチートで面白くない？何言ってるんだ、フラグが全く立たないではないか。

・・・ああ、レイちゃんが欲しい。

いやね、姉も好きだけどね。その、血が繋がってるじゃん？つまり、姉弟じゃん？これなんてエロゲ？って話になるのよ。
兄？野郎に興味は無い。

「甘い！畏カード『聖なるバリア ミラーフォース』！」

「甘いで！カウンター畏『盗賊の七つ道具』発動や！」

「それも甘いぞ少年！カウンター畏『神の宣告』！」

「まだまだ！畏カード！『神の警告』！」

上からデイヴァイン、竜崎、ホセ、HA GAだ。

・・・なんか凄いなおい！

「ぐ、があああああああ！」

「ひよひよひよ、次は貴様の番だ爺さんよお！『地底のアラクネー』でホセに攻撃！ヘル・スレッド！ターンエンド！」

次のターンプレイヤーは、竜崎か。ホセ爺さん負けたな、残念だ。しかし、誰が予想したでしょうか？まさか羽蛾と竜崎が勝利すると・・・。

「わいのターン！ドローや！」

『暗黒プテラ』を召喚や！バトル！『暗黒プテラ』でホセに攻撃！暗黒プレス！」

名前安易だなおい！
いや、いいけどさ！

『シゲル如きが生意気なんだよ！・・・えっ？終わった？・・・え、勝者、元準優勝者&元優勝者。はい拍手。』

やる気出せよ！

はあ、まあいいや。さて、少しばかり聞いてみるかな？なんでここに居るか・・・。

・・・まさか、俺もパツクンチョよされたりする伏線なのか？それは嫌だな。

「おい、その勾玉髪の人。少しばかり聞きたい事がある。」

「何かな？何も力になれないと思うけど・・・。つてか勾玉って何さ！？」

「気にするな。さて、お前は何故、ここに居る？たしか地縛神に食われた筈だが。」

「あゝ、それね……。話せば長くなるけど……。」「

デイクアインの話によると、目が覚めたらここに居たと……。アレ？じゃあなんでホセはここに？

「大会の景品目当てじゃ。」「

あ、そうですか……。しょうもないなおい！
えっ？っーかこれで終わり？オチでないよ！

「じゃあ『落とし穴』で落ちとく？」「

「へ？うわああああああ……。」「

「……。大丈夫なのか？」「

「傷つかないぐらいにまでは抑えたから大丈夫でしょ。」「

地縛神には何かの魅力を感じる。・・・そう、ロマンという魅力を・・・。(後

おじさん出しました。

永理「謎のカリスマだよなあいつ。」

俺は悪役キャラが好きだからな。・・・勿論、幼女も好きだぜ？

永理「そうか、俺もだ。」

さて、オリカ紹介エーイ！

『トイ・ワールド』
フィールド魔法

トイと名のつくモンスターは、1ターンに一度だけ、戦闘では破壊されない。

このカードが破壊され墓地へ送られた時、デッキからトイと名のつくモンスターを1体、特殊召喚する。

『トイ・ガード』
通常罫

自分フィールドのトイと名のつくモンスターを対象とするカードを無効にし、破壊する。

『トウーン・ガード』
通常罫

自分フィールドに存在するトゥーンと名のつくモンスターが対象に
選択された時に発動できる。このターン、自分フィールドに表側表
示で存在するトゥーンと名のつくモンスターは、破壊されない。

『トイ・ジエネラル』

レベル7

地属性

攻撃力：2600

守備力：2300

機械族：効果

1ターンに一度、デッキからトイと名のつくモンスターを1体、特
殊召喚する。

このカードが攻撃する場合、相手は魔法、罨を発動できない。

『ツインゲーム・ガジェット』

レベル1

地属性

攻撃力：0

守備力：0

機械族：効果

自分フィールドに存在するモンスターが戦闘で破壊された時、この
カードを墓地へ送り効果を発動できる。コイントスを1回行い以下
の以下の効果を得る。

表：その戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になる。

裏：デッキからレベル4以下のモンスターを1体、特殊召喚する。

『トゥーン・ゴッド』

レベル4

光属性

攻撃力：1400

守備力：1000

天使族：トウーン

このカードは召喚・反転召喚・特殊召喚したターンには攻撃する事ができない。

自分フィールド上に「トウーン・ワールド」が存在し、

相手フィールド上にトウーンモンスターが存在しない場合

このカードは相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる。

フィールド上の「トウーン・ワールド」が破壊された時、このカードを破壊する。

このカードが召喚・反転召喚に成功した時自分のデッキから儀式モンスターまたは

儀式魔法カード1枚を手札に加える事ができる。

『トイ・スパイ』

レベル3

地属性

攻撃力：1300

守備力：2000

機械族：効果

トイと名のつくモンスターが攻撃する場合相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。

このカードが破壊され墓地へ送られた時、手札を2枚捨て、デッキからトイと名のつくモンスターを合計レベルが7になるように特殊召喚できる。

『虫神の加護』

カウンター罠

フィールド上に表側表示で存在する昆虫族モンスターを対象にする効果モンスターの効果・魔法・魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する。

久しぶりに、ガチで忘れていた奴でも・・・。

プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いといて、5人以上で書くと思うからあとオリキャラも募集中だ。感想欄に見た目、性格、使用デッキ、性別などを書いてください。

ついでに使用デッキも。さて、忘れてたアレ。

プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いといて、5人以上で書くと思うからあとオリキャラも募集中だ。感想欄に見た目、性格、使用デッキ、性別などを書いてください。

ついでに使用デッキも。もし書いてなかった場合、作者が勝手に決めます。他にも、ちよっと扱いにくいかな？って時は性格とか、デッキとかを変更するかもですはい。

足、大丈夫？

永理「大丈夫じゃない。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0547v/>

なにかが違うGXと3邪神

2011年10月28日07時02分発行